
<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 防災・減災対策について

(1) 防災・減災対策の重要度について

問1 あなたは、防災・減災対策が重要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

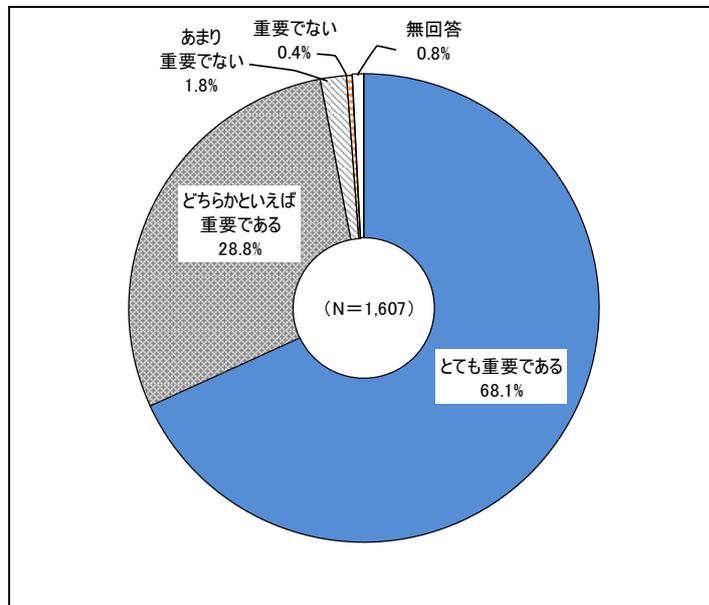
【回答者数=1,607】

1 とても重要である	68.1% (68.6%)
2 どちらかといえば重要である	28.8% (28.4%)
3 あまり重要でない	1.8% (1.8%)
4 重要でない	0.4% (0.4%)
(無回答)	0.8% (0.9%)

防災・減災対策の重要度について、「とても重要である」(68.1%)が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」(28.8%)、「あまり重要でない」(1.8%)、「重要でない」(0.4%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「とても重要である」(68.6%)が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」(28.4%)、「あまり重要でない」(1.8%)、「重要でない」(0.4%)となっている。

図表 1-(1)-1 防災・減災対策の重要度について



防災・減災対策の重要度について、

性別にみると、

「とても重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた【重要である】は『男性』96.1%、『女性』97.7%と、男女ともに9割以上を占める結果となっている。

年齢別にみると、

【重要である】の割合はすべての年齢別で9割以上を占める結果となっている。

職業別にみると、

【重要である】の割合はすべての職業別で9割以上を占める結果となっている。

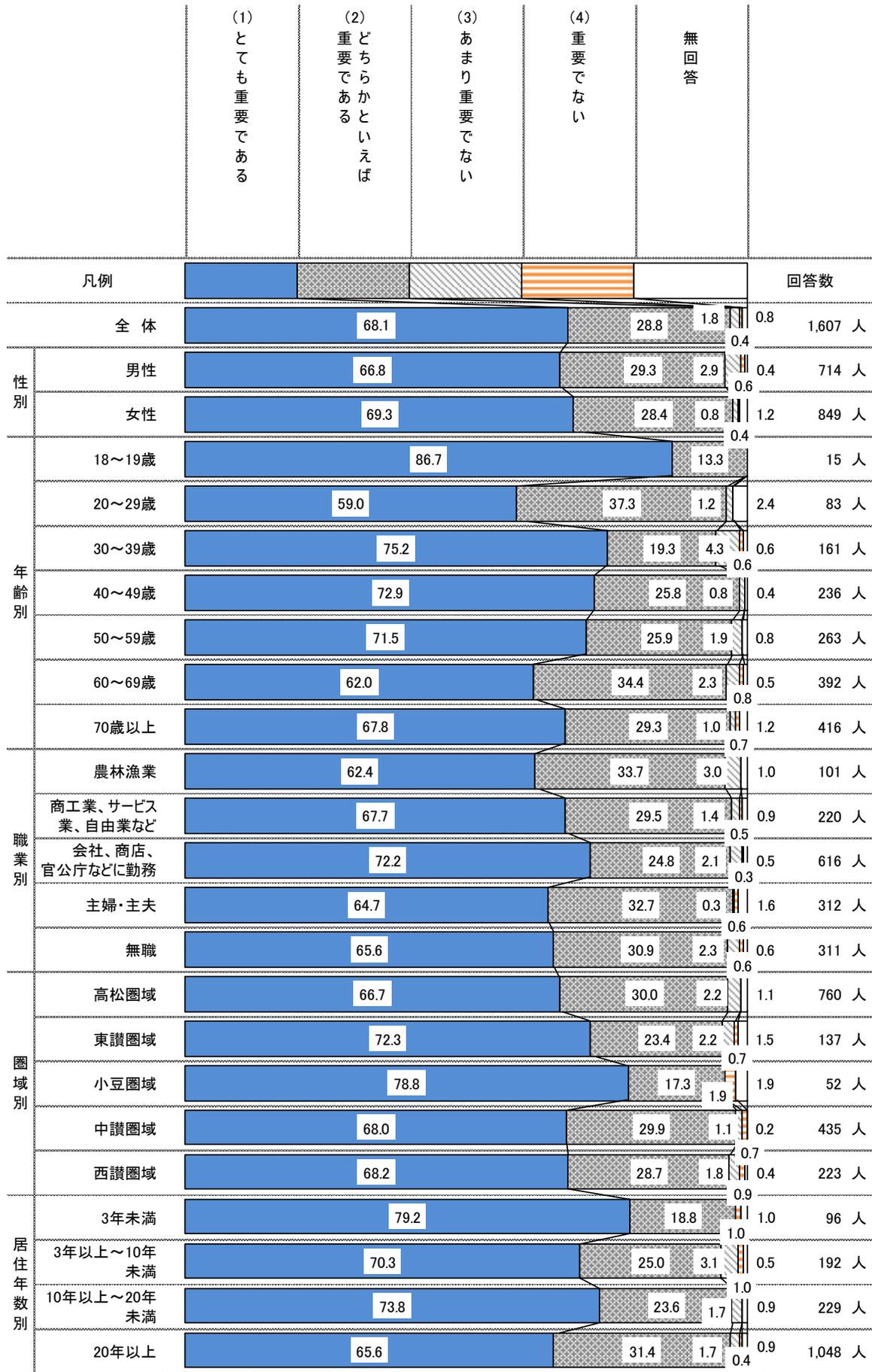
圏域別にみると、

【重要である】の割合はすべての圏域別で9割以上を占める結果となっている。

居住年数別にみると、

【重要である】の割合はすべての居住年数別で9割以上を占める結果となっている。

図表 1-(1)-2 【防災・減災対策の重要度について】



グラフ単位：(%)

(2)防災・減災対策が重要だと思理由について

【問1で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 防災・減災対策が重要だと思理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,558】※回答数の多い順に並び替え

1	自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である	86.5% (86.4%)
2	日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る	75.5% (75.6%)
3	近年、大規模災害が多発している	74.3% (73.6%)
4	防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある	9.8% (10.0%)
5	過去に災害を体験したことがある	7.8% (7.2%)
6	自分の職業と密接に関係している	5.8% (6.2%)
7	その他	1.7% (1.8%)
	(無回答)	0.1% (0.1%)

防災・減災対策が重要だと思理由について、「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」(86.5%)が最も高く、次いで「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」(75.5%)、「近年、大規模災害が多発している」(74.3%)、「防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある」(9.8%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」(86.4%)が最も高く、次いで「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」(75.6%)、「近年、大規模災害が多発している」(73.6%)、「防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある」(10.0%)などとなっている。

図表 1-(2)-1 防災・減災対策が重要だと思理由について

	割合	回答数
全体	100.0	1,558 人
(1) 自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である	86.5	1,347 人
(2) 日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る	75.5	1,176 人
(3) 近年、大規模災害が多発している	74.3	1,158 人
(4) 防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある	9.8	153 人
(5) 過去に災害を体験したことがある	7.8	121 人
(6) 自分の職業と密接に関係している	5.8	90 人
(7) その他	1.7	27 人
無回答	0.1	2 人

グラフ単位：(%)

防災・減災対策が重要だと思う理由について、

性別にみると、

男女とも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が最も高く、『男性』88.6%、『女性』85.9%で、これに『男性』では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」73.3%、『女性』では「近年、大規模災害が多発している」79.1%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」(86.7%)が最も高く、そのほかの年齢別では「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が、『30～39歳』、『70歳以上』では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」が、そのほかの年齢別では「近年、大規模災害が多発している」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8割台と最も高く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」が、そのほかの職業別では「近年、大規模災害が多発している」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8割台で最も高く、これに『東讃圏域』、『西讃圏域』では「近年、大規模災害が多発している」が、そのほかの圏域別では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8割台で最も高く、これに、『10年以上～20年未満』では「近年、大規模災害が多発している」が、そのほかの居住年数別では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」が続いている。

図表 1-(2)-2 【防災・減災対策が重要だと思う理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		全体 (人)	自分や 家族の 生命・ 財産に 直接関 わる問 題であ る	日頃か ら災害 に對し ての備 えをし ておか ないと 、いざ と	近年、 大規模 災害が 多発し ている	防災教 育の場 などで 災害対 策の重 要性を 教えら れたこ と	過去に 災害を 体験し たこと がある	自分の 職業と 密接に 関係し ている	その他	無回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)										
全体		1,558	86.5	75.5	74.3	9.8	7.8	5.8	1.7	0.1
(ウェイトバック集計結果)		1,558	86.4	75.6	73.6	10.0	7.2	6.2	1.8	0.1
性別	男性	686	88.6	73.3	69.7	10.1	7.6	8.3	2.0	0.1
	女性	829	85.9	77.2	79.1	8.9	7.8	3.7	1.6	0.1
年齢別	18～19歳	15	73.3	86.7	46.7	26.7	-	-	6.7	-
	20～29歳	80	91.3	68.8	75.0	16.3	1.3	7.5	-	-
	30～39歳	152	86.8	75.7	67.8	3.9	5.3	17.8	3.9	-
	40～49歳	233	91.0	77.3	81.5	4.7	8.6	8.2	2.1	-
	50～59歳	256	87.5	73.0	77.0	8.2	5.9	6.6	2.0	0.4
	60～69歳	378	88.1	73.5	77.8	11.1	10.3	4.0	1.3	-
	70歳以上	404	83.7	78.2	70.5	11.4	8.7	1.2	1.2	0.2
職業別	農林漁業	97	80.4	70.1	73.2	11.3	13.4	10.3	2.1	-
	商工業、サービス業、 自由業など	214	87.4	75.7	76.2	5.6	8.4	8.4	1.9	-
	会社、商店、官公庁 などに勤務	598	88.5	75.4	75.3	8.0	6.9	9.5	1.3	-
	主婦・主夫	304	88.2	78.3	80.6	10.5	6.6	0.7	2.0	-
	無職	300	85.7	73.3	67.7	13.3	8.3	0.7	2.3	0.7
圏域別	高松圏域	735	85.3	76.7	74.1	9.5	8.2	6.3	1.6	0.1
	東讃圏域	131	87.8	72.5	76.3	10.7	6.1	3.8	3.8	0.8
	小豆圏域	50	86.0	68.0	60.0	12.0	40.0	-	-	-
	中讃圏域	426	87.3	75.6	75.1	10.3	4.7	4.7	1.4	-
	西讃圏域	216	88.0	74.5	75.5	8.8	6.0	8.8	1.9	-
居住年数別	3年未満	94	85.1	73.4	70.2	6.4	9.6	11.7	5.3	-
	3年以上～10年未満	183	88.0	74.3	71.6	7.1	6.0	11.5	2.2	-
	10年以上～20年未満	223	88.8	77.6	81.6	8.5	6.7	6.7	1.3	-
	20年以上	1,017	86.8	75.2	74.4	10.3	8.2	4.1	1.5	0.2

(3)防災・減災対策が重要でないと思う理由について

【問1で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問2 防災・減災対策が重要でないと思う理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=36(35)】※回答数の多い順に並び替え

1	災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う	61.1% (63.9%)
2	防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	44.4% (43.6%)
3	香川県では大規模災害が起こることはないと思う	36.1% (33.6%)
4	事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	16.7% (19.0%)
5	自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	11.1% (11.4%)
6	自分の職業との関わりがあまりない	8.3% (7.0%)
7	その他	5.6% (6.5%)
	(無回答)	0.0% (0.0%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」(61.1%)が最も高く、次いで「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」(44.4%)、「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」(36.1%)、「事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある」(16.7%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」(63.9%)が最も高く、次いで「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」(43.6%)、「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」(33.6%)、「事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある」(19.0%)などとなっている。

図表 1-(3)-1 防災・減災対策が重要でないと思う理由について

		回答数
全体	100.0	36 人
(1) 災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う	61.1	22 人
(2) 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	44.4	16 人
(3) 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	36.1	13 人
(4) 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	16.7	6 人
(5) 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	11.1	4 人
(6) 自分の職業との関わりがあまりない	8.3	3 人
(7) その他	5.6	2 人
無回答	0.0	- 人

グラフ単位：(%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、

性別にみると、

男女とも「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」が最も高く、『男性』60.0%、『女性』70.0%で、これに『男性』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」48.0%、『女性』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」50.0%で続いている。

年齢別にみると、

『50～59歳』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が最も高く、そのほかの年齢別では「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」が高くなっている。

職業別にみると、

『商工業、サービス業、自由業など』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」、「事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある」が高く、そのほかの職業別では「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」が高くなっている。

圏域別にみると、

『西讃圏域』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」が最も高く、そのほかの圏域別では「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」が高くなっている。

居住年数別にみると、

いずれも「災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う」が半数を超えて高くなっている。

図表 1-(3)-2 【防災・減災対策が重要でないと思う理由について】

【表の見方】 単位＝比率(%)	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答
		災害はいつでも発生するかわからないので、対策は不可能だと思う	防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他に	香川県では大規模災害が起こることはないと思う	事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	自分の職業との関わりがあまりない	その他	
全体	36	61.1	44.4	36.1	16.7	11.1	8.3	5.6	-
(ウエイトバック集計結果)	35	63.9	43.6	33.6	19.0	11.4	7.0	6.5	-
性別									
男性	25	60.0	48.0	32.0	20.0	12.0	12.0	4.0	-
女性	10	70.0	30.0	50.0	10.0	10.0	-	10.0	-
年齢別									
18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳	1	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-
30～39歳	8	75.0	12.5	25.0	12.5	12.5	-	12.5	-
40～49歳	2	100.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-
50～59歳	5	40.0	80.0	60.0	-	-	-	-	-
60～69歳	12	58.3	41.7	41.7	16.7	8.3	16.7	-	-
70歳以上	7	57.1	28.6	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	-
職業別									
農林漁業	3	100.0	-	33.3	-	33.3	-	-	-
商工業、サービス業、自由業など	4	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	-	-
会社、商店、官公庁などに勤務	15	73.3	46.7	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7	-
主婦・主夫	3	66.7	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-
無職	9	55.6	44.4	44.4	-	-	11.1	11.1	-
圏域別									
高松圏域	17	64.7	35.3	41.2	17.6	11.8	5.9	5.9	-
東讃圏域	4	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	-	-
小豆圏域	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
中讃圏域	8	62.5	62.5	12.5	12.5	-	-	-	-
西讃圏域	6	50.0	50.0	66.7	16.7	16.7	-	16.7	-
居住年数別									
3年未満	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
3年以上～10年未満	8	62.5	25.0	50.0	25.0	12.5	-	12.5	-
10年以上～20年未満	4	75.0	75.0	25.0	25.0	-	-	-	-
20年以上	22	59.1	40.9	36.4	13.6	13.6	13.6	4.5	-

(4)防災・減災対策の満足度について

問2 あなたは、防災・減災対策について満足されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

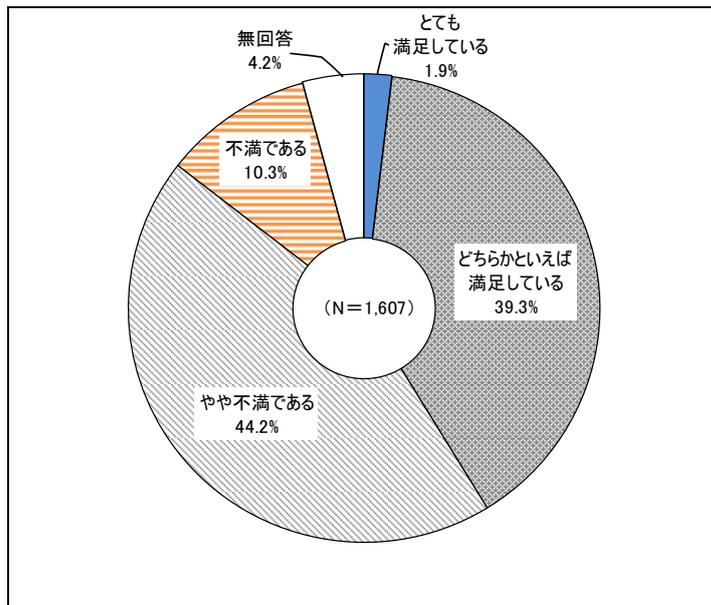
【回答者数=1,607】

1 とても満足している	1.9% (2.0%)
2 どちらかといえば満足している	39.3% (38.5%)
3 やや不満である	44.2% (45.2%)
4 不満である	10.3% (10.4%)
(無回答)	4.2% (4.0%)

防災・減災対策の満足度について、「やや不満である」(44.2%)が最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」(39.3%)、「不満である」(10.3%)、「とても満足している」(1.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「やや不満である」(45.2%)が最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」(38.5%)、「不満である」(10.4%)、「とても満足している」(2.0%)となっている。

図表 1-(4)-1 防災・減災対策の満足度について



防災・減災対策の満足度について、

性別にみると、

「とても満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた【満足している】は『男性』42.5%、『女性』39.9%と、男性が高い。

「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】は『男性』54.3%、『女性』55.0%と、男女であまり差がみられない。

年齢別にみると、

【満足している】の割合は『18～19歳』（53.4%）が高く、『30～39歳』（28.6%）が低い。

【不満である】の割合は『30～39歳』（68.3%）が高く、『70歳以上』（40.9%）が低い。

職業別にみると、

【満足している】の割合は『無職』（50.5%）が高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』（35.7%）が低い。

【不満である】の割合は『商工業、サービス業、自由業など』（61.8%）が高く、『農林漁業』（43.6%）が低い。

圏域別にみると、

【満足している】の割合は『西讃圏域』（46.2%）が高く、『東讃圏域』（33.6%）が低い。

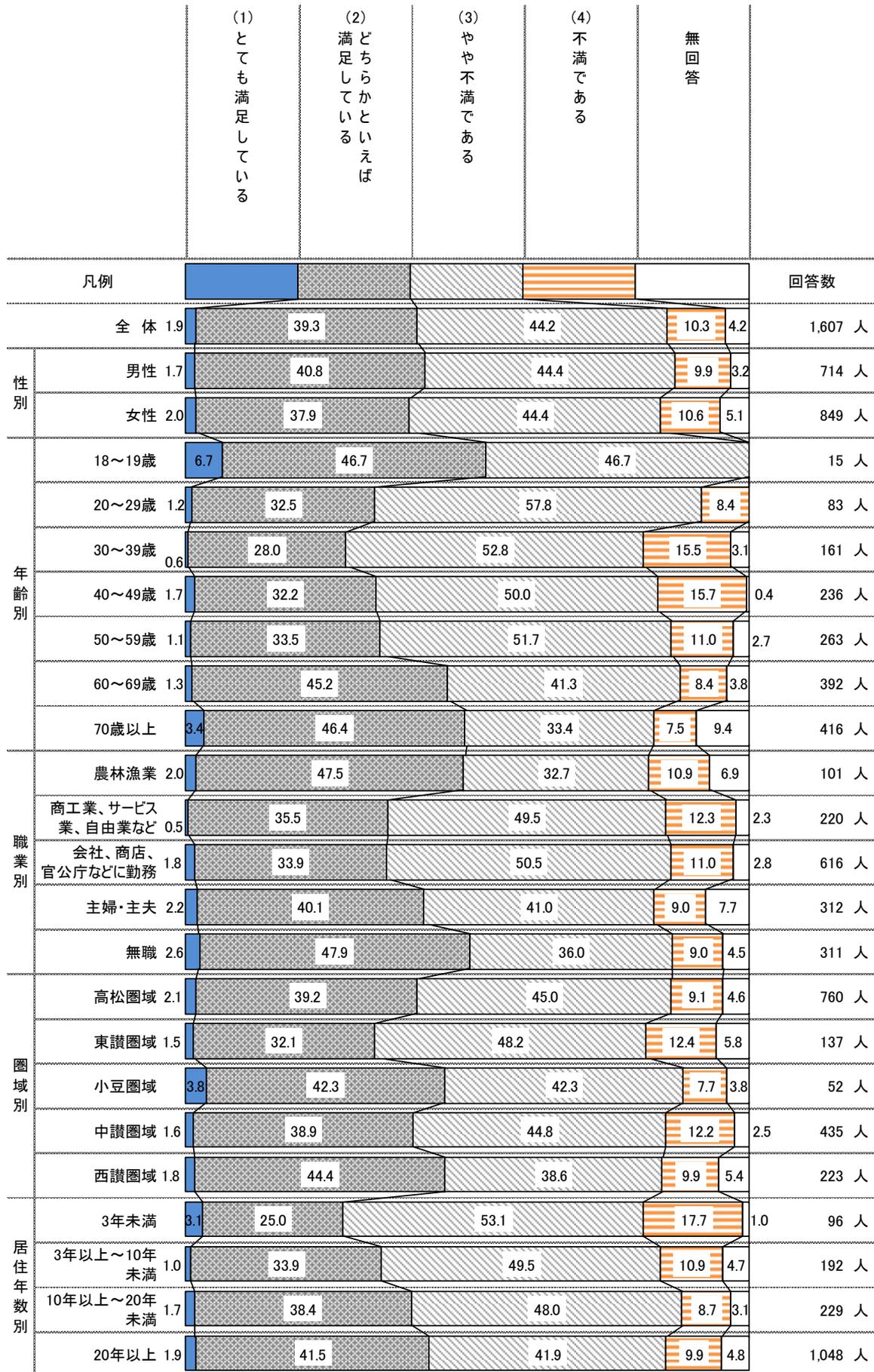
【不満である】の割合は『東讃圏域』（60.6%）が高く、『西讃圏域』（48.5%）が低い。

居住年数別にみると、

【満足している】の割合は『20年以上』（43.4%）が高く、『3年未満』（28.1%）が低い。

【不満である】の割合は『3年未満』（70.8%）が高く、『20年以上』（51.8%）が低い。

図表 1-(4)-2 【防災・減災対策の満足度について】



グラフ単位：(%)

(5)防災・減災対策のうち、満足している取り組みについて

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3 あなたが満足されているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=663(651)】

1 自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	52.6% (52.5%)
2 地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）	50.4% (49.4%)
3 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	47.7% (46.5%)
4 その他	1.5% (1.3%)
(無回答)	0.8% (0.6%)

防災・減災対策のうち、満足している取り組みについて、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」(52.6%)が最も高く、次いで「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」(50.4%)、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」(47.7%)、「その他」(1.5%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」(52.5%)が最も高く、次いで「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」(49.4%)、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」(46.5%)、「その他」(1.3%)となっている。

図表 1-(5)-1 防災・減災対策のうち、満足している取り組みについて

		回答数
全体	100.0	663 人
(1) 自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	52.6	349 人
(2) 地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)	50.4	334 人
(3) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	47.7	316 人
(4) その他	1.5	10 人
無回答	0.8	5 人

グラフ単位：(%)

防災・減災対策のうち、満足している取り組みについて、

性別にみると、

『男性』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が最も高く、『女性』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高くなっている。これに男女とも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」『男性』52.5%、『女性』51.9%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職場で共に助け合うための取り組み）」が最も高く、『18～19歳』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が、そのほかの年齢別では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が高くなっている。これに『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が、『20～29歳』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が、そのほかの年齢別では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が高く、『主婦・主夫』、『無職』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が、そのほかの職業別では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高くなっている。これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が、『主婦・主夫』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの職業別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

圏域別にみると、

『小豆圏域』、『西讃圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高く、そのほかの圏域別では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高くなっている。これに『高松圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの圏域別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

居住年数別にみると、

『20年以上』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高く、『3年未満』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの居住年数別では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が高くなっている。これに『3年未満』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が、『20年以上』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が、そのほかの居住年数別では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が続いている。

図表 1-(5)-2 【防災・減災対策のうち、満足している取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)		
	全体（人）	自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	地域や会社などで取り組む対策（近所や職場で共に助け合うための取り組み）	県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)	全体	663	52.6	50.4	47.7	1.5	0.8
	（ウェイトバック集計結果）	651	52.5	49.4	46.5	1.3	0.6
性別	男性	303	52.5	47.5	54.1	2.0	0.3
	女性	339	51.9	53.4	40.7	1.2	1.2
年齢別	18～19歳	8	50.0	25.0	50.0	-	-
	20～29歳	28	35.7	50.0	32.1	-	-
	30～39歳	46	54.3	47.8	32.6	-	-
	40～49歳	80	50.0	41.3	38.8	1.3	-
	50～59歳	91	39.6	53.8	47.3	1.1	-
	60～69歳	182	49.5	53.8	51.1	2.7	1.6
	70歳以上	207	62.8	51.7	51.7	1.4	1.0
職業別	農林漁業	50	56.0	56.0	50.0	-	4.0
	商工業、サービス業、自由業など	79	40.5	50.6	48.1	-	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	220	50.0	53.2	44.5	0.9	-
	主婦・主夫	132	54.5	53.0	41.7	2.3	1.5
	無職	157	58.6	43.9	53.5	2.5	0.6
圏域別	高松圏域	314	55.7	50.0	46.8	1.3	-
	東讃圏域	46	56.5	50.0	52.2	2.2	-
	小豆圏域	24	45.8	66.7	54.2	-	-
	中讃圏域	176	50.0	44.9	45.5	1.7	1.7
	西讃圏域	103	47.6	57.3	50.5	1.9	1.9
居住年数別	3年未満	27	51.9	51.9	37.0	-	-
	3年以上～10年未満	67	58.2	37.3	32.8	1.5	-
	10年以上～20年未満	92	48.9	45.7	42.4	-	1.1
	20年以上	455	51.9	53.6	50.8	2.0	0.9

(6) 不満に思っている防災・減災対策について

【問2で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問4 あなたが不満に思っているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。次の中からあてはまるものをすべて選び、それに伴う付問5、6、7についても、ご回答ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=876(893)】

1 自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	59.5% (60.1%)
2 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	46.9% (45.4%)
3 地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）	44.9% (44.6%)
4 その他	3.7% (3.8%)
(無回答)	5.5% (5.4%)

不満に思っている防災・減災対策について、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」(59.5%)が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」(46.9%)、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」(44.9%)、「その他」(3.7%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」(60.1%)が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」(45.4%)、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」(44.6%)、「その他」(3.8%)となっている。

図表 1-(6)-1 不満に思っている防災・減災対策について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	876 人
(1) 自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	59.5	521 人
(2) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	46.9	411 人
(3) 地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)	44.9	393 人
(4) その他	3.7	32 人
無回答	5.5	48 人

グラフ単位: (%)

不満に思っている防災・減災対策について、

性別にみると、

男女とも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、『男性』54.9%、『女性』64.5%で、これに『男性』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」49.5%、『女性』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」46.0%が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が高く、そのほかの年齢別では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、これに『20～29歳』、『70歳以上』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの年齢別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、ついで『農林漁業』、『無職』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの職業別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

圏域別にみると、

『小豆圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高く、そのほかの圏域別では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、『中讃圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が、そのほかの圏域別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、ついで『3年未満』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が、そのほかの居住年数別では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が続いている。

図表 1-(6)-2 【不満に思っている防災・減災対策について】

	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	無 回 答
		自分 や家 族で 取り 組む 対策 (自分 の生 命・ 財産 を自 分で 守る ため の取 り組 み)	県 や市 町で 取り 組ん でい る防 災・ 減災 対策	合 域や 会 社な どで 取り 組む 対策 (近 所や 職 域で 共に 助け 合 うた めの 取り 組 み)	そ の 他	
【表の見方】 単位=比率(%)						
全体	876	59.5	46.9	44.9	3.7	5.5
(ウェイトバック集計結果)	893	60.1	45.4	44.6	3.8	5.4
性別						
男性	388	54.9	49.5	44.1	4.1	4.1
女性	467	64.5	45.8	46.0	3.2	5.6
年齢別						
18～19歳	7	57.1	42.9	57.1	-	14.3
20～29歳	55	60.0	30.9	50.9	3.6	1.8
30～39歳	110	70.9	42.7	34.5	4.5	3.6
40～49歳	155	66.5	47.7	41.3	4.5	4.5
50～59歳	165	62.4	57.0	48.5	2.4	4.2
60～69歳	195	55.4	50.8	47.7	1.5	4.1
70歳以上	170	51.2	42.9	46.5	5.9	8.2
職業別						
農林漁業	44	61.4	47.7	50.0	4.5	4.5
商工業、サービス業、 自由業など	136	56.6	42.6	39.7	5.9	8.1
会社、商店、官公庁 などに勤務	379	63.6	49.3	45.9	3.2	3.7
主婦・主夫	156	59.6	48.1	44.2	1.9	5.8
無職	140	55.0	47.1	47.9	4.3	3.6
圏域別						
高松圏域	411	60.3	48.2	44.0	3.2	4.6
東讃圏域	83	61.4	44.6	47.0	2.4	4.8
小豆圏域	26	30.8	34.6	42.3	3.8	19.2
中讃圏域	248	57.7	47.6	47.6	3.6	5.2
西讃圏域	108	65.7	45.4	40.7	6.5	6.5
居住年数別						
3年未満	68	58.8	41.2	47.1	5.9	8.8
3年以上～10年未満	116	69.8	44.8	37.9	0.9	2.6
10年以上～20年未満	130	57.7	48.5	40.0	6.2	5.4
20年以上	543	58.9	48.6	47.5	3.3	4.8

(7) 自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について

【付問4で「1 自分や家族で取り組む対策」と答えた方にお聞きします】

付問5 あなたは、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=521(537)】※回答数の多い順に並び替え

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	59.3% (56.4%)
2 避難場所を決めている	31.3% (30.7%)
3 食料や飲料水を備蓄している	28.0% (27.4%)
4 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	15.0% (14.5%)
5 消火器や消火用のバケツを準備している	13.4% (12.0%)
6 自分の家の耐震性を確保している	13.2% (13.2%)
7 家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めている	11.7% (12.2%)
8 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	11.7% (11.3%)
9 特に何もしていない	23.2% (24.5%)
10 その他	1.2% (1.3%)
(無回答)	0.6% (0.5%)

自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」(59.3%)が最も高く、次いで「避難場所を決めている」(31.3%)、「食料や飲料水を備蓄している」(28.0%)、「特に何もしていない」(23.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」(56.4%)が最も高く、次いで「避難場所を決めている」(30.7%)、「食料や飲料水を備蓄している」(27.4%)、「特に何もしていない」(24.5%)などとなっている。

図表 1-(7)-1 自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	521 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	59.3	309 人
(2) 避難場所を決めている	31.3	163 人
(3) 食料や飲料水を備蓄している	28.0	146 人
(4) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	15.0	78 人
(5) 消火器や消火用のバケツを準備している	13.4	70 人
(6) 自分の家の耐震性を確保している	13.2	69 人
(7) 家族や親類などと、非常時の連絡方法を 決めている	11.7	61 人
(8) 家具や大型電気製品などを固定し、 転倒を防止している	11.7	61 人
(9) 特に何もしていない	23.2	121 人
(10) その他	1.2	6 人
無回答	0.6	3 人

グラフ単位：(%)

自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について、

性別にみると、

男女とも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、『男性』54.9%、『女性』63.1%で、これに「避難場所を決めている」が『男性』30.5%、『女性』31.6%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』では「特に何もしていない」が最も高く、『18～19歳』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」、「家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めている」、「食料や飲料水を備蓄している」、「特に何もしていない」が同率で、そのほかの年齢別では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっている。特に『70歳以上』では8割を越えている。これに『20～29歳』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が、『30～39歳』では「食料や飲料水を備蓄している」が、『50～59歳』では「特に何もしていない」が、『60～69歳』では「避難場所を決めている」、「食料や飲料水を備蓄している」が、そのほかの年齢別では「避難場所を決めている」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超えて最も高く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水を備蓄している」が、そのほかの職業別では「避難場所を決めている」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超えて最も高く、これに『高松圏域』では「避難場所を決めている」、「食料や飲料水を備蓄している」が、『小豆圏域』では「食料や飲料水を備蓄している」が、そのほかの圏域別では「避難場所を決めている」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年未満』では「特に何もしていない」が最も高く、そのほかの居住年数別では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっている。これに、『3年未満』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」、「避難場所を決めている」が、『3年以上～10年未満』では「食料や飲料水を備蓄している」が、そのほかの居住年数別では「避難場所を決めている」が続いている。

図表 1-(7)-2 【自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について】

【表の見方】 単位＝比率(%)	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
		携帯ラジオや懐中電灯を準備している	避難場所を決めている	食料や飲料水を備蓄している	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	消火器や消火用のバケツを準備している	自分の家の耐震性を確保している	家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めている	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	特に何もしていない	その他	
全体	521	59.3	31.3	28.0	15.0	13.4	13.2	11.7	11.7	23.2	1.2	0.6
(ウェイトバック集計結果)	537	56.4	30.7	27.4	14.5	12.0	13.2	12.2	11.3	24.5	1.3	0.5
性別												
男性	213	54.9	30.5	23.9	14.6	12.2	15.5	11.7	11.3	26.3	1.4	1.4
女性	301	63.1	31.6	30.9	15.3	14.6	12.0	11.3	12.3	20.9	1.0	-
年齢別												
18～19歳	4	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0	-	25.0	-	-
20～29歳	33	27.3	24.2	18.2	15.2	-	6.1	6.1	3.0	39.4	3.0	-
30～39歳	78	48.7	29.5	30.8	12.8	9.0	16.7	15.4	14.1	29.5	1.3	-
40～49歳	103	54.4	33.0	24.3	8.7	5.8	23.3	13.6	14.6	25.2	-	-
50～59歳	103	57.3	25.2	24.3	8.7	16.5	10.7	4.9	9.7	27.2	1.0	-
60～69歳	108	67.6	32.4	32.4	19.4	16.7	13.0	8.3	13.0	17.6	-	1.9
70歳以上	87	82.8	40.2	32.2	26.4	25.3	5.7	18.4	11.5	11.5	3.4	1.1
職業別												
農林漁業	27	77.8	29.6	25.9	25.9	25.9	11.1	7.4	3.7	14.8	-	-
商工業、サービス業、自由業など	77	64.9	31.2	26.0	18.2	18.2	19.5	10.4	16.9	22.1	1.3	-
会社、商店、官公庁などに勤務	241	51.0	29.0	29.5	9.5	9.5	14.1	11.2	12.9	27.4	0.4	0.4
主婦・主夫	93	68.8	35.5	32.3	19.4	20.4	8.6	7.5	9.7	18.3	1.1	-
無職	77	64.9	33.8	20.8	19.5	9.1	11.7	19.5	9.1	19.5	3.9	2.6
圏域別												
高松圏域	248	60.9	30.6	30.6	12.9	10.9	14.9	10.9	12.5	23.4	1.2	0.4
東讃圏域	51	60.8	31.4	23.5	15.7	19.6	9.8	13.7	9.8	25.5	-	-
小豆圏域	8	75.0	25.0	37.5	12.5	25.0	-	12.5	12.5	25.0	-	-
中讃圏域	143	55.2	29.4	23.8	18.2	14.7	13.3	11.2	10.5	22.4	1.4	1.4
西讃圏域	71	59.2	38.0	29.6	15.5	14.1	11.3	14.1	12.7	22.5	1.4	-
居住年数別												
3年未満	40	25.0	25.0	17.5	10.0	5.0	20.0	7.5	7.5	45.0	-	-
3年以上～10年未満	81	49.4	29.6	32.1	12.3	6.2	24.7	11.1	17.3	24.7	1.2	-
10年以上～20年未満	75	66.7	29.3	22.7	6.7	10.7	17.3	10.7	14.7	16.0	1.3	-
20年以上	320	65.0	32.8	29.4	18.1	17.2	8.8	12.2	10.3	21.9	1.3	0.9

(8) 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

【付問4で「2 地域や会社などで取り組む対策」と答えた方にお聞きします】

付問6 あなたは、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=393(398)】 ※回答数の多い順に並び替え

1 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	24.7% (26.0%)
2 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	20.1% (17.6%)
3 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	9.7% (8.9%)
4 消防団や自主防災組織の活動に参加している	9.4% (8.3%)
5 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	7.4% (6.5%)
6 防災士の資格を取得している	0.8% (0.8%)
7 特に何もしていない	47.6% (49.2%)
8 その他	1.5% (1.8%)
(無回答)	2.8% (2.4%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、「特に何もしていない」(47.6%)が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」(24.7%)、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」(20.1%)、「新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している」(9.7%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「特に何もしていない」(49.2%)が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」(26.0%)、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」(17.6%)、「新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している」(8.9%)などとなっている。

図表 1-(8)-1 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	393 人
(1) 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	24.7	97 人
(2) 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	20.1	79 人
(3) 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	9.7	38 人
(4) 消防団や自主防災組織の活動に参加している	9.4	37 人
(5) 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	7.4	29 人
(6) 防災士の資格を取得している	0.8	3 人
(7) 特に何もしていない	47.6	187 人
(8) その他	1.5	6 人
無回答	2.8	11 人

グラフ単位：(%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、

性別にみると、

男女とも「特に何もしていない」が最も高く、『男性』46.8%、『女性』48.8%で、これに「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が『男性』25.7%、『女性』24.2%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が最も高く、『60～69歳』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が、そのほかの年齢別では「特に何もしていない」が最も高くなっている。これに『20～29歳』、『60～69歳』では「特に何もしていない」が、『70歳以上』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が、そのほかの年齢別では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」、「特に何もしていない」が高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が、そのほかの職業別では「特に何もしていない」が高くなっている。これに『農林漁業』では「消防団や自主防災組織の活動に参加している」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「特に何もしていない」が、そのほかの職業別では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が続いている。

圏域別にみると、

『小豆圏域』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が最も高く、そのほかの圏域別では「特に何もしていない」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が、『小豆圏域』では「新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している」、「消防団や自主防災組織の活動に参加している」、「特に何もしていない」が、そのほかの圏域別では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「特に何もしていない」が最も高く、これに『20年以上』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」が、そのほかの居住年数別では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が続いている。

図表 1-(8)-2 【地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		全体（人）	勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	隣近所で、高齢者や身体が必要な人を把握している	新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	消防団や自主防災組織の活動に参加している	自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	防災士の資格を取得している	特に何もしていない	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)											
全体		393	24.7	20.1	9.7	9.4	7.4	0.8	47.6	1.5	2.8
(ウェイトバック集計結果)		398	26.0	17.6	8.9	8.3	6.5	0.8	49.2	1.8	2.4
性別	男性	171	25.7	18.7	9.9	13.5	9.4	1.8	46.8	1.8	1.2
	女性	215	24.2	20.9	8.8	5.6	5.1	-	48.8	1.4	3.3
年齢別	18～19歳	4	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	20～29歳	28	46.4	3.6	7.1	-	-	3.6	42.9	7.1	-
	30～39歳	38	31.6	2.6	2.6	2.6	2.6	-	63.2	-	-
	40～49歳	64	37.5	12.5	10.9	7.8	4.7	-	45.3	-	1.6
	50～59歳	80	31.3	12.5	6.3	11.3	5.0	1.3	48.8	1.3	3.8
	60～69歳	93	20.4	35.5	17.2	11.8	10.8	1.1	34.4	1.1	3.2
	70歳以上	79	3.8	30.4	6.3	11.4	11.4	-	57.0	2.5	2.5
職業別	農林漁業	22	13.6	40.9	4.5	18.2	-	-	40.9	4.5	4.5
	商工業、サービス業、自由業など	54	14.8	22.2	13.0	13.0	9.3	-	48.1	3.7	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	174	46.0	13.8	10.3	6.3	6.3	1.1	36.8	1.7	1.7
	主婦・主夫	69	1.4	21.7	7.2	8.7	7.2	-	59.4	-	7.2
	無職	67	6.0	25.4	7.5	10.4	9.0	1.5	67.2	-	-
圏域別	高松圏域	181	24.3	15.5	8.3	6.6	7.2	-	50.8	1.7	3.9
	東讃圏域	39	25.6	33.3	15.4	12.8	7.7	5.1	35.9	-	5.1
	小豆圏域	11	18.2	54.5	27.3	27.3	18.2	-	27.3	-	-
	中讃圏域	118	22.9	20.3	7.6	10.2	5.1	-	50.8	1.7	0.8
	西讃圏域	44	31.8	18.2	11.4	11.4	11.4	2.3	40.9	2.3	2.3
居住年数別	3年未満	32	31.3	6.3	6.3	3.1	6.3	-	62.5	-	-
	3年以上～10年未満	44	29.5	9.1	4.5	4.5	-	2.3	56.8	2.3	2.3
	10年以上～20年未満	52	26.9	15.4	13.5	3.8	5.8	1.9	40.4	1.9	9.6
	20年以上	258	22.9	24.4	9.7	11.6	8.5	0.4	46.1	1.6	1.2

(9) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策について

【付問4で「3 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」と答えた方にお聞きします】

付問7 あなたは、現在、県や市町で取り組んでいる防災・減災対策のうち、どのような点について不満に思っていますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=411(405)】※回答数の多い順に並び替え

1	県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない	47.2% (48.7%)
2	避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	32.4% (31.3%)
3	命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	26.0% (25.4%)
4	災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	22.4% (21.2%)
5	避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	21.4% (20.9%)
6	保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	19.5% (20.0%)
7	堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	19.2% (18.7%)
8	住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	16.3% (16.9%)
9	避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	15.1% (15.6%)
10	県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	13.4% (13.2%)
11	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.9% (11.5%)
12	その他	2.9% (2.7%)
	(無回答)	3.4% (3.5%)

県や市町で取り組んでいる防災・減災対策について、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない」(47.2%)が最も高く、次いで「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」(32.4%)、「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」(26.0%)、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」(22.4%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない」(48.7%)が最も高く、次いで「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」(31.3%)、「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」(25.4%)、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」(21.2%)などとなっている。

図表 1-(9)-1 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	411 人
(1) 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない	47.2	194 人
(2) 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	32.4	133 人
(3) 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	26.0	107 人
(4) 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	22.4	92 人
(5) 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	21.4	88 人
(6) 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	19.5	80 人
(7) 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	19.2	79 人
(8) 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	16.3	67 人
(9) 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	15.1	62 人
(10) 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	13.4	55 人
(11) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.9	49 人
(12) その他	2.9	12 人
無回答	3.4	14 人

グラフ単位：(%)

県や市町で取り組んでいる防災・減災対策について、

性別にみると、

男女とも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、『男性』42.7%、『女性』51.9%で、これに「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が『男性』31.8%、『女性』33.2%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高くなっている。特に『18～19歳』では100.0%となっている。これに『40～49歳』では「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」が、そのほかの年齢別では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が最も高く、そのほかの職業別では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高くなっている。これに『農林漁業』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が、『無職』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」が、『商工業、サービス業、自由業など』では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」、「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」が、そのほかの職業別では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が続いている。

圏域別にみると、

『小豆圏域』では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」、「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」が最も高く、そのほかの圏域別では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高くなっている。これに『西讃圏域』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」が、『小豆圏域』では「避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない」、「避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない」、「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が、そのほかの圏域別では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、これに「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が続いている。

図表 1-(9)-2 【県や市町で取り組んでいる防災・減災対策について】

	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
		県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない	避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	備置所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	その他		
全体	411	47.2	32.4	26.0	22.4	21.4	19.5	19.2	16.3	15.1	13.4	11.9	2.9	3.4	
	(ウェイトバック集計結果)	405	48.7	31.3	25.4	21.2	20.9	20.0	18.7	16.9	15.6	13.2	11.5	2.7	3.5
性別	男性	192	42.7	31.8	24.5	21.4	21.9	20.3	25.5	15.1	16.7	13.5	10.9	2.6	3.6
	女性	214	51.9	33.2	27.6	23.8	21.0	19.2	14.0	17.3	12.6	12.6	12.1	3.3	3.3
年齢別	18～19歳	3	100.0	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
	20～29歳	17	58.8	35.3	23.5	23.5	11.8	23.5	17.6	11.8	11.8	5.9	5.9	-	5.9
	30～39歳	47	55.3	19.1	19.1	14.9	19.1	19.1	17.0	19.1	14.9	10.6	14.9	2.1	4.3
	40～49歳	74	52.7	27.0	23.0	14.9	23.0	28.4	16.2	23.0	21.6	13.5	8.1	4.1	-
	50～59歳	94	43.6	33.0	19.1	23.4	22.3	21.3	21.3	10.6	19.1	16.0	9.6	2.1	4.3
	60～69歳	99	47.5	42.4	35.4	30.3	20.2	12.1	19.2	14.1	8.1	13.1	14.1	5.1	1.0
	70歳以上	73	37.0	31.5	30.1	24.7	24.7	19.2	23.3	17.8	9.6	12.3	13.7	1.4	8.2
職業別	農林漁業	21	33.3	38.1	14.3	23.8	28.6	9.5	28.6	9.5	4.8	28.6	9.5	9.5	9.5
	商工業、サービス業、自由業など	58	50.0	27.6	25.9	12.1	25.9	27.6	25.9	13.8	20.7	10.3	17.2	1.7	1.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	187	48.7	33.2	23.5	23.0	19.8	23.0	17.1	18.2	15.0	10.2	11.8	3.7	2.7
	主婦・主夫	75	50.7	34.7	29.3	29.3	16.0	10.7	13.3	17.3	12.0	16.0	9.3	-	4.0
	無職	66	42.4	30.3	33.3	22.7	25.8	16.7	24.2	13.6	13.6	16.7	9.1	3.0	4.5
圏域別	高松圏域	198	50.0	30.8	27.8	23.2	21.7	20.2	20.2	17.7	14.6	13.1	10.1	4.0	1.0
	東讃圏域	37	45.9	32.4	18.9	18.9	29.7	16.2	16.2	13.5	18.9	13.5	21.6	-	2.7
	小豆圏域	9	33.3	55.6	55.6	11.1	33.3	33.3	11.1	22.2	33.3	-	-	-	-
	中讃圏域	118	41.5	36.4	22.0	24.6	18.6	17.8	22.0	15.3	13.6	16.1	12.7	1.7	5.9
	西讃圏域	49	53.1	24.5	28.6	18.4	18.4	20.4	12.2	14.3	14.3	10.2	12.2	4.1	8.2
居住年数別	3年未満	28	57.1	25.0	14.3	14.3	14.3	21.4	21.4	21.4	21.4	7.1	10.7	3.6	-
	3年以上～10年未満	52	55.8	28.8	19.2	13.5	25.0	15.4	19.2	19.2	19.2	13.5	9.6	3.8	1.9
	10年以上～20年未満	63	61.9	31.7	31.7	30.2	20.6	20.6	15.9	15.9	6.3	4.8	11.1	1.6	3.2
	20年以上	264	41.3	34.1	27.3	23.5	21.6	20.1	20.1	15.2	14.8	15.9	12.1	3.0	4.2

(10)自由意見について

【付問7で答えた方にお聞きします】

付問8 回答された選択肢について、具体的な意見があれば記入をお願いします。

164件中意見を抜粋

- 「1. 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかわからない」
- ・ダム、池等の損壊の危険度情報が無い所が多い。液状化現象の発生危険区域情報が無い。
 - ・防災対策の活動内容を知らない。参加しやすい工夫をしてほしい。
- 「2. 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」
- ・自治会等に入会していれば案内されるが集合住宅や分譲地に自治会が無い場合の住人は情報が不十分だと思う。
 - ・防災情報、発令情報の入手方法などの広報充実や情報提供の充実が望まれる。
 - ・情報提供しているのかどうか知らないので市役所に行かなくても情報が得られるようにしてほしい。もっと身近なスーパーやコンビニで手に取って見れるように。
- 「3. 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」
- ・安全な場所への避難、誘導をする責任者人材の認定、養成。
- 「4. 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」
- ・公的機関が半強制で入り、小さな地域ごとでいいので、防災訓練をしないとなかなか人は動かないと思う。
- 「5. 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない」
- ・各家庭に定期的に避難所の場所やマップを配布する。
 - ・避難所までの道のりの安全確認の不備、指定避難所の安全確認不足。
 - ・ハザードマップは作成されても河川の整備とか対策が出来ていない。
- 「6. 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」
- ・住民個人が気がついたら、いつでもそこへ行けば配布してもらえるような場所を確保したり、周知して欲しい。
- 「7. 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない」
- ・河川の残土の撤去が不十分。
 - ・自宅（社宅）の目の前が海だが、堤防が低いと怖い。社宅のため、引っ越すこともできない。堤防の整備をしてほしい。
- 「8. 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない」
- ・最新の防災技術の情報や危ない施設の情報欲しい（事前に対策出来るように）。
 - ・一世帯一世帯に対する細やかさが十分でなく大まかな地域への情報伝達でしかない。
- 「9. 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない」
- ・地域の特徴も理解してその上での対策を考えて欲しい。
- 「10. 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない」
- ・自宅が山の麓なので大雨の際不安である。最近は予測できない雨が降ることが多い。
- 「11. 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない」
- ・消防団員になる方が少なく、又高齢化している。対策が必要。
- 「12. その他」
- ・天災だけでなく、今後あらゆる災難に対して考えてほしい。

(11) 今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

問3 今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,607】※回答数の多い順に並び替え

1	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	49.7% (50.4%)
2	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	48.0% (49.1%)
3	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	41.6% (40.7%)
4	避難所での快適な生活環境づくり	32.2% (32.2%)
5	避難所やハザードマップなどの情報提供	21.7% (22.1%)
6	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	17.7% (17.4%)
7	堤防のかさ上げなどのハード整備	12.8% (13.0%)
8	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	11.7% (11.1%)
9	災害に関する計画の充実	9.3% (9.3%)
10	防災訓練の充実	9.0% (8.4%)
11	ボランティア活動に対する支援体制づくり	8.2% (8.4%)
12	近県との広域応援体制の確立	6.3% (6.6%)
13	その他	2.3% (2.5%)
14	特にない	0.8% (0.7%)
	(無回答)	2.9% (2.7%)

今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」(49.7%)が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」(48.0%)、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」(41.6%)、「避難所での快適な生活環境づくり」(32.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」(50.4%)が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」(49.1%)、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」(40.7%)、「避難所での快適な生活環境づくり」(32.2%)などとなっている。

図表 1-(11)-1 今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	1,607 人
(1) 支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	49.7	798 人
(2) 食料、飲料水、医薬品などの備蓄	48.0	771 人
(3) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	41.6	669 人
(4) 避難所での快適な生活環境づくり	32.2	517 人
(5) 避難所やハザードマップなどの情報提供	21.7	348 人
(6) 防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	17.7	284 人
(7) 堤防のかさ上げなどのハード整備	12.8	205 人
(8) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	11.7	188 人
(9) 災害に関する計画の充実	9.3	149 人
(10) 防災訓練の充実	9.0	145 人
(11) ボランティア活動に対する支援体制づくり	8.2	132 人
(12) 近県との広域応援体制の確立	6.3	102 人
(13) その他	2.3	37 人
(14) 特にない	0.8	13 人
無回答	2.9	46 人

グラフ単位：(%)

今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、性別にみると、

男女とも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高く、『男性』46.6%、『女性』52.2%で、これに「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が『男性』46.1%、『女性』50.1%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が高く、『20～29歳』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」、『60～69歳』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が、そのほかの年齢別では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」、「防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発」が、『20～29歳』、『60～69歳』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が、そのほかの年齢別では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が続いている。

職業別にみると、

『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高く、そのほかの職業別では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が最も高くなっている。これに『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が、そのほかの職業別では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が続いている。

圏域別にみると、

『東讃圏域』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も高く、そのほかの圏域別では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高くなっている。いずれも、これに「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年未満』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」、「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が、そのほかの居住年数別では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が高くなっている。これに『3年未満』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が、『3年以上～10年未満』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が、そのほかの居住年数別では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が続いている。

図表 1-(11)-2 【今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
	全体（人）	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	避難所での快適な生活環境づくり	避難所やハザードマップなどの情報提供	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	堤防のかさ上げなどのハード整備	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	災害に関する計画の充実	防災訓練の充実	ボランティア活動に対する支援体制づくり	近県との広域応援体制の確立	その他	特になし	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)																	
全体	1,607	49.7	48.0	41.6	32.2	21.7	17.7	12.8	11.7	9.3	9.0	8.2	6.3	2.3	0.8	2.9	
	(ウエイトバック集計結果)	1,607	50.4	49.1	40.7	32.2	22.1	17.4	13.0	9.3	8.4	8.4	6.6	2.5	0.7	2.7	
性別	男性	714	46.6	46.1	38.4	28.4	23.7	18.8	15.4	13.2	10.6	9.9	9.0	6.4	2.8	1.1	2.5
	女性	849	52.2	50.1	44.8	35.5	20.3	17.0	11.0	10.4	8.2	8.2	7.4	6.5	1.8	0.5	2.8
年齢別	18～19歳	15	53.3	53.3	40.0	6.7	20.0	40.0	13.3	-	20.0	-	20.0	6.7	-	-	-
	20～29歳	83	50.6	51.8	33.7	30.1	33.7	12.0	18.1	6.0	8.4	6.0	12.0	9.6	6.0	-	-
	30～39歳	161	55.9	54.0	34.8	38.5	22.4	17.4	14.3	8.1	11.2	5.0	6.8	7.5	3.1	0.6	1.9
	40～49歳	236	56.4	55.9	41.9	40.3	17.8	14.4	14.0	11.4	7.2	8.5	5.9	7.6	2.5	0.4	0.4
	50～59歳	263	47.1	46.4	44.1	36.5	20.5	17.1	12.5	11.0	8.0	6.1	9.1	7.2	3.0	1.1	2.7
	60～69歳	392	44.4	40.1	46.2	27.8	22.4	21.9	13.3	13.3	11.0	13.8	9.2	4.3	1.5	1.0	2.3
	70歳以上	416	50.0	49.8	40.9	28.1	21.6	16.6	10.8	13.5	8.9	9.1	7.0	6.3	1.2	0.7	5.3
職業別	農林漁業	101	45.5	46.5	43.6	27.7	18.8	11.9	14.9	15.8	7.9	14.9	7.9	5.0	2.0	1.0	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	220	44.5	49.5	44.1	29.1	24.5	15.9	14.1	11.8	10.0	7.7	7.3	7.7	2.7	0.9	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	616	52.8	47.4	42.4	36.5	21.8	17.2	13.3	11.2	8.9	8.1	8.9	5.5	3.4	0.8	0.6
	主婦・主夫	312	53.5	50.6	46.5	31.1	19.2	19.6	10.9	10.6	8.3	9.0	7.1	5.1	0.6	0.3	3.8
	無職	311	44.4	46.9	34.7	28.6	23.8	20.6	13.2	12.2	10.9	9.6	7.7	9.3	1.3	1.0	4.2
圏域別	高松圏域	760	49.6	46.8	39.7	33.4	24.6	17.9	12.8	11.3	9.9	8.4	8.7	5.9	1.7	0.8	2.9
	東讃圏域	137	41.6	47.4	49.6	32.8	12.4	14.6	12.4	8.0	6.6	8.8	10.2	5.8	2.9	-	7.3
	小豆圏域	52	55.8	50.0	44.2	34.6	28.8	7.7	13.5	11.5	5.8	5.8	1.9	3.8	3.8	-	3.8
	中讃圏域	435	50.6	48.3	40.9	30.6	20.5	21.6	13.6	14.0	10.3	10.6	7.8	6.4	2.5	0.7	1.1
	西讃圏域	223	51.6	51.1	43.9	30.0	17.9	13.5	11.2	10.8	7.6	9.0	7.6	8.5	3.1	1.8	3.1
居住年数別	3年未満	96	46.9	53.1	28.1	38.5	31.3	18.8	17.7	8.3	9.4	5.2	9.4	8.3	2.1	1.0	-
	3年以上～10年未満	192	53.6	53.6	48.4	37.5	20.3	15.6	13.0	8.9	9.9	7.8	5.7	9.9	2.1	-	1.0
	10年以上～20年未満	229	50.7	50.2	37.6	30.6	21.0	22.7	14.0	8.3	13.1	7.9	7.9	7.4	2.6	1.3	1.3
	20年以上	1,048	49.1	46.5	42.9	31.1	21.4	17.0	12.3	13.2	8.4	9.8	8.5	5.4	2.2	0.8	3.4

2. 地産地消について

(1) 地産地消の認知度について

問4 地産地消という言葉や意味を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

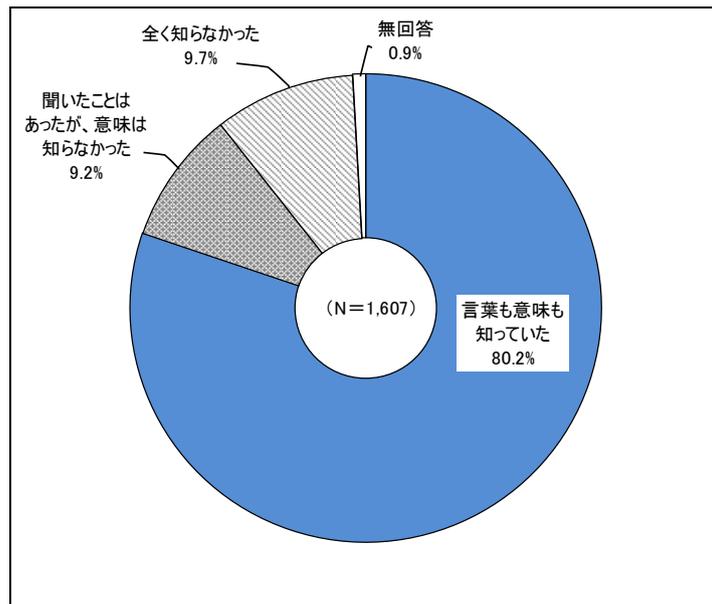
【回答者数=1,607】

1 言葉も意味も知っていた	80.2% (79.7%)
2 聞いたことはあったが、意味は知らなかった	9.2% (9.5%)
3 全く知らなかった	9.7% (9.9%)
(無回答)	0.9% (0.9%)

地産地消の認知度について、「言葉も意味も知っていた」(80.2%)が最も高く、次いで「全く知らなかった」(9.7%)、「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」(9.2%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「言葉も意味も知っていた」(79.7%)が最も高く、次いで「全く知らなかった」(9.9%)、「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」(9.5%)となっている。

図表 2-(1)-1 地産地消の認知度について



地産地消の認知度について、

性別にみると、

男女とも「言葉も意味も知っていた」が最も高く、『男性』81.5%、『女性』80.2%で、これに「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」と「全く知らなかった」を合わせた【知らなかった】が『男性』18.0%、『女性』18.8%となっている。

年齢別にみると、

いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割～9割台で最も高くなっている。

【知らなかった】の割合は『20～29歳』（26.5%）が高く、『18～19歳』（6.7%）が低い。

職業別にみると、

いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割～9割台で最も高くなっている。

【知らなかった】の割合は『無職』（20.9%）が高く、『農林漁業』（9.9%）が低い。

圏域別にみると、

いずれも「言葉も意味も知っていた」が6割～8割台で最も高くなっている。

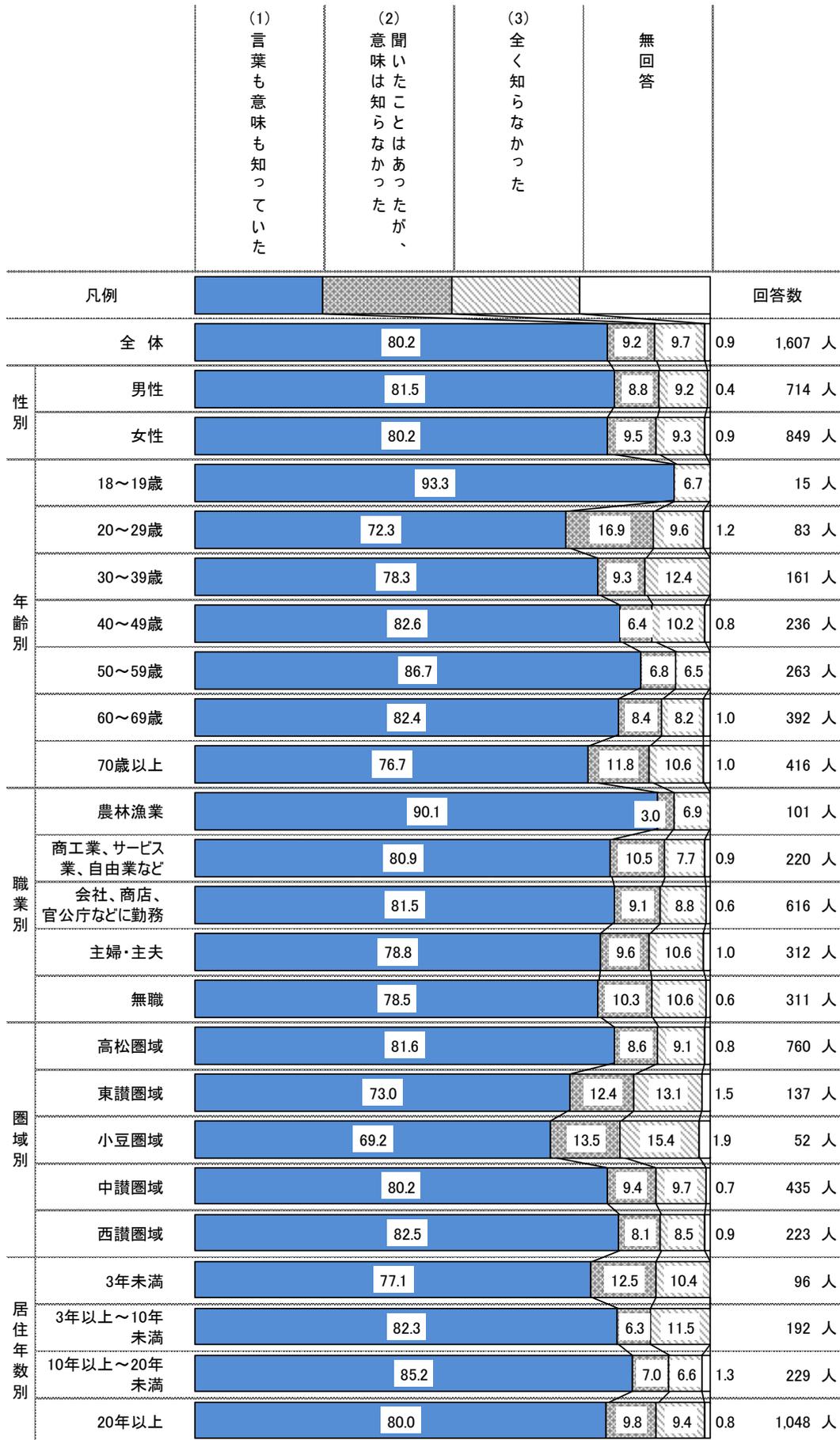
【知らなかった】の割合は『小豆圏域』（28.9%）が高く、『西讃圏域』（16.6%）が低い。

居住年数別にみると、

いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割～8割台で最も高くなっている。

【知らなかった】の割合は『3年未満』（22.9%）が高く、『10年以上～20年未満』（13.6%）が低い。

図表 2-(1)-2 【地産地消の認知度について】



グラフ単位：(%)

(2)産地にこだわって食材を購入しているかについて

問5 あなたの家庭では、産地にこだわって食材を購入していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

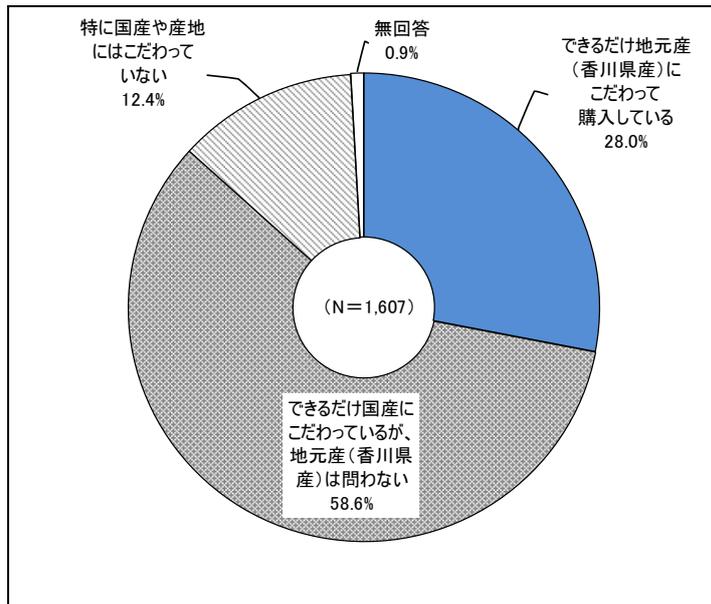
【回答者数=1,607】

1	できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している	28.0% (27.1%)
2	できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない	58.6% (58.6%)
3	特に国産や産地にはこだわっていない	12.4% (13.4%)
	(無回答)	0.9% (0.9%)

産地にこだわって食材を購入しているかについて、「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」（58.6%）が最も高く、次いで「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」（28.0%）、「特に国産や産地にはこだわっていない」（12.4%）となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」（58.6%）が最も高く、次いで「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」（27.1%）、「特に国産や産地にはこだわっていない」（13.4%）となっている。

図表 2-(2)-1 産地にこだわって食材を購入しているかについて



産地にこだわって食材を購入しているかについて、

性別にみると、

男女とも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」が最も高く、『男性』60.2%、『女性』57.8%で、これに「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」が『男性』22.7%、『女性』32.4%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」が半数を超えて最も高くなっている。これに『18～19歳』、『20～29歳』では「特に国産や産地にはこだわっていない」が、そのほかの年齢別では「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」が続いている。

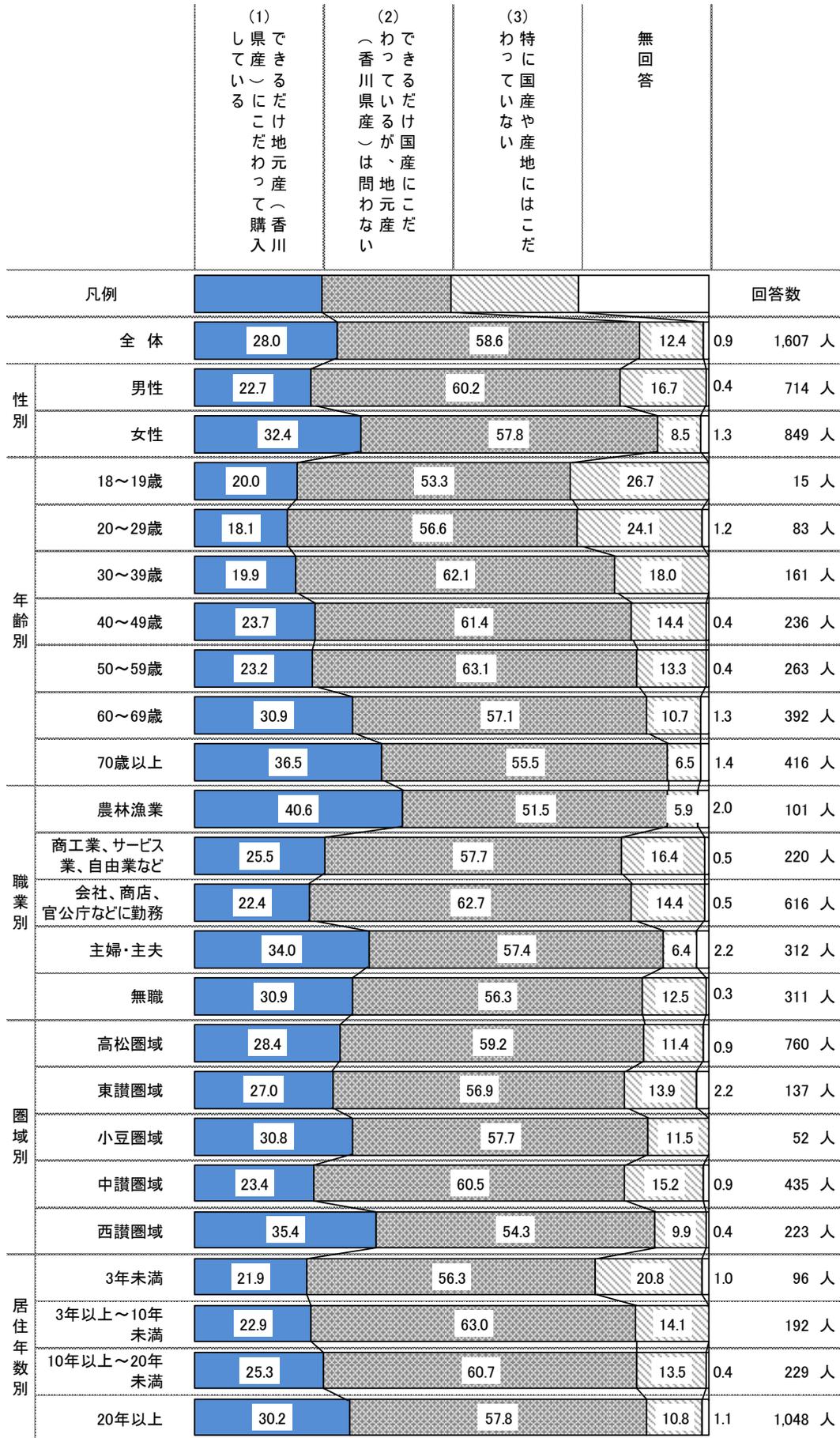
圏域別にみると、

いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産（香川県産）は問わない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「できるだけ地元産（香川県産）にこだわって購入している」が続いている。

図表 2-(2)-2 【産地にこだわって食材を購入しているかについて】



グラフ単位：(%)

(3)産地にこだわって食材を購入している理由について

【問5で「1」と答えた方にお聞きします】

付問9 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=450(436)】※回答数の多い順に並び替え

1	新鮮だから	85.3% (84.6%)
2	安全で安心できる (と思う) から	63.1% (62.1%)
3	旬や季節感が味わえるから	61.1% (59.9%)
4	地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	47.1% (47.4%)
5	地産地消の実践につながるから	41.3% (41.0%)
6	品質が良いから	40.2% (40.4%)
7	おいしいから	39.8% (41.0%)
8	地域の特産物 (伝統野菜、こだわりの野菜など) があるから	34.4% (34.5%)
9	価格が安いから	27.6% (27.3%)
10	その他	1.3% (1.6%)
	(無回答)	1.6% (1.9%)

産地にこだわって食材を購入している理由について、「新鮮だから」(85.3%)が最も高く、次いで「安全で安心できる (と思う) から」(63.1%)、「旬や季節感が味わえるから」(61.1%)、「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」(47.1%) などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「新鮮だから」(84.6%)が最も高く、次いで「安全で安心できる (と思う) から」(62.1%)、「旬や季節感が味わえるから」(59.9%)、「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」(47.4%) などとなっている。

図表 2-(3)-1 産地にこだわって食材を購入している理由について

		回答数
全体	100.0	450 人
(1) 新鮮だから	85.3	384 人
(2) 安全で安心できる(と思う)から	63.1	284 人
(3) 旬や季節感が味わえるから	61.1	275 人
(4) 地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	47.1	212 人
(5) 地産地消の実践につながるから	41.3	186 人
(6) 品質が良いから	40.2	181 人
(7) おいしいから	39.8	179 人
(8) 地域の特産物(伝統野菜、こだわりの野菜など)があるから	34.4	155 人
(9) 価格が安いから	27.6	124 人
(10) その他	1.3	6 人
無回答	1.6	7 人

グラフ単位：(%)

産地にこだわって食材を購入している理由について、

性別にみると、

男女とも「新鮮だから」が最も高く、『男性』80.2%、『女性』88.7%で、これに「安全で安心できる（と思う）から」が『男性』60.5%、『女性』64.7%で続いている。『女性』では「旬や季節感が味わえるから」も同率で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「おいしいから」が最も高く、そのほかの年齢別では「新鮮だから」が7割～9割台で最も高く、特に『20～29歳』では93.3%と9割を越えている。これに『60～69歳』では「旬や季節感が味わえるから」が、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「新鮮だから」が8割台で最も高く、これに『農林漁業』、『主婦・主夫』では「旬や季節感が味わえるから」が、そのほかの職業別では「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。『商工業、サービス業、自由業など』では「旬や季節感が味わえるから」も同率で続いている。

圏域別にみると、

いずれも「新鮮だから」が8割～9割台で最も高く、これに、いずれも「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。『高松圏域』、『中讃圏域』では「旬や季節感が味わえるから」も同率で続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「新鮮だから」が8割台で最も高く、これに『3年未満』では「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」が、『10年以上～20年未満』では「旬や季節感が味わえるから」が、そのほかの居住年数別では「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。

図表 2-(3)-2 【産地にこだわって食材を購入している理由について】

	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
		新鮮だから	安全で安心できる（と思う）から	旬や季節感が味わえるから	地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	地産地消の実践につながるから	品質が良いから	おいしいから	地域の特産物（伝統野菜、こだわりの野菜など）があるから	価格が安いから	その他	
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体	450	85.3	63.1	61.1	47.1	41.3	40.2	39.8	34.4	27.6	1.3	1.6
（ウェイトバック集計結果）	436	84.6	62.1	59.9	47.4	41.0	40.4	41.0	34.5	27.3	1.6	1.9
性別												
男性	162	80.2	60.5	54.9	48.8	40.7	37.7	33.3	31.5	22.2	2.5	1.2
女性	275	88.7	64.7	64.7	47.3	41.8	42.2	44.4	35.6	30.5	0.7	1.5
年齢別												
18～19歳	3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	33.3	33.3	-	33.3
20～29歳	15	93.3	60.0	60.0	60.0	46.7	53.3	60.0	40.0	26.7	6.7	-
30～39歳	32	81.3	43.8	43.8	59.4	40.6	37.5	37.5	25.0	15.6	3.1	3.1
40～49歳	56	76.8	58.9	55.4	51.8	41.1	32.1	44.6	35.7	33.9	-	1.8
50～59歳	61	85.2	70.5	63.9	44.3	41.0	39.3	42.6	37.7	26.2	-	-
60～69歳	121	88.4	62.8	66.1	46.3	42.1	39.7	33.9	32.2	29.8	0.8	1.7
70歳以上	152	88.2	66.4	63.2	45.4	41.4	43.4	40.1	34.2	26.3	2.0	0.7
職業別												
農林漁業	41	87.8	53.7	78.0	56.1	46.3	34.1	36.6	51.2	34.1	-	2.4
商工業、サービス業、自由業など	56	89.3	60.7	60.7	51.8	42.9	39.3	42.9	30.4	28.6	-	-
会社、商店、官公庁などに勤務	138	83.3	59.4	56.5	45.7	39.1	39.1	39.9	31.2	20.3	2.9	0.7
主婦・主夫	106	89.6	67.0	71.7	45.3	46.2	45.3	43.4	34.9	35.8	0.9	2.8
無職	96	82.3	68.8	50.0	47.9	36.5	39.6	37.5	32.3	26.0	1.0	1.0
圏域別												
高松圏域	216	82.9	64.8	64.8	47.7	39.8	39.4	42.1	35.6	25.5	0.9	1.4
東讃圏域	37	86.5	67.6	56.8	51.4	43.2	40.5	40.5	35.1	21.6	-	2.7
小豆圏域	16	81.3	75.0	56.3	43.8	37.5	37.5	62.5	37.5	25.0	-	6.3
中讃圏域	102	84.3	57.8	57.8	45.1	44.1	39.2	34.3	34.3	25.5	2.9	2.0
西讃圏域	79	93.7	60.8	58.2	46.8	41.8	44.3	35.4	30.4	39.2	1.3	-
居住年数別												
3年未満	21	81.0	57.1	61.9	71.4	61.9	38.1	38.1	28.6	14.3	9.5	-
3年以上～10年未満	44	84.1	63.6	56.8	45.5	34.1	38.6	36.4	29.5	25.0	-	-
10年以上～20年未満	58	84.5	58.6	60.3	44.8	32.8	32.8	39.7	27.6	32.8	1.7	6.9
20年以上	317	86.4	64.0	62.1	46.7	42.6	42.0	40.7	36.0	27.8	0.9	0.6

(4) 地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由について

【問5で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

付問10 地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,142(1,157)】※回答数の多い順に並び替え

1 価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない	62.0% (61.7%)
2 購入したい地元産の食材が見当たらない	19.7% (19.7%)
3 地元産の食材の価格が手頃でない	18.8% (19.6%)
4 どんな地元産の食材があるのかわからない	17.6% (17.5%)
5 どこで地元産の食材が購入できるのかわからない	12.3% (12.1%)
6 その他	8.0% (7.9%)
(無回答)	6.1% (5.7%)

地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由について、「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」(62.0%)が最も高く、次いで「購入したい地元産の食材が見当たらない」(19.7%)、「地元産の食材の価格が手頃でない」(18.8%)、「どんな地元産の食材があるのかわからない」(17.6%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」(61.7%)が最も高く、次いで「購入したい地元産の食材が見当たらない」(19.7%)、「地元産の食材の価格が手頃でない」(19.6%)、「どんな地元産の食材があるのかわからない」(17.5%)などとなっている。

図表 2-(4)-1 地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,142 人
(1) 価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない	62.0	708 人
(2) 購入したい地元産の食材が見当たらない	19.7	225 人
(3) 地元産の食材の価格が手頃でない	18.8	215 人
(4) どんな地元産の食材があるのかわからない	17.6	201 人
(5) どこで地元産の食材が購入できるのかわからない	12.3	140 人
(6) その他	8.0	91 人
無回答	6.1	70 人

グラフ単位: (%)

地元産（香川県産）の食材にこだわらない理由について、

性別にみると、

男女とも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が最も高く、『男性』61.4%、『女性』63.4%で、これに『男性』では「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、『女性』では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が最も高く、そのほかの年齢別では「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が半数を超えて最も高くなっている。これに『18～19歳』では「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」、「地元産の食材の価格が手頃でない」が、『20～29歳』では「地元産の食材の価格が手頃でない」、「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、『70歳以上』では「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、『50～59歳』、『60～69歳』では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が、そのほかの年齢別では「地元産の食材の価格が手頃でない」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が最も高く、これに『農林漁業』では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が、『主婦・主夫』では「購入したい地元産の食材が見当たらない」、「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、『無職』では「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、そのほかの職業別では「地元産の食材の価格が手頃でない」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が最も高く、これに『高松圏域』では「地元産の食材の価格が手頃でない」が、『東讃圏域』では「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、そのほかの圏域別では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が6割台で最も高く、これに『20年以上』では「どんな地元産の食材があるのかわからない」が、そのほかの居住年数別では「地元産の食材の価格が手頃でない」が続いている。

図表 2-(4)-2 【地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由について】

	全体(人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無回答
		価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない	購入したい地元産の食材が見当たらない	地元産の食材の価格が手頃でない	どんな地元産の食材があるのかわからない	どこで地元産の食材が購入できるのかわからない	その他	
【表の見方】 単位=比率(%)								
全体	1,142	62.0	19.7	18.8	17.6	12.3	8.0	6.1
(ウエイトバック集計結果)	1,157	61.7	19.7	19.6	17.5	12.1	7.9	5.7
性別								
男性	549	61.4	18.8	18.8	19.1	15.3	8.6	4.4
女性	563	63.4	20.8	19.0	16.2	9.1	7.8	6.7
年齢別								
18～19歳	12	33.3	41.7	33.3	16.7	16.7	-	8.3
20～29歳	67	68.7	16.4	19.4	19.4	9.0	7.5	1.5
30～39歳	129	63.6	17.1	25.6	17.8	12.4	9.3	0.8
40～49歳	179	62.6	20.7	26.3	11.7	7.8	7.8	1.1
50～59歳	201	66.7	18.4	17.9	12.4	9.5	10.9	5.5
60～69歳	266	63.9	22.2	15.4	21.1	12.8	6.4	6.8
70歳以上	258	56.6	19.0	14.0	21.7	17.1	8.1	10.9
職業別								
農林漁業	58	50.0	20.7	15.5	12.1	12.1	10.3	15.5
商工業、サービス業、自由業など	163	62.0	11.0	14.7	13.5	9.2	11.7	8.0
会社、商店、官公庁などに勤務	475	64.4	21.5	22.3	16.4	12.2	7.2	2.9
主婦・主夫	199	64.3	20.6	16.6	20.6	11.1	5.5	5.0
無職	214	60.7	21.5	17.8	22.4	15.4	9.3	7.0
圏域別								
高松圏域	537	63.7	17.1	20.7	16.0	11.5	8.8	5.4
東讃圏域	97	61.9	15.5	15.5	24.7	13.4	9.3	11.3
小豆圏域	36	47.2	33.3	16.7	25.0	16.7	-	11.1
中讃圏域	329	62.6	19.5	17.6	18.5	13.4	6.1	5.5
西讃圏域	143	58.0	29.4	17.5	14.7	10.5	10.5	5.6
居住年数別								
3年未満	74	64.9	9.5	17.6	16.2	12.2	8.1	5.4
3年以上～10年未満	148	61.5	23.0	25.0	16.2	8.8	6.8	3.4
10年以上～20年未満	170	63.5	24.1	25.9	11.8	10.0	7.6	2.9
20年以上	719	62.0	19.2	16.1	19.5	13.4	8.6	6.7

(5) 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用しているかについて

問6 県内には地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供する飲食店がありますが、優先して利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

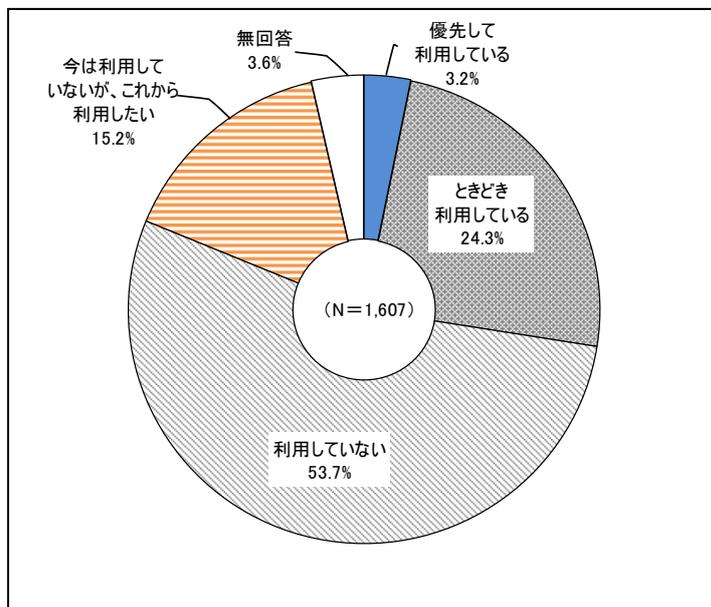
【回答者数=1,607】

1 優先して利用している	3.2% (3.0%)
2 ときどき利用している	24.3% (24.3%)
3 利用していない	53.7% (54.6%)
4 今は利用していないが、これから利用したい (無回答)	15.2% (14.6%) 3.6% (3.5%)

地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用しているかについて、「利用していない」(53.7%)が最も高く、次いで「ときどき利用している」(24.3%)、「今は利用していないが、これから利用したい」(15.2%)、「優先して利用している」(3.2%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「利用していない」(54.6%)が最も高く、次いで「ときどき利用している」(24.3%)、「今は利用していないが、これから利用したい」(14.6%)、「優先して利用している」(3.0%)となっている。

図表 2-(5)-1 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用しているかについて



地元産（香川県産）の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用しているかについて、性別にみると、

「優先して利用している」と「ときどき利用している」を合わせた【利用している】は『男性』25.5%、『女性』28.5%と、男女であまり差が見られない。

「利用していない」は『男性』58.7%、『女性』50.4%と、男性が高い。

「今は利用していないが、これから利用したい」は『男性』12.7%、『女性』17.8%と、女性が高い。

年齢別にみると、

【利用している】の割合は『70歳以上』（35.3%）が高く、『18～19歳』（13.3%）が低い。

【利用していない】の割合は『20～29歳』（66.3%）が高く、『70歳以上』（45.0%）が低い。

「今は利用していないが、これから利用したい」は『60～69歳』（19.4%）が高く、『20～29歳』（10.8%）が低い。

職業別にみると、

【利用している】の割合は『農林漁業』（35.6%）が高く、『無職』（24.7%）が低い。

【利用していない】の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』（59.3%）が高く、『農林漁業』（43.6%）が低い。

「今は利用していないが、これから利用したい」は『主婦・主夫』（19.6%）が高く、『農林漁業』（11.9%）が低い。

圏域別にみると、

【利用している】の割合は『東讃圏域』（34.3%）が高く、『中讃圏域』（23.7%）が低い。

【利用していない】の割合は『中讃圏域』（57.2%）が高く、『東讃圏域』（38.7%）が低い。

「今は利用していないが、これから利用したい」は『東讃圏域』（19.7%）が高く、『高松圏域』（13.0%）が低い。

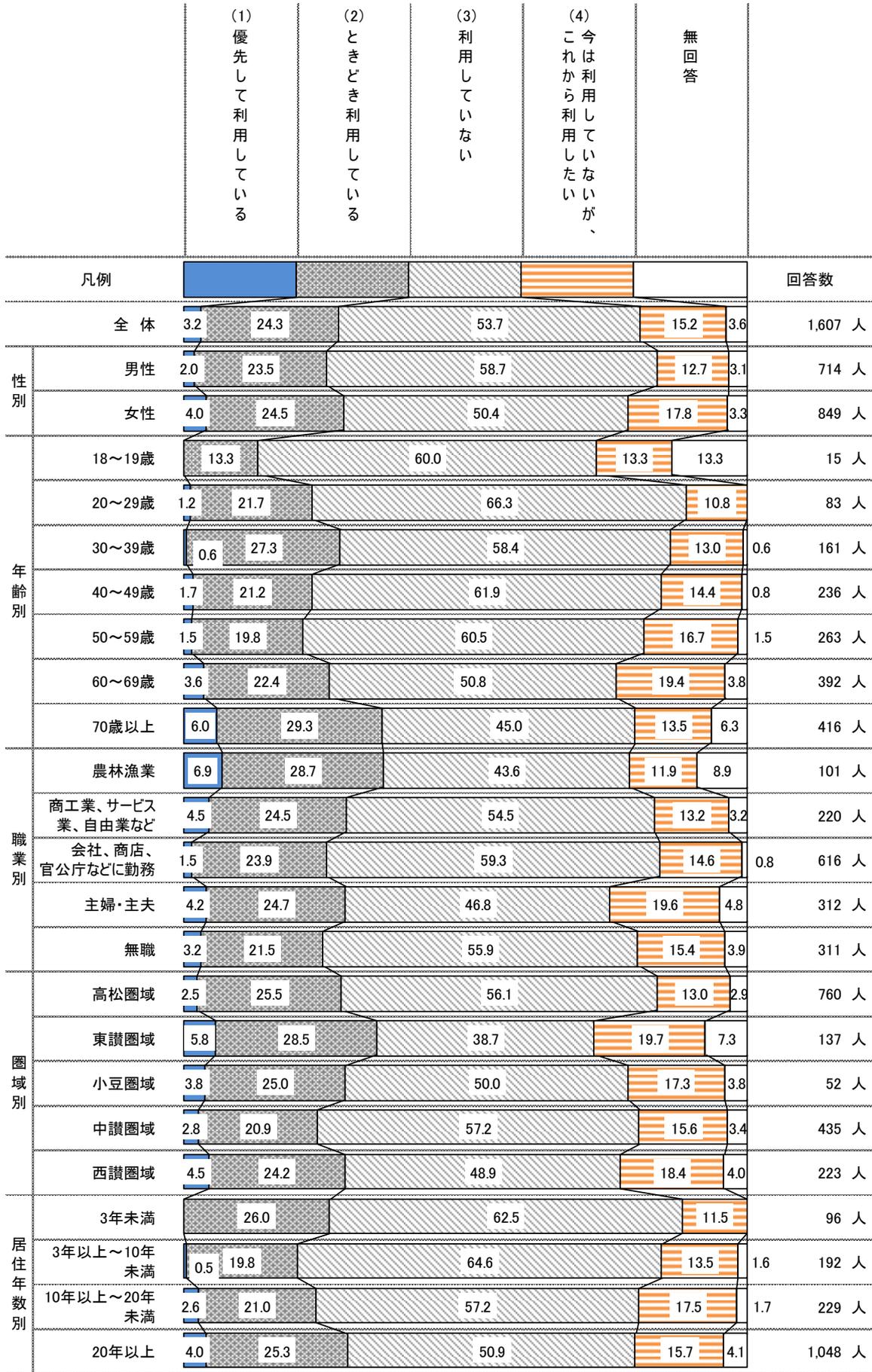
居住年数別にみると、

【利用している】の割合は『20年以上』（29.3%）が高く、『3年以上～10年未満』（20.3%）が低い。

【利用していない】の割合は『3年以上～10年未満』（64.6%）が高く、『20年以上』（50.9%）が低い。

「今は利用していないが、これから利用したい」は『10年以上～20年未満』（17.5%）が高く、『3年未満』（11.5%）が低い。

図表 2-(5)-2 【地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用しているかについて】



グラフ単位: (%)

(6) 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用している理由について

【問6で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問11 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供する飲食店を利用している理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=442(439)】 ※回答数の多い順に並び替え

1 旬や季節感が味わえるから	66.1%(65.2%)
2 新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから	60.6%(58.9%)
3 香川らしい料理が味わえるから	42.5%(43.6%)
4 地産地消の実践につながるから	36.9%(35.7%)
5 本県の農林水産業を応援できるから	26.2%(25.0%)
6 県外客に紹介することができるから	17.6%(17.8%)
7 その他	2.0%(2.2%)
(無回答)	1.6%(1.6%)

地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用している理由について、「旬や季節感が味わえるから」(66.1%)が最も高く、次いで「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」(60.6%)、「香川らしい料理が味わえるから」(42.5%)、「地産地消の実践につながるから」(36.9%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「旬や季節感が味わえるから」(65.2%)が最も高く、次いで「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」(58.9%)、「香川らしい料理が味わえるから」(43.6%)、「地産地消の実践につながるから」(35.7%)などとなっている。

図表 2-(6)-1 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用している理由について

	割合	回答数
全体	100.0	442 人
(1) 旬や季節感が味わえるから	66.1	292 人
(2) 新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから	60.6	268 人
(3) 香川らしい料理が味わえるから	42.5	188 人
(4) 地産地消の実践につながるから	36.9	163 人
(5) 本県の農林水産業を応援できるから	26.2	116 人
(6) 県外客に紹介することができるから	17.6	78 人
(7) その他	2.0	9 人
無回答	1.6	7 人

グラフ単位: (%)

地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用している理由について、性別にみると、

男女とも「旬や季節感が味わえるから」が最も高く、『男性』56.0%、『女性』74.0%で、これに「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が『男性』53.3%、『女性』66.9%が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』、『40～49歳』から『60～69歳』では「旬や季節感が味わえるから」が、『20～29歳』では「香川らしい料理が味わえるから」が、『70歳以上』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が最も高く、『30～39歳』では「旬や季節感が味わえるから」、「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が高くなっている。これに『18～19歳』、『30～39歳』では「香川らしい料理が味わえるから」が、『20～29歳』、『60～69歳』では「旬や季節感が味わえるから」が、そのほかの年齢別では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が続いている。

職業別にみると、

『無職』では「旬や季節感が味わえるから」、「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が、そのほかの職業別では「旬や季節感が味わえるから」が最も高くなっている。これに『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が、『無職』では「香川らしい料理が味わえるから」が、そのほかの職業別では「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

圏域別にみると、

『中讃圏域』、『西讃圏域』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が最も高く、そのほかの圏域別では「旬や季節感が味わえるから」が最も高くなっている。これに『小豆圏域』では「香川らしい料理が味わえるから」が、『高松圏域』、『東讃圏域』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が、そのほかの圏域別では「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「旬や季節感が味わえるから」が6割台で最も高く、いずれも、これに「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が続いている。『3年未満』では「香川らしい料理が味わえるから」も同率が続いている。

図表 2-(6)-2 【地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用している理由について】

	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無 回 答
		旬 や 季 節 感 が 味 わ え る か ら	新 鮮 な 食 材 が 使 わ れ 、 健 康 に 良 い と 思 う か ら	香 川 ら し い 料 理 が 味 わ え る か ら	地 産 地 消 の 実 践 に つ な が る か ら	本 県 の 農 林 水 産 業 を 応 援 で き る か ら	県 外 客 に 紹 介 す る こ と が で き る か ら	そ の 他	
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体	442	66.1	60.6	42.5	36.9	26.2	17.6	2.0	1.6
(ウエイトバック集計結果)	439	65.2	58.9	43.6	35.7	25.0	17.8	2.2	1.6
性別									
男性	182	56.0	53.3	42.9	34.1	31.9	19.8	2.7	1.1
女性	242	74.0	66.9	41.7	38.0	22.3	16.5	1.7	2.1
年齢別									
18～19歳	2	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-
20～29歳	19	63.2	36.8	68.4	15.8	10.5	21.1	5.3	-
30～39歳	45	53.3	53.3	46.7	31.1	28.9	17.8	2.2	-
40～49歳	54	55.6	48.1	37.0	37.0	18.5	31.5	5.6	1.9
50～59歳	56	75.0	71.4	35.7	26.8	23.2	19.6	-	-
60～69歳	102	70.6	58.8	43.1	41.2	34.3	17.6	2.0	-
70歳以上	147	68.0	69.4	40.8	40.8	27.2	12.2	1.4	4.1
職業別									
農林漁業	36	66.7	55.6	38.9	38.9	47.2	16.7	-	-
商工業、サービス業、 自由業など	64	60.9	65.6	34.4	34.4	20.3	23.4	1.6	-
会社、商店、官公庁 などに勤務	156	60.9	55.1	44.2	31.4	24.4	21.2	3.2	0.6
主婦・主夫	90	78.9	64.4	45.6	45.6	24.4	10.0	2.2	4.4
無職	77	66.2	66.2	41.6	35.1	29.9	16.9	1.3	2.6
圏域別									
高松圏域	213	69.5	59.6	39.9	35.2	25.4	20.7	1.4	1.4
東讃圏域	47	68.1	57.4	40.4	34.0	25.5	10.6	-	2.1
小豆圏域	15	73.3	53.3	60.0	53.3	20.0	26.7	13.3	-
中讃圏域	103	61.2	62.1	48.5	39.8	26.2	17.5	3.9	-
西讃圏域	64	59.4	65.6	39.1	35.9	31.3	10.9	-	4.7
居住年数別									
3年未満	25	60.0	52.0	52.0	20.0	16.0	36.0	8.0	-
3年以上～10年未満	39	64.1	51.3	35.9	30.8	12.8	20.5	5.1	-
10年以上～20年未満	54	63.0	46.3	44.4	38.9	25.9	24.1	1.9	3.7
20年以上	307	67.8	65.5	41.7	37.8	29.3	15.0	1.3	1.6

(7) 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用していない理由について

【問6で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問12 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供する飲食店を利用していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,107(1,112)】※回答数の多い順に並び替え

1 地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない	67.4%(66.6%)
2 地元産の食材を使った料理かどうかかわからない	39.9%(38.5%)
3 味や価格などが同じであれば、食材には関心がない	27.3%(28.4%)
4 地元産の食材にこだわったお店が少ない	24.0%(23.3%)
5 地元産の食材を使った料理は、割高に感じる	11.4%(11.8%)
6 その他	9.9%(9.7%)
(無回答)	1.1%(1.0%)

地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用していない理由について、「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」(67.4%)が最も高く、次いで「地元産の食材を使った料理かどうかかわからない」(39.9%)、「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」(27.3%)、「地元産の食材にこだわったお店が少ない」(24.0%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」(66.6%)が最も高く、次いで「地元産の食材を使った料理かどうかかわからない」(38.5%)、「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」(28.4%)、「地元産の食材にこだわったお店が少ない」(23.3%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用していない理由について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,107 人
(1) 地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない	67.4	746 人
(2) 地元産の食材を使った料理かどうかかわからない	39.9	442 人
(3) 味や価格などが同じであれば、食材には関心がない	27.3	302 人
(4) 地元産の食材にこだわったお店が少ない	24.0	266 人
(5) 地元産の食材を使った料理は、割高に感じる	11.4	126 人
(6) その他	9.9	110 人
無回答	1.1	12 人

グラフ単位: (%)

地元産（香川県産）の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用していない理由について、

性別にみると、

男女とも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が最も高く、『男性』64.9%、『女性』69.9%で、これに「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が『男性』40.8%、『女性』39.6%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割～8割台で最も高くなっている。これに『18～19歳』から『30～39歳』では「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」が、『40～49歳』から『70歳以上』では「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。『18～19歳』では「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」も同率で続いている。

職業別にみると、

いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割台で最も高く、いずれも、これに「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割～7割台で最も高く、これに『東讃圏域』では「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」が、そのほかの圏域別では「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割台で最も高く、いずれも、これに「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

図表 2-(7)-2 【地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供している飲食店を利用していない理由について】

	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無 回 答
		ない 地元 産の 食材 にこ だわ った お店 がど こに ある のか わか らな い	地元 産の 食材 を使 った 料理 かど うか がわ から ない	味 や価 格な どが 同じ であ れば 、食 材に は関 心が ない	地元 産の 食材 にこ だわ った お店 が少 ない	地元 産の 食材 を使 った 料理 は、 割高 に感 じる	そ の 他	
【表の見方】 単位=比率(%)								
全体	1,107	67.4	39.9	27.3	24.0	11.4	9.9	1.1
(ウェイトバック集計結果)	1,112	66.6	38.5	28.4	23.3	11.8	9.7	1.0
性別								
男性	510	64.9	40.8	34.7	22.7	10.2	7.1	0.6
女性	579	69.9	39.6	21.2	25.4	12.6	12.3	1.2
年齢別								
18～19歳	11	81.8	36.4	36.4	18.2	9.1	-	-
20～29歳	64	60.9	31.3	39.1	20.3	18.8	7.8	-
30～39歳	115	64.3	29.6	31.3	14.8	12.2	6.1	1.7
40～49歳	180	60.0	32.2	31.7	23.3	12.8	12.2	-
50～59歳	203	67.5	38.9	27.1	23.6	14.8	10.8	0.5
60～69歳	275	74.5	48.7	24.4	28.0	8.4	8.0	1.5
70歳以上	243	67.9	44.9	23.0	26.3	9.1	11.9	1.2
職業別								
農林漁業	56	69.6	44.6	19.6	26.8	5.4	8.9	-
商工業、サービス業、 自由業など	149	65.8	40.9	33.6	24.8	10.7	7.4	1.3
会社、商店、官公庁 などに勤務	455	66.6	36.7	30.8	21.5	13.8	10.1	0.9
主婦・主夫	207	68.6	44.0	21.3	25.1	7.2	10.6	1.4
無職	222	69.8	41.9	24.3	27.5	12.6	10.4	0.5
圏域別								
高松圏域	525	64.6	41.0	28.2	19.6	12.2	10.5	1.0
東讃圏域	80	63.8	30.0	32.5	28.8	10.0	7.5	2.5
小豆圏域	35	62.9	42.9	25.7	37.1	22.9	11.4	2.9
中讃圏域	317	70.0	41.6	27.4	24.6	10.7	9.1	0.9
西讃圏域	150	74.7	37.3	21.3	32.7	8.0	10.7	0.7
居住年数別								
3年未満	71	67.6	28.2	26.8	18.3	15.5	8.5	-
3年以上～10年未満	150	64.7	35.3	30.0	16.0	10.7	8.0	2.7
10年以上～20年未満	171	67.3	36.8	25.1	22.8	16.4	9.9	-
20年以上	698	68.3	43.3	27.5	26.8	10.0	10.3	0.9

(8)引き続き、地産地消を推進していくべきと思うかについて

問7 県では、これまで地産地消の推進に取り組んできましたが、引き続き、地産地消を推進していくべきと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

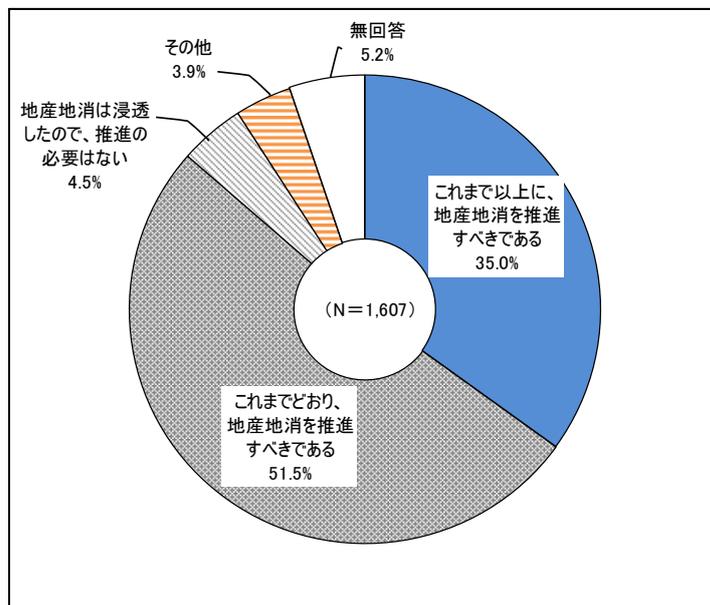
【回答者数=1,607】

1	これまで以上に、地産地消を推進すべきである	35.0% (35.9%)
2	これまでどおり、地産地消を推進すべきである	51.5% (50.7%)
3	地産地消は浸透したので、推進の必要はない	4.5% (4.5%)
4	その他	3.9% (3.9%)
	(無回答)	5.2% (5.0%)

引き続き、地産地消を推進していくべきと思うかについて、「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」(51.5%)が最も高く、次いで「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」(35.0%)、「地産地消は浸透したので、推進の必要はない」(4.5%)、「その他」(3.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」(50.7%)が最も高く、次いで「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」(35.9%)、「地産地消は浸透したので、推進の必要はない」(4.5%)、「その他」(3.9%)となっている。

図表 2-(8)-1 引き続き、地産地消を推進していくべきと思うかについて



引き続き、地産地消を推進していくべきと思うかについて、

性別にみると、

男女とも「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、『男性』48.9%、『女性』54.2%で、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が『男性』35.7%、『女性』34.2%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、そのほかの年齢別では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が、そのほかの年齢別では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、いずれも、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。

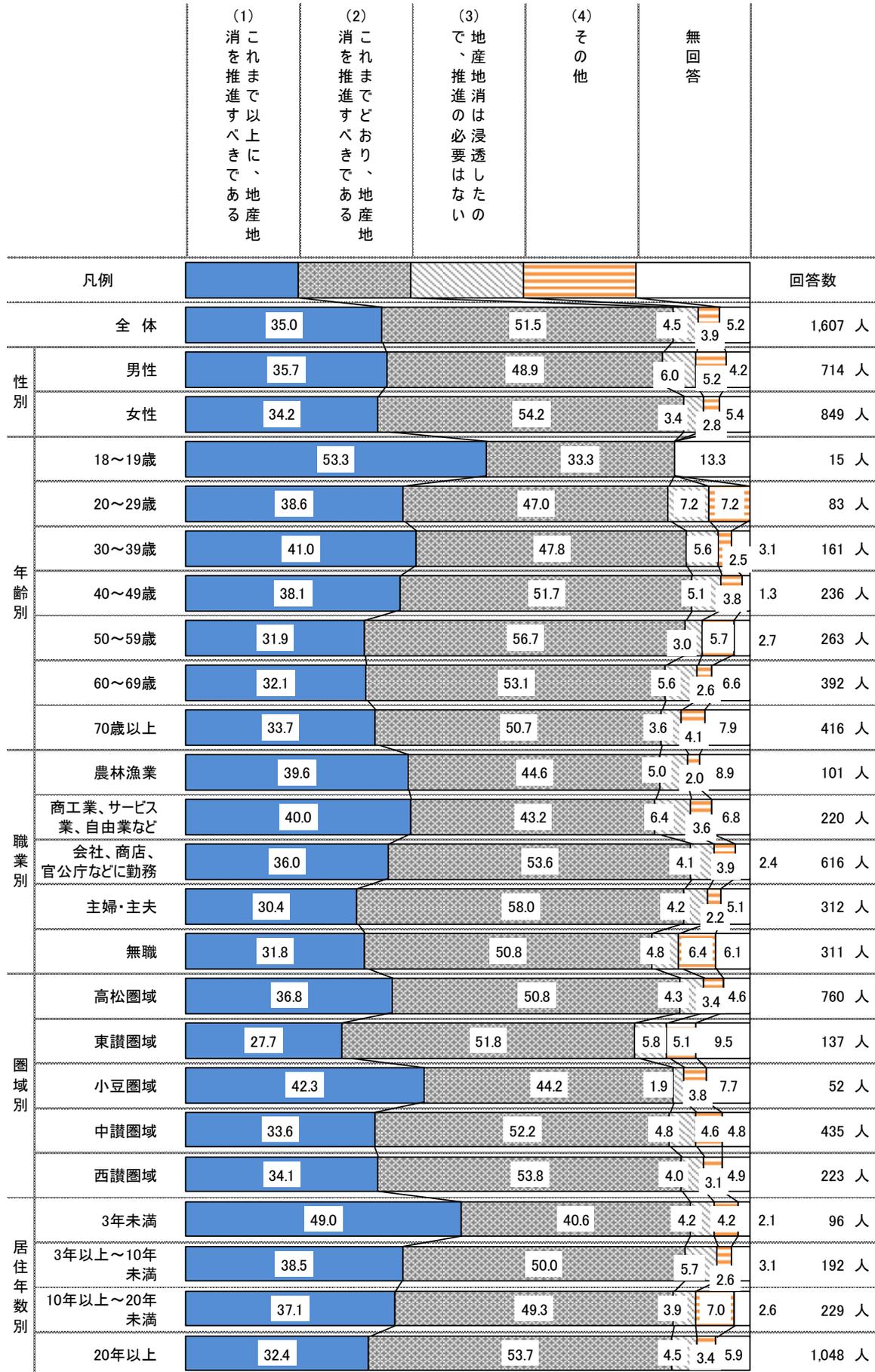
圏域別にみると、

いずれも「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、いずれも、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年未満』では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、そのほかの居住年数別では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高くなっている。これに『3年未満』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が、そのほかの居住年数別では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。

図表 2-(8)-2 【引き続き、地産地消を推進していくべきと思うかについて】



グラフ単位：(%)

(9) 地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思うかについて

【問7で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問13 地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,389(1,391)】※回答数の多い順に並び替え

1	地産地消のメリットをもっとPRする	59.1% (58.9%)
2	香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる	58.0% (56.6%)
3	学校給食において、地元産の食材の利用を進める	52.8% (53.7%)
4	地元産の農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす	41.6% (40.6%)
5	香川県産の農林水産物に関するイベントなどを開催する	40.7% (40.9%)
6	地元産の食材を活かした地域の食文化、たとえば郷土料理を守り伝える	35.8% (35.3%)
7	企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、地元産の食材の利用を増やす	35.2% (35.0%)
8	香川県産の農林水産物の生産拡大とその県内への流通を促進する	25.9% (25.7%)
9	地域の農林水産業についての学習や生産体験、生産者との交流など、食育活動を促進する	23.0% (23.4%)
10	高品質で新鮮な農林水産物の生産に努める	22.9% (22.4%)
11	地元産の食材にこだわった飲食店やホテル・旅館などを増やす	18.8% (19.4%)
12	地産地消推進月間を定めるなど、重点的に地産地消を推進する	13.3% (13.3%)
13	その他	3.0% (3.2%)
	(無回答)	0.7% (0.7%)

地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思うかについて、「地産地消のメリットをもっとPRする」(59.1%)が最も高く、次いで「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」(58.0%)、「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」(52.8%)、「地元産の農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」(41.6%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「地産地消のメリットをもっとPRする」(58.9%)が最も高く、次いで「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」(56.6%)、「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」(53.7%)、「香川県産の農林水産物に関するイベントなどを開催する」(40.9%)などとなっている。

図表 2-(9)-1 地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思うかについて

		回答数
全体	100.0	1,389 人
(1) 地産地消のメリットをもっとPRする	59.1	821 人
(2) 香川県でとれる農林水産物の種類や 出回時期など、情報発信を充実させる	58.0	806 人
(3) 学校給食において、地元産の食材の利用を 進める	52.8	734 人
(4) 地元産の農林水産物を購入できる産直施設 や量販店、小売店などを増やす	41.6	578 人
(5) 香川県産の農林水産物に関するイベントなどを 開催する	40.7	565 人
(6) 地元産の食材を活かした地域の食文化、 たとえば郷土料理を守り伝える	35.8	497 人
(7) 企業や病院、保育所、社会福祉施設などに おいて、地元産の食材の利用を増やす	35.2	489 人
(8) 香川県産の農林水産物の生産拡大と その県内への流通を促進する	25.9	360 人
(9) 地域の農林水産業についての学習や生産 体験、生産者との交流など、食育活動を 促進する	23.0	319 人
(10) 高品質で新鮮な農林水産物の生産に努める	22.9	318 人
(11) 地元産の食材にこだわった飲食店やホテル・ 旅館などを増やす	18.8	261 人
(12) 地産地消推進月間を定めるなど、重点的に 地産地消を推進する	13.3	185 人
(13) その他	3.0	42 人
無回答	0.7	10 人

グラフ単位：(%)

地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思うかについて、

性別にみると、

『男性』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が最も高く 59.8%、『女性』では「地産地消のメリットをもっとPRする」59.1%が最も高くなっている。これに『男性』では「地産地消のメリットをもっとPRする」59.4%、『女性』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」57.6%が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』、『30～39歳』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が最も高くなっている。特に『18～19歳』では92.3%と9割を越えている。『20～29歳』、『40～49歳』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が、『50～59歳』から『70歳以上』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「地域の農林水産物についての学習や生産体験、生産者との交流など、食育活動を促進する」が、『20～29歳』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が、『30～39歳』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が、『40～49歳』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が、『50～59歳』から『70歳以上』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が続いている。

職業別にみると、

『会社、商店、官公庁などに勤務』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が最も高く、そのほかの職業別では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が最も高くなっている。これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が、そのほかの職業別では「地産地消のメリットをもっとPRする」が続いている。

圏域別にみると、

『東讃圏域』、『西讃圏域』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が最も高く、そのほかの圏域別では「地産地消のメリットをもっとPRする」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が、『西讃圏域』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が、そのほかの圏域別では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年以上～10年未満』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が最も高く、『20年以上』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が、そのほかの居住年数別では「地産地消のメリットをもっとPRする」が最も高くなっている。これに『3年未満』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が、『10年以上～20年未満』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が、そのほかの居住年数別では「地産地消のメリットをもっとPRする」が続いている。

図表 2-(9)-2 【地産地消を推進するためには、どのような取り組みが必要と思うかについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答
		地産地消のメリットをもっとPRする	香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報を充実させる	学校給食において、地元産の食材の利用を進める	地元産の農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす	香川県の農林水産物に関するイベントなどを開催する	地元産の食材を活かした地域の食文化、たとえば郷土料理を守り伝える	地元産の食材を増やす	企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、地元産の食材の利用を増やす	香川県の農林水産物の生産拡大とその県内への流通を促進する	地域の農林水産業についての学習や生産体験、生産者との交流など、食育活動を促進する	高品質で新鮮な農林水産物の生産に努める	地元産の食材にこだわった飲食店やホテル、旅館などを増やす	地産地消推進月間を定めるなど、重点的に地産地消を推進する	
全体	1,389	59.1	58.0	52.8	41.6	40.7	35.8	35.2	25.9	23.0	22.9	18.8	13.3	3.0	0.7
(ウエイトバック集計結果)	1,391	58.9	56.6	53.7	40.6	40.9	35.3	35.0	25.7	23.4	22.4	19.4	13.3	3.2	0.7
性別															
男性	604	59.4	59.8	48.7	39.2	40.2	32.9	31.0	28.6	17.5	21.5	17.4	11.9	3.8	0.3
女性	750	59.1	57.6	56.4	43.9	40.9	38.0	39.1	23.6	27.6	23.9	20.3	14.0	2.5	0.7
年齢別															
18～19歳	13	30.8	30.8	92.3	38.5	38.5	46.2	46.2	46.2	61.5	-	23.1	15.4	7.7	-
20～29歳	71	67.6	50.7	52.1	26.8	46.5	28.2	25.4	16.9	19.7	19.7	21.1	12.7	4.2	-
30～39歳	143	56.6	49.0	62.9	30.8	42.7	29.4	39.9	26.6	26.6	17.5	25.9	9.8	3.5	0.7
40～49歳	212	58.0	54.2	51.4	43.9	37.7	27.4	34.4	23.1	25.9	21.2	24.5	9.0	3.3	-
50～59歳	233	51.5	58.8	47.2	41.2	39.1	35.2	32.2	25.8	24.0	23.2	24.0	11.2	4.7	0.4
60～69歳	334	63.5	64.7	53.9	43.7	41.0	35.6	37.4	27.2	23.7	20.1	13.8	12.3	1.8	0.3
70歳以上	351	61.3	61.8	51.3	46.4	40.7	45.0	36.5	27.1	17.9	29.6	13.7	18.8	2.6	1.1
職業別															
農林漁業	85	60.0	68.2	56.5	36.5	38.8	45.9	41.2	30.6	27.1	27.1	17.6	14.1	4.7	-
商工業、サービス業、自由業など	183	54.1	59.6	47.0	43.7	34.4	35.0	31.7	23.5	23.0	24.6	18.6	15.8	4.4	1.1
会社、商店、官公庁などに勤務	552	60.7	53.8	52.7	37.7	40.2	31.0	33.3	23.4	22.6	19.2	22.1	8.9	2.9	0.2
主婦・主夫	276	59.4	61.2	55.1	50.7	41.7	38.4	40.6	26.8	25.0	28.6	17.4	14.5	2.2	0.4
無職	257	59.5	62.6	54.5	41.2	44.7	40.5	36.2	30.0	21.0	21.8	14.8	18.3	3.1	1.2
圏域別															
高松圏域	666	59.0	58.0	53.0	44.1	39.0	34.4	35.7	24.8	23.1	23.6	19.5	15.2	3.6	0.5
東讃圏域	109	51.4	63.3	55.0	35.8	43.1	33.9	40.4	26.6	22.0	20.2	22.9	10.1	-	1.8
小豆圏域	45	64.4	57.8	42.2	51.1	44.4	40.0	31.1	20.0	26.7	24.4	22.2	15.6	2.2	-
中讃圏域	373	62.5	57.4	55.5	41.8	42.6	37.0	33.5	29.8	22.8	24.4	16.1	10.7	2.7	0.8
西讃圏域	196	56.1	56.6	48.5	33.7	40.3	38.3	34.7	23.5	22.4	18.9	18.4	13.3	3.6	1.0
居住年数別															
3年未満	86	65.1	52.3	55.8	36.0	40.7	25.6	34.9	20.9	26.7	20.9	27.9	12.8	5.8	-
3年以上～10年未満	170	52.4	50.0	56.5	39.4	41.2	22.9	35.3	22.9	21.8	18.2	18.8	10.6	4.1	-
10年以上～20年未満	198	58.1	57.6	51.0	39.9	36.9	33.3	28.8	28.8	22.2	22.7	17.7	13.6	3.5	-
20年以上	903	60.1	61.0	52.4	43.1	41.2	39.6	37.1	26.2	23.1	23.8	18.4	13.4	2.5	0.8

3. 動物の愛護と管理について

(1) 動物のことで迷惑を感じたことについて

問8 動物のことで迷惑を感じたことがありますか。それは、どんな動物からですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

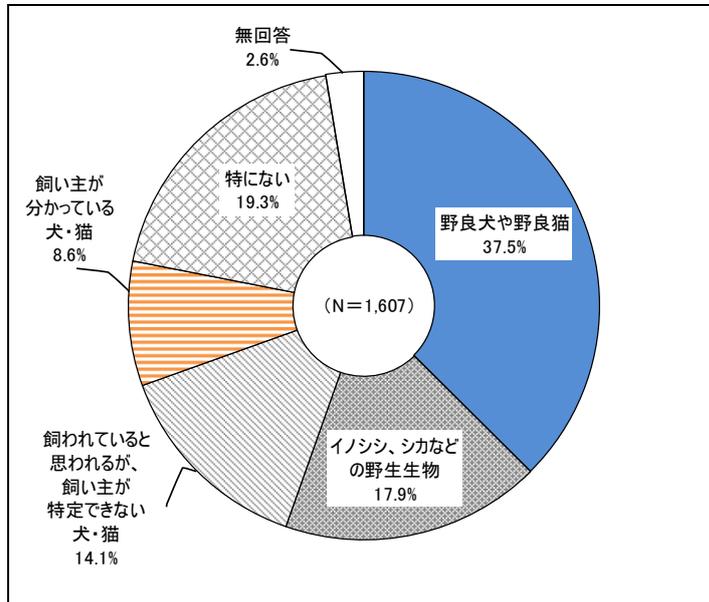
【回答者数=1,607】

1 野良犬や野良猫	37.5% (37.4%)
2 イノシシ、シカなどの野生動物	17.9% (17.6%)
3 飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫	14.1% (13.6%)
4 飼い主が分かっている犬・猫	8.6% (8.4%)
5 特にない	19.3% (20.5%)
(無回答)	2.6% (2.5%)

動物のことで迷惑を感じたことについて、「野良犬や野良猫」(37.5%)が最も高く、次いで「特にない」(19.3%)、「イノシシ、シカなどの野生動物」(17.9%)、「飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫」(14.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「野良犬や野良猫」(37.4%)が最も高く、次いで「特にない」(20.5%)、「イノシシ、シカなどの野生動物」(17.6%)、「飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫」(13.6%)などとなっている。

図表 3-(1)-1 動物のことで迷惑を感じたことについて



動物のことで迷惑を感じたことについて、

性別にみると、

男女とも「野良犬や野良猫」が最も高く、『男性』36.6%、『女性』38.8%で、これに「特にな
い」が『男性』19.7%、『女性』18.5%が続いている。『男性』では「イノシシ、シカなどの野生
動物」も同率が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「特にな
い」が最も高く、そのほかの年齢別では「野良犬や野良猫」が最も
高くなっている。これに『18～19歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「イノシシ、シカなどの
野生動物」が、そのほかの年齢別では「特にな
い」が続いている。『18～19歳』では「野良犬や
野良猫」も同率が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「イノシシ、シカなどの野生動物」が最も高く、そのほかの職業別では「野
良犬や野良猫」が最も高くなっている。これに『農林漁業』では「野良犬や野良猫」が、そのほ
かの職業別では「特にな
い」が続いている。

圏域別にみると、

『小豆圏域』では「イノシシ、シカなどの野生動物」が最も高く、そのほかの圏域別では「野
良犬や野良猫」が最も高くなっている。これに『小豆圏域』では「野良犬や野良猫」が、『高松圏
域』、『中讃圏域』では「特にな
い」が、そのほかの圏域別では「イノシシ、シカなどの野生動物」
が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「野良犬や野良猫」が最も高く、これに、『20年以上』では「イノシシ、シカなどの
野生動物」が、そのほかの居住年数別では「特にな
い」が続いている。

図表 3-(1)-2 【動物のことで迷惑を感じたことについて】

	(1) 野良犬や野良猫	(2) 生イノシシ、シカなどの野動物	(3) 飼い犬・猫が、わが家・飼っている主が特定できない	(4) 犬・猫の飼い主が分かっている	(5) 特にない	無回答				
凡例							回答数			
全体	37.5		17.9	14.1	8.6	19.3	2.6	1,607 人		
性別	男性	36.6		19.7	14.3	8.3	19.7	1.4	714 人	
	女性	38.8		16.6	14.1	8.8	18.5	3.2	849 人	
年齢別	18～19歳	20.0	20.0	13.3		33.3	13.3		15 人	
	20～29歳	38.6		19.3	6.0	4.8	31.3		83 人	
	30～39歳	36.0		16.8	8.7	9.9	28.0	0.6	161 人	
	40～49歳	39.8		13.6	16.9	7.6	21.6	0.4	236 人	
	50～59歳	40.7		17.5	14.8	6.8	18.6	1.5	263 人	
	60～69歳	34.9		22.7	14.0	8.9	15.8	3.6	392 人	
	70歳以上	38.5		16.6	16.1	10.3	14.4	4.1	416 人	
	職業別	農林漁業	23.8		46.5	7.9	8.9	8.9	4.0	101 人
	商工業、サービス業、自由業など	35.9		17.7	15.0	7.3	22.7	1.4	220 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	39.9		17.2	13.6	7.5	20.3	1.5	616 人	
	主婦・主夫	40.4		14.7	14.1	9.3	16.7	4.8	312 人	
	無職	36.0		14.1	16.7	10.6	19.9	2.6	311 人	
圏域別	高松圏域	36.4		14.9	15.3	9.3	22.1	2.0	760 人	
	東讃圏域	30.7		25.5	16.1	7.3	14.6	5.8	137 人	
	小豆圏域	26.9		48.1		9.6	1.9	11.5	1.9	52 人
	中讃圏域	45.7		13.3	12.9	7.4	18.9	1.8	435 人	
	西讃圏域	31.8		25.6	12.1	10.8	15.2	4.5	223 人	
居住年数別	3年未満	40.6		14.6	9.4	12.5	22.9		96 人	
	3年以上～10年未満	31.3	9.9	15.1	12.0		28.6	3.1	192 人	
	10年以上～20年未満	35.4		13.1	17.9	7.4	24.0	2.2	229 人	
	20年以上	39.2		20.8	13.6	7.8	15.8	2.7	1,048 人	

グラフ単位：(%)

(2)お住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思うかについて

問9 あなたのお住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思いますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

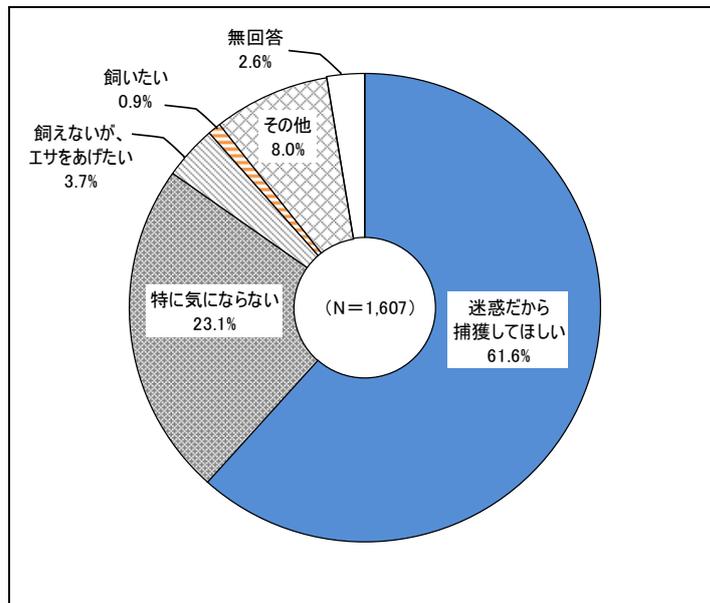
【回答者数=1,607】

1 迷惑だから捕獲してほしい	61.6% (59.5%)
2 特に気にならない	23.1% (24.7%)
3 飼えないが、エサをあげたい	3.7% (4.0%)
4 飼いたい	0.9% (1.1%)
5 その他	8.0% (8.3%)
(無回答)	2.6% (2.4%)

お住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思うかについて、「迷惑だから捕獲してほしい」(61.6%)が最も高く、次いで「特に気にならない」(23.1%)、「その他」(8.0%)、「飼えないが、エサをあげたい」(3.7%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「迷惑だから捕獲してほしい」(59.5%)が最も高く、次いで「特に気にならない」(24.7%)、「その他」(8.3%)、「飼えないが、エサをあげたい」(4.0%)などとなっている。

図表 3-(2)-1 お住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思うかについて



お住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思うかについて、

性別にみると、

男女とも「迷惑だから捕獲してほしい」が最も高く、『男性』63.9%、『女性』60.2%で、これに「特に気にならない」が『男性』25.9%、『女性』20.8%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「迷惑だから捕獲してほしい」が最も高く、いずれも、これに「特に気にならない」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「迷惑だから捕獲してほしい」が半数を超えて最も高く、いずれも、これに「特に気にならない」が続いている。

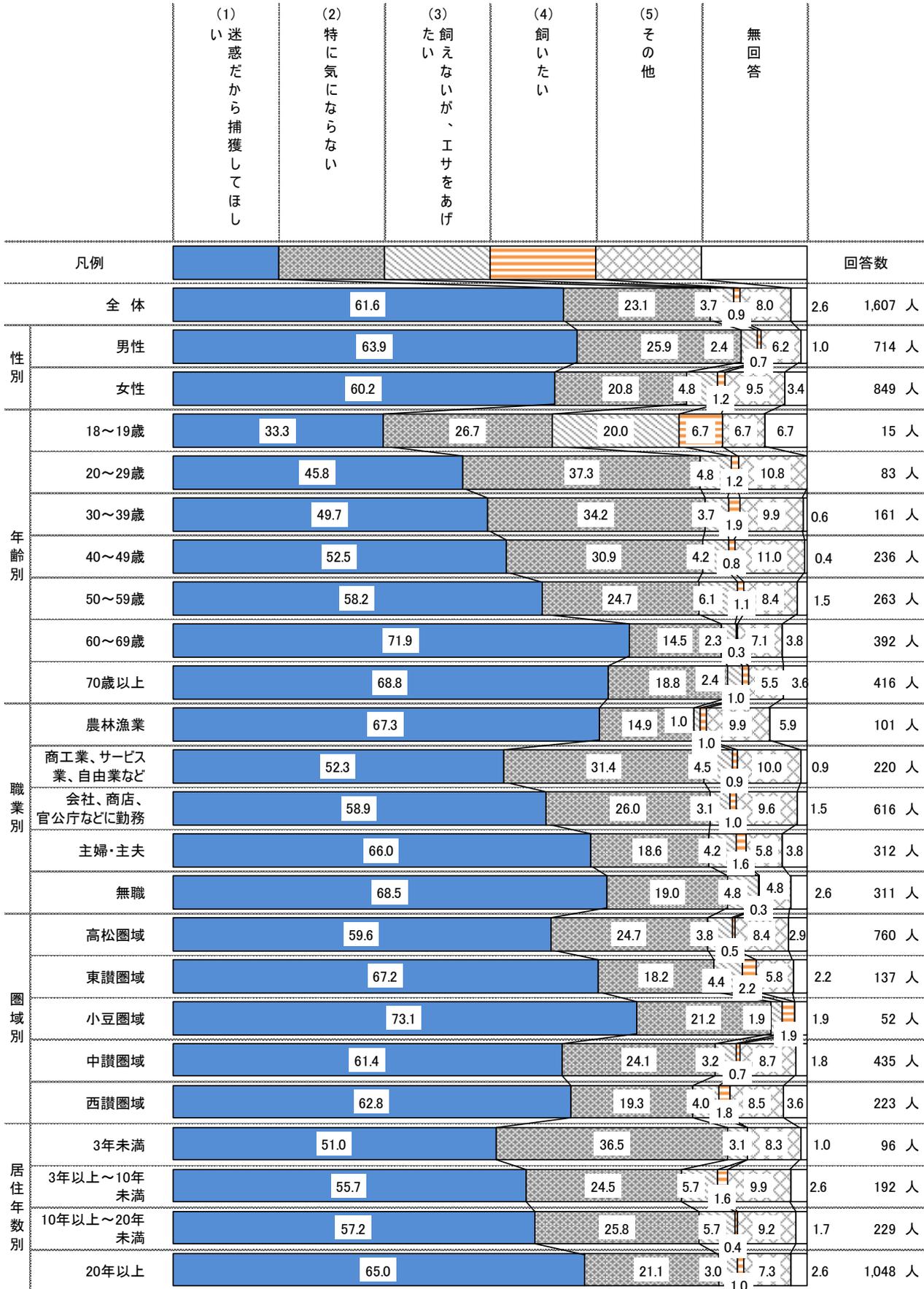
圏域別にみると、

いずれも「迷惑だから捕獲してほしい」が半数を超えて最も高く、いずれも、これに「特に気にならない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「迷惑だから捕獲してほしい」が半数を超えて最も高く、いずれも、これに「特に気にならない」が続いている。

図表 3-(2)-2 【お住まいの周辺に、野良犬がいた場合、どう思うかについて】



グラフ単位：(%)

(3) 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて

問10 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,607】 ※回答数の多い順に並び替え

1	飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する	67.1% (66.9%)
2	犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する	60.1% (59.1%)
3	捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する	45.7% (45.9%)
4	野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する	36.2% (35.5%)
5	一時的に殺処分数が増える可能性があるが、一度、集中的に野良犬の捕獲・収容を強化して野良犬の数そのものを減らす	23.0% (22.9%)
6	その他	5.2% (6.0%)
	(無回答)	1.7% (1.6%)

犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて、「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」(67.1%)が最も高く、次いで「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」(60.1%)、「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」(45.7%)、「野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する」(36.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」(66.9%)が最も高く、次いで「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」(59.1%)、「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」(45.9%)、「野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する」(35.5%)などとなっている。

図表 3-(3)-1 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて

		回答数
全体	100.0	1,607 人
(1) 飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する	67.1	1,079 人
(2) 犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する	60.1	966 人
(3) 捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する	45.7	735 人
(4) 野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する	36.2	582 人
(5) 一時的に殺処分数が増える可能性があるが、一度、集中的に野良犬の捕獲・収容を強化して野良犬の数そのものを減らす	23.0	370 人
(6) その他	5.2	83 人
無回答	1.7	27 人

グラフ単位：(%)

犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて、

性別にみると、

男女とも「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」が最も高く、『男性』66.2%、『女性』67.6%で、これに「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が『男性』56.4%、『女性』63.4%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」が6割～7割台で最も高く、これに『18～19歳』では「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」が、そのほか年齢別では「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」が6割～7割台で最も高く、いずれも、これに「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」が6割台で最も高く、いずれも、これに「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを厳格に規制する」が6割台で最も高く、いずれも、これに「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が続いている。

図表 3-(3)-2 【犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
	全体(人)	所に飼主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健	し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する	捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、より	て、罰則を設けて禁止する	野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について	的に野良犬の捕獲・収容を強化して野良犬の数を、一度、集中	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)	全体	1,607	67.1	60.1	45.7	36.2	23.0	5.2	1.7
	(ウェイトバック集計結果)	1,607	66.9	59.1	45.9	35.5	22.9	6.0	1.6
性別	男性	714	66.2	56.4	41.6	38.1	28.7	5.5	1.4
	女性	849	67.6	63.4	50.4	34.2	18.3	5.1	1.6
年齢別	18～19歳	15	66.7	40.0	53.3	26.7	20.0	13.3	-
	20～29歳	83	63.9	48.2	47.0	27.7	22.9	15.7	-
	30～39歳	161	61.5	59.0	52.2	39.1	24.2	8.1	0.6
	40～49歳	236	66.1	55.9	54.7	25.8	19.5	6.8	0.4
	50～59歳	263	64.6	60.8	54.8	34.6	19.8	4.2	0.8
	60～69歳	392	66.8	62.5	46.7	39.5	24.7	3.3	1.8
	70歳以上	416	71.9	63.7	33.4	39.9	25.0	3.4	3.4
職業別	農林漁業	101	67.3	53.5	42.6	28.7	32.7	7.9	5.0
	商工業、サービス業、自由業など	220	69.1	58.6	53.2	35.0	20.0	5.0	1.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	616	63.8	58.6	48.1	36.4	22.6	6.7	0.8
	主婦・主夫	312	72.1	68.6	49.7	34.9	19.9	2.6	1.0
	無職	311	66.2	58.5	37.0	38.9	26.0	4.5	2.6
圏域別	高松圏域	760	67.2	62.1	44.6	35.9	20.5	5.8	1.8
	東讃圏域	137	64.2	58.4	47.4	38.0	27.0	4.4	2.2
	小豆圏域	52	67.3	65.4	42.3	44.2	28.8	-	-
	中讃圏域	435	69.0	56.1	47.6	37.7	24.4	5.3	0.9
	西讃圏域	223	65.0	61.0	45.7	31.4	25.1	4.5	2.7
居住年数別	3年未満	96	64.6	59.4	50.0	32.3	21.9	10.4	-
	3年以上～10年未満	192	65.6	60.4	55.7	33.3	21.4	6.3	1.6
	10年以上～20年未満	229	68.1	59.8	47.2	37.6	20.5	7.0	0.4
	20年以上	1,048	67.3	60.4	44.2	36.5	24.0	4.2	1.9

(4)動物愛護センターに期待する事業について

問11 平成30年度中にさぬき動物愛護センターが開設する予定です。動物愛護センターに期待する事業は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

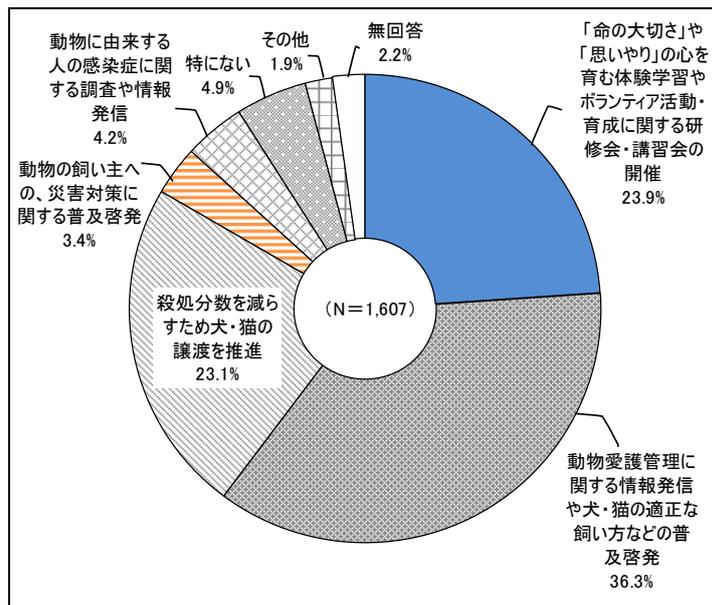
【回答者数=1,607】

1 「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催	23.9% (23.7%)
2 動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発	36.3% (35.6%)
3 殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進	23.1% (24.2%)
4 動物の飼い主への、災害対策に関する普及啓発	3.4% (3.5%)
5 動物に由来する人の感染症に関する調査や情報発信	4.2% (4.0%)
6 特にない	4.9% (4.8%)
7 その他	1.9% (2.1%)
(無回答)	2.2% (2.0%)

動物愛護センターに期待する事業について、「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」(36.3%)が最も高く、次いで「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」(23.9%)、「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」(23.1%)、「特にない」(4.9%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」(35.6%)が最も高く、次いで「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」(24.2%)、「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」(23.7%)、「特にない」(4.8%)などとなっている。

図表 3-(4)-1 動物愛護センターに期待する事業について



動物愛護センターに期待する事業について、

性別にみると、

男女とも「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が最も高く、『男性』39.6%、『女性』33.9%で、これに「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が『男性』22.1%、『女性』25.6%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』から『40～49歳』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が最も高く、そのほかの年齢別では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が最も高くなっている。これに『18～19歳』、『50～59歳』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が、そのほか年齢別では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が最も高く、これに『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が、そのほかの職業別では「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が続いている。『農林漁業』、『主婦・主夫』では、「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」も同率で続いている。

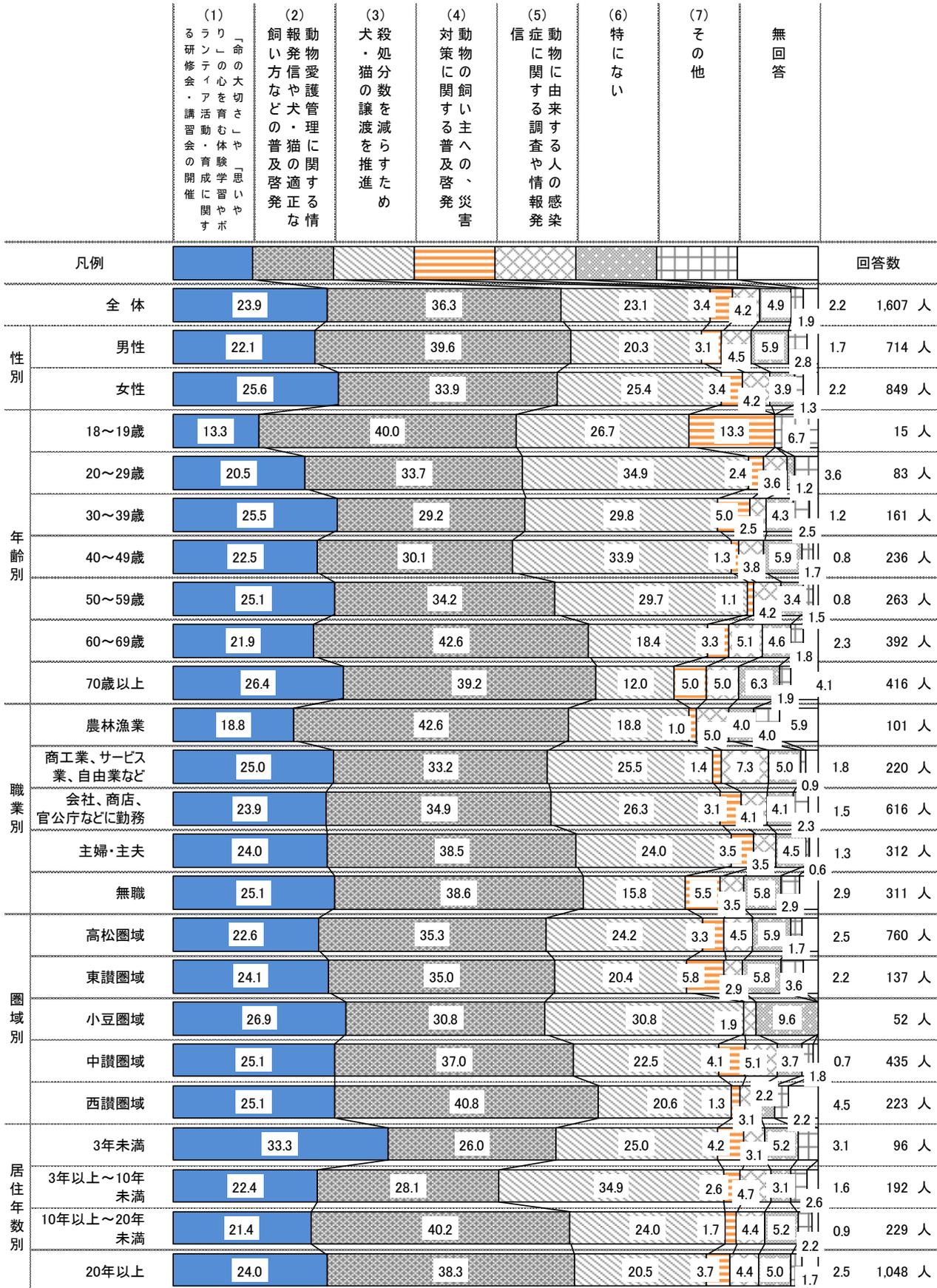
圏域別にみると、

『小豆圏域』では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」、「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が高く、そのほかの圏域別では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が最も高くなっている。これに『高松圏域』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が、そのほかの圏域別では「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年未満』では「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が、そのほかの居住年数別では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が最も高くなっている。これに『10年以上～20年未満』では「殺処分数を減らすため犬・猫の譲渡を推進」が、『20年以上』では「命の大切さ」や「思いやり」の心を育む体験学習やボランティア活動・育成に関する研修会・講習会の開催」が、そのほかの居住年数別では「動物愛護管理に関する情報発信や犬・猫の適正な飼い方などの普及啓発」が続いている。

図表 3-(4)-2 【動物愛護センターに期待する事業について】



グラフ単位: (%)

(5)ペットを飼っているかについて

問12 あなたは、ペットを飼っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

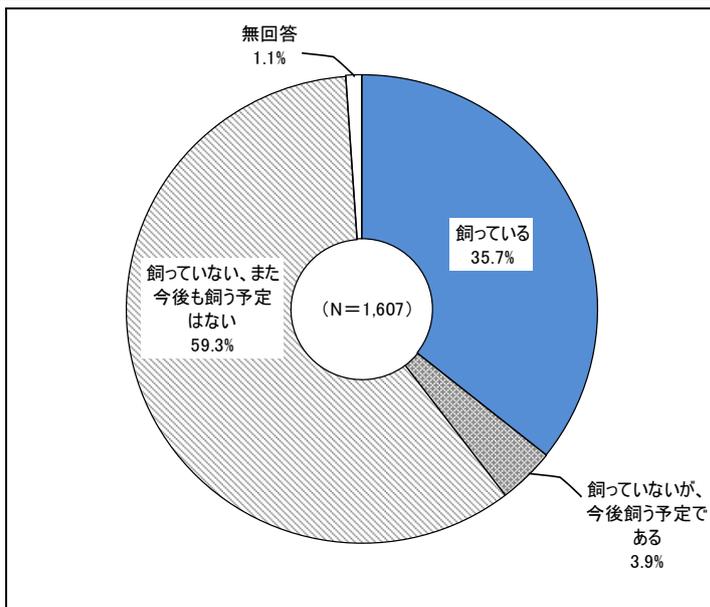
【回答者数=1,607】

1 飼っている	35.7% (35.9%)
2 飼っていないが、今後飼う予定である	3.9% (4.2%)
3 飼っていない、また今後も飼う予定はない (無回答)	59.3% (59.0%) 1.1% (1.0%)

ペットを飼っているかについて、「飼っていない、また今後も飼う予定はない」(59.3%)が最も高く、次いで「飼っている」(35.7%)、「飼っていないが、今後飼う予定である」(3.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「飼っていない、また今後も飼う予定はない」(59.0%)が最も高く、次いで「飼っている」(35.9%)、「飼っていないが、今後飼う予定である」(4.2%)となっている。

図表 3-(5)-1 ペットを飼っているかについて



ペットを飼っているかについて、

性別にみると、

男女とも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が最も高く、『男性』61.9%、『女性』57.2%で、これに「飼っている」が『男性』34.5%、『女性』36.9%が続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』では「飼っている」が最も高く、そのほかの年齢別では「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が最も高くなっている。これに『20～29歳』では「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が、そのほかの年齢別では「飼っている」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「飼っている」が続いている。

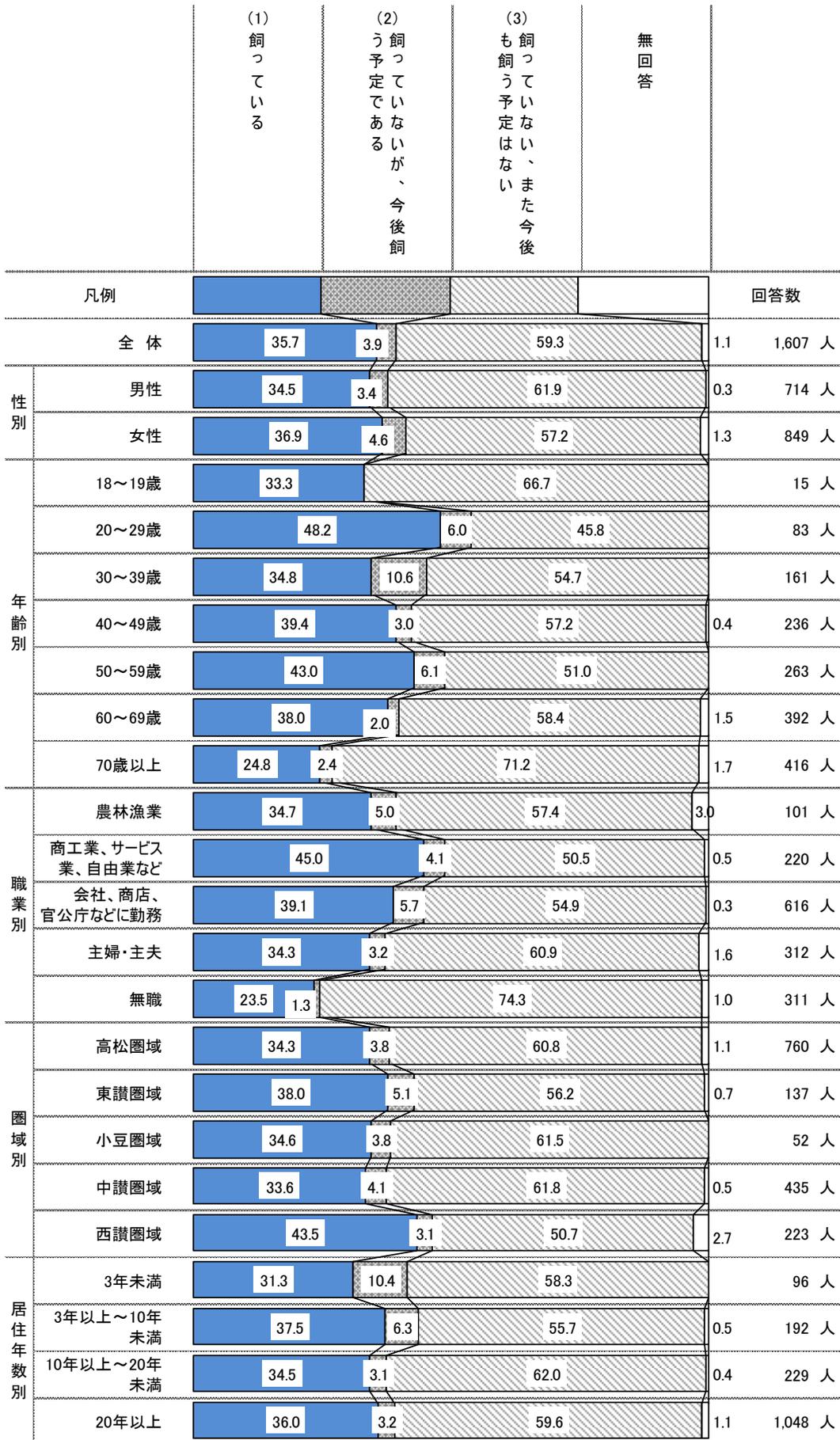
圏域別にみると、

いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「飼っている」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「飼っている」が続いている。

図表 3-(5)-2 【ペットを飼っているかについて】



グラフ単位：(%)

(6)どんなペットを飼っているかについて

【問12で「1」と答えた方にお聞きします】

付問14 あなたは、どんなペットを飼っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=574(577)】 ※回答数の多い順に並び替え

1 犬	64.3% (64.0%)
2 猫	37.1% (37.1%)
3 魚類	15.7% (16.4%)
4 爬虫類 (カメなど)	3.8% (4.0%)
5 哺乳類 (犬・猫を除く)	3.1% (3.4%)
6 鳥類	2.8% (3.2%)
7 その他	1.0% (1.3%)
(無回答)	1.0% (1.0%)

どんなペットを飼っているかについて、「犬」(64.3%)が最も高く、次いで「猫」(37.1%)、「魚類」(15.7%)、「爬虫類(カメなど)」(3.8%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「犬」(64.0%)が最も高く、次いで「猫」(37.1%)、「魚類」(16.4%)、「爬虫類(カメなど)」(4.0%)などとなっている。

図表 3-(6)-1 どんなペットを飼っているかについて

	割合	回答数
全体	100.0	574 人
(1) 犬	64.3	369 人
(2) 猫	37.1	213 人
(3) 魚類	15.7	90 人
(4) 爬虫類(カメなど)	3.8	22 人
(5) 哺乳類(犬・猫を除く)	3.1	18 人
(6) 鳥類	2.8	16 人
(7) その他	1.0	6 人
無回答	1.0	6 人

グラフ単位: (%)

どんなペットを飼っているかについて、

性別にみると、

男女とも「犬」が最も高く、『男性』63.8%、『女性』64.9%で、これに「猫」が『男性』36.2%、『女性』38.3%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「犬」が半数を超えて最も高くなっている。これに『18～19歳』では「魚類」が、そのほかの年齢別では「猫」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「犬」が6割を越えて最も高く、『農林漁業』では「猫」も同率で最も高くなっている。これに『農林漁業』では「魚類」が、そのほかの職業別では「猫」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「犬」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「猫」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「犬」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「猫」が続いている。

図表 3-(6)-2 【どんなペットを飼っているかについて】

	全体 (人)	(1) 犬	(2) 猫	(3) 魚類	(4) 爬虫類 (カメなど)	(5) 哺乳類 (犬・猫を除く)	(6) 鳥類	(7) その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体	574	64.3	37.1	15.7	3.8	3.1	2.8	1.0	1.0
	(ウエイバック集計結果)	577	64.0	37.1	16.4	4.0	3.4	3.2	1.3
性別	男性	246	63.8	36.2	15.4	4.9	0.8	3.3	2.0
	女性	313	64.9	38.3	16.3	3.2	5.1	2.6	0.3
年齢別	18～19歳	5	80.0	20.0	40.0	-	-	20.0	-
	20～29歳	40	65.0	40.0	20.0	5.0	10.0	5.0	2.5
	30～39歳	56	62.5	32.1	21.4	7.1	1.8	3.6	1.8
	40～49歳	93	52.7	40.9	17.2	3.2	3.2	4.3	3.2
	50～59歳	113	69.0	31.9	16.8	4.4	2.7	1.8	0.9
	60～69歳	149	65.8	38.3	15.4	2.7	4.0	2.7	-
	70歳以上	103	68.0	41.7	8.7	3.9	1.0	1.0	-
職業別	農林漁業	35	62.9	62.9	14.3	2.9	2.9	2.9	-
	商工業、サービス業、 自由業など	99	60.6	40.4	12.1	2.0	2.0	5.1	-
	会社、商店、官公庁 などに勤務	241	61.4	34.9	18.7	5.4	3.3	2.5	2.5
	主婦・主夫	107	70.1	34.6	16.8	4.7	4.7	1.9	-
	無職	73	69.9	35.6	12.3	1.4	2.7	2.7	-
圏域別	高松圏域	261	63.6	37.2	18.0	3.1	3.1	2.7	0.8
	東讃圏域	52	78.8	26.9	13.5	3.8	1.9	-	1.9
	小豆圏域	18	72.2	33.3	5.6	5.6	-	-	-
	中讃圏域	146	58.9	38.4	12.3	2.7	4.8	2.1	0.7
	西讃圏域	97	64.9	41.2	17.5	7.2	2.1	6.2	2.1
居住年数別	3年未満	30	66.7	40.0	20.0	3.3	-	6.7	-
	3年以上～10年未満	72	63.9	23.6	20.8	2.8	4.2	8.3	2.8
	10年以上～20年未満	79	58.2	41.8	17.7	5.1	5.1	3.8	2.5
	20年以上	377	65.8	39.0	14.3	4.0	2.7	1.3	0.5

(7)ペットの入手方法について

付問15 ペットの入手方法について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=574(577)】※回答数の多い順に並び替え

1	ペットショップやブリーダーから購入した	41.5% (42.5%)
2	知人から譲り受けた	40.1% (39.4%)
3	拾った	26.3% (26.9%)
4	譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	6.1% (6.0%)
5	保健所などの行政機関から譲り受けた	3.3% (3.2%)
6	その他	3.8% (4.4%)
	(無回答)	2.1% (2.0%)

ペットの入手方法について、「ペットショップやブリーダーから購入した」(41.5%)が最も高く、次いで「知人から譲り受けた」(40.1%)、「拾った」(26.3%)、「譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた」(6.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ペットショップやブリーダーから購入した」(42.5%)が最も高く、次いで「知人から譲り受けた」(39.4%)、「拾った」(26.9%)、「譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた」(6.0%)などとなっている。

図表 3-(7)-1 ペットの入手方法について

		回答数
全体	100.0	574 人
(1) ペットショップやブリーダーから購入した	41.5	238 人
(2) 知人から譲り受けた	40.1	230 人
(3) 拾った	26.3	151 人
(4) 譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	6.1	35 人
(5) 保健所などの行政機関から譲り受けた	3.3	19 人
(6) その他	3.8	22 人
無回答	2.1	12 人

グラフ単位:(%)

ペットの入手方法について、

性別にみると、

『男性』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高く 44.3%、『女性』では「知人から譲り受けた」41.9%が最も高くなっている。これに『男性』では「知人から譲り受けた」39.0%が、『女性』では「ペットショップやブリーダーから購入した」40.3%が続いている。

年齢別にみると、

『60～69歳』、『70歳以上』では「知人から譲り受けた」が最も高く、そのほかの年齢別では「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高くなっている。これに『30～39歳』では「拾った」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が、そのほかの年齢別では「知人から譲り受けた」が続いている。

職業別にみると、

『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高く、そのほかの職業別では「知人から譲り受けた」が最も高くなっている。『農林漁業』では「拾った」も同率で最も高くなっている。これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「知人から譲り受けた」が、そのほかの職業別では「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。

圏域別にみると、

『高松圏域』、『小豆圏域』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高く、そのほかの圏域別では「知人から譲り受けた」が最も高くなっている。これに『高松圏域』、『小豆圏域』では「知人から譲り受けた」が、そのほかの圏域別では「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。『小豆圏域』では「拾った」も同率で続いている。

居住年数別にみると、

『20年以上』では「知人から譲り受けた」が最も高く、そのほかの居住年数別では「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高くなっている。これに『3年未満』では「拾った」が、『20年以上』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が、そのほかの居住年数別では「知人から譲り受けた」が続いている。

図表 3-(7)-2 【ペットの入手方法について】

	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無回答
		ペットショップやブリーダーから購入した	知人から譲り受けた	拾った	譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	保健所などの行政機関から譲り受けた	その他	
【表の見方】 単位＝比率(%)								
全体	574	41.5	40.1	26.3	6.1	3.3	3.8	2.1
(ウエイトバック集計結果)	577	42.5	39.4	26.9	6.0	3.2	4.4	2.0
性別								
男性	246	44.3	39.0	24.8	4.5	4.5	2.0	1.6
女性	313	40.3	41.9	26.8	7.3	2.6	5.1	1.9
年齢別								
18～19歳	5	80.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-
20～29歳	40	47.5	45.0	32.5	5.0	2.5	7.5	-
30～39歳	56	44.6	25.0	28.6	1.8	8.9	7.1	1.8
40～49歳	93	46.2	31.2	29.0	12.9	1.1	3.2	2.2
50～59歳	113	52.2	36.3	19.5	5.3	1.8	5.3	1.8
60～69歳	149	36.2	47.7	26.2	6.0	6.0	1.3	2.0
70歳以上	103	30.1	50.5	26.2	3.9	1.0	1.9	1.9
職業別								
農林漁業	35	25.7	48.6	48.6	2.9	5.7	2.9	-
商工業、サービス業、自由業など	99	40.4	39.4	25.3	4.0	2.0	2.0	4.0
会社、商店、官公庁などに勤務	241	48.5	36.5	27.4	6.2	3.7	4.6	0.4
主婦・主夫	107	36.4	50.5	21.5	10.3	-	1.9	3.7
無職	73	37.0	38.4	19.2	4.1	8.2	6.8	1.4
圏域別								
高松圏域	261	46.7	34.9	26.1	6.9	4.2	4.6	1.9
東讃圏域	52	28.8	53.8	25.0	1.9	3.8	1.9	1.9
小豆圏域	18	50.0	22.2	22.2	-	-	11.1	-
中讃圏域	146	39.7	41.1	24.7	7.5	3.4	2.1	3.4
西讃圏域	97	35.1	48.5	30.9	5.2	1.0	4.1	1.0
居住年数別								
3年未満	30	53.3	23.3	26.7	10.0	-	3.3	-
3年以上～10年未満	72	54.2	29.2	20.8	6.9	5.6	2.8	1.4
10年以上～20年未満	79	46.8	35.4	27.8	7.6	6.3	6.3	1.3
20年以上	377	37.9	45.1	26.5	5.3	2.7	3.4	2.1

(8) 日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて

付問16 あなたは、日ごろからペットの災害時の対策を講じていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=574(577)】 ※回答数の多い順に並び替え

1 ペットの脱走防止	33.6% (34.3%)
2 ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	21.6% (21.4%)
3 名札などの装着	14.3% (14.2%)
4 動物の避難場所の想定	6.4% (7.1%)
5 何もしていない	47.4% (46.8%)
6 その他	1.6% (1.7%)
(無回答)	2.3% (2.1%)

日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて、「何もしていない」(47.4%)が最も高く、次いで「ペットの脱走防止」(33.6%)、「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」(21.6%)、「名札などの装着」(14.3%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「何もしていない」(46.8%)が最も高く、次いで「ペットの脱走防止」(34.3%)、「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」(21.4%)、「名札などの装着」(14.2%)などとなっている。

図表 3-(8)-1 日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて

		回答数
全体	100.0	574 人
(1) ペットの脱走防止	33.6	193 人
(2) ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	21.6	124 人
(3) 名札などの装着	14.3	82 人
(4) 動物の避難場所の想定	6.4	37 人
(5) 何もしていない	47.4	272 人
(6) その他	1.6	9 人
無回答	2.3	13 人

グラフ単位:(%)

日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて、

性別にみると、

男女とも「何もしていない」が最も高く、『男性』53.3%、『女性』43.5%で、これに「ペットの脱走防止」が『男性』29.7%、『女性』37.1%が続いている。

年齢別にみると、

いずれも「何もしていない」が最も高く、『18～19歳』では「ペットの脱走防止」も同率で最も高くなっている。これに『18～19歳』では「名札などの装着」が、そのほかの年齢別では「ペットの脱走防止」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「何もしていない」が最も高くなっている。これに『農林漁業』では「名札などの装着」が、そのほかの職業別では「ペットの脱走防止」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「何もしていない」が4割～6割台で最も高くなっている。これに『小豆圏域』では「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」が、そのほかの圏域別では「ペットの脱走防止」が続いている。

居住年数別にみると、

『3年未満』では「ペットの脱走防止」が最も高く、そのほかの居住年数別では「何もしていない」が最も高くなっている。これに『3年未満』では「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」が、そのほかの居住年数別では「ペットの脱走防止」が続いている。『3年未満』では「何もしていない」も同率が続いている。

図表 3-(8)-2 【日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
	全体（人）	ペットの脱走防止	ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	名札などの装着	動物の避難場所の想定	何もしていない	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体	574	33.6	21.6	14.3	6.4	47.4	1.6	2.3	
	(ウエイバック集計結果)	577	34.3	21.4	14.2	7.1	46.8	1.7	2.1
性別	男性	246	29.7	19.1	13.0	3.7	53.3	1.2	1.2
	女性	313	37.1	23.0	14.7	8.3	43.5	1.6	2.6
年齢別	18～19歳	5	40.0	—	20.0	—	40.0	—	—
	20～29歳	40	35.0	17.5	15.0	15.0	45.0	5.0	—
	30～39歳	56	41.1	17.9	12.5	5.4	46.4	—	—
	40～49歳	93	39.8	24.7	12.9	10.8	48.4	1.1	2.2
	50～59歳	113	26.5	15.0	11.5	4.4	55.8	1.8	2.7
	60～69歳	149	33.6	20.1	16.8	4.0	48.3	0.7	1.3
	70歳以上	103	32.0	31.1	13.6	4.9	39.8	1.9	3.9
職業別	農林漁業	35	28.6	25.7	31.4	2.9	42.9	—	—
	商工業、サービス業、自由業など	99	27.3	19.2	10.1	7.1	51.5	1.0	4.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	241	35.3	18.3	12.0	6.6	51.9	2.1	0.4
	主婦・主夫	107	35.5	24.3	15.9	8.4	41.1	1.9	4.7
	無職	73	38.4	26.0	13.7	2.7	42.5	—	1.4
圏域別	高松圏域	261	37.5	23.4	18.0	6.9	42.1	1.9	2.3
	東讃圏域	52	28.8	17.3	5.8	5.8	50.0	1.9	5.8
	小豆圏域	18	16.7	22.2	11.1	—	66.7	—	—
	中讃圏域	146	33.6	21.2	16.4	6.8	45.9	1.4	2.1
	西讃圏域	97	28.9	19.6	6.2	6.2	58.8	1.0	1.0
居住年数別	3年未満	30	50.0	30.0	13.3	6.7	30.0	3.3	—
	3年以上～10年未満	72	40.3	20.8	19.4	5.6	50.0	—	—
	10年以上～20年未満	79	38.0	20.3	10.1	6.3	48.1	2.5	1.3
	20年以上	377	30.5	21.0	13.8	6.4	48.5	1.3	2.7

(9) 災害時にペットに関することで、一番不安なことについて

付問17 災害時にペットに関することで、一番不安なことは何ですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

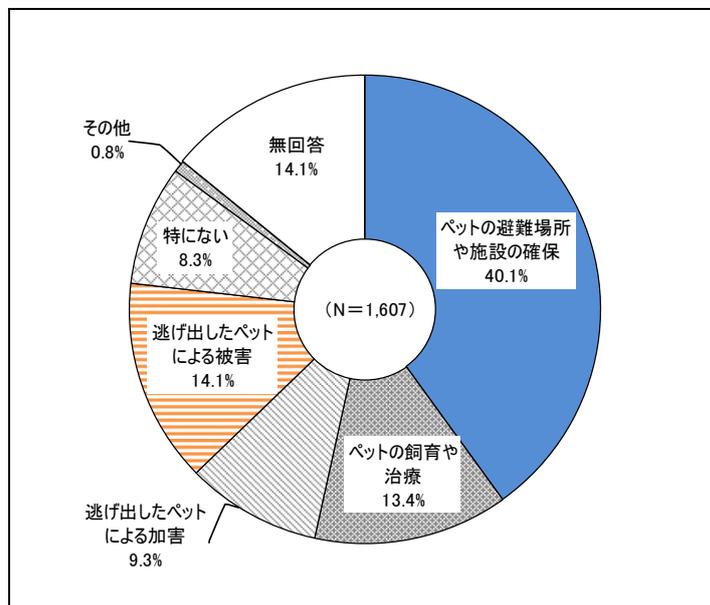
【回答者数=1,607】

1 ペットの避難場所や施設の確保	40.1% (40.7%)
2 ペットの飼育や治療	13.4% (13.5%)
3 逃げ出したペットによる加害	9.3% (8.8%)
4 逃げ出したペットによる被害	14.1% (13.9%)
5 特にない	8.3% (8.5%)
6 その他	0.8% (1.0%)
(無回答)	14.1% (13.6%)

災害時にペットに関することで、一番不安なことについて、「ペットの避難場所や施設の確保」(40.1%)が最も高く、次いで「逃げ出したペットによる被害」(14.1%)、「ペットの飼育や治療」(13.4%)、「逃げ出したペットによる加害」(9.3%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ペットの避難場所や施設の確保」(40.7%)が最も高く、次いで「逃げ出したペットによる被害」(13.9%)、「ペットの飼育や治療」(13.5%)、「逃げ出したペットによる加害」(8.8%)などとなっている。

図表 3-(9)-1 災害時にペットに関することで、一番不安なことについて



災害時にペットに関することで、一番不安なことについて、

性別にみると、

男女とも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、『男性』34.2%、『女性』45.9%で、これに『男性』では「ペットの飼育や治療」15.1%、『女性』では「逃げ出したペットによる被害」13.5%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「特になし」が、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』では「ペットの飼育や治療」が、そのほかの年齢別では「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高くなっている。これに『農林漁業』では「逃げ出したペットによる被害」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「ペットの飼育や治療」、そのほかの職業別では「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

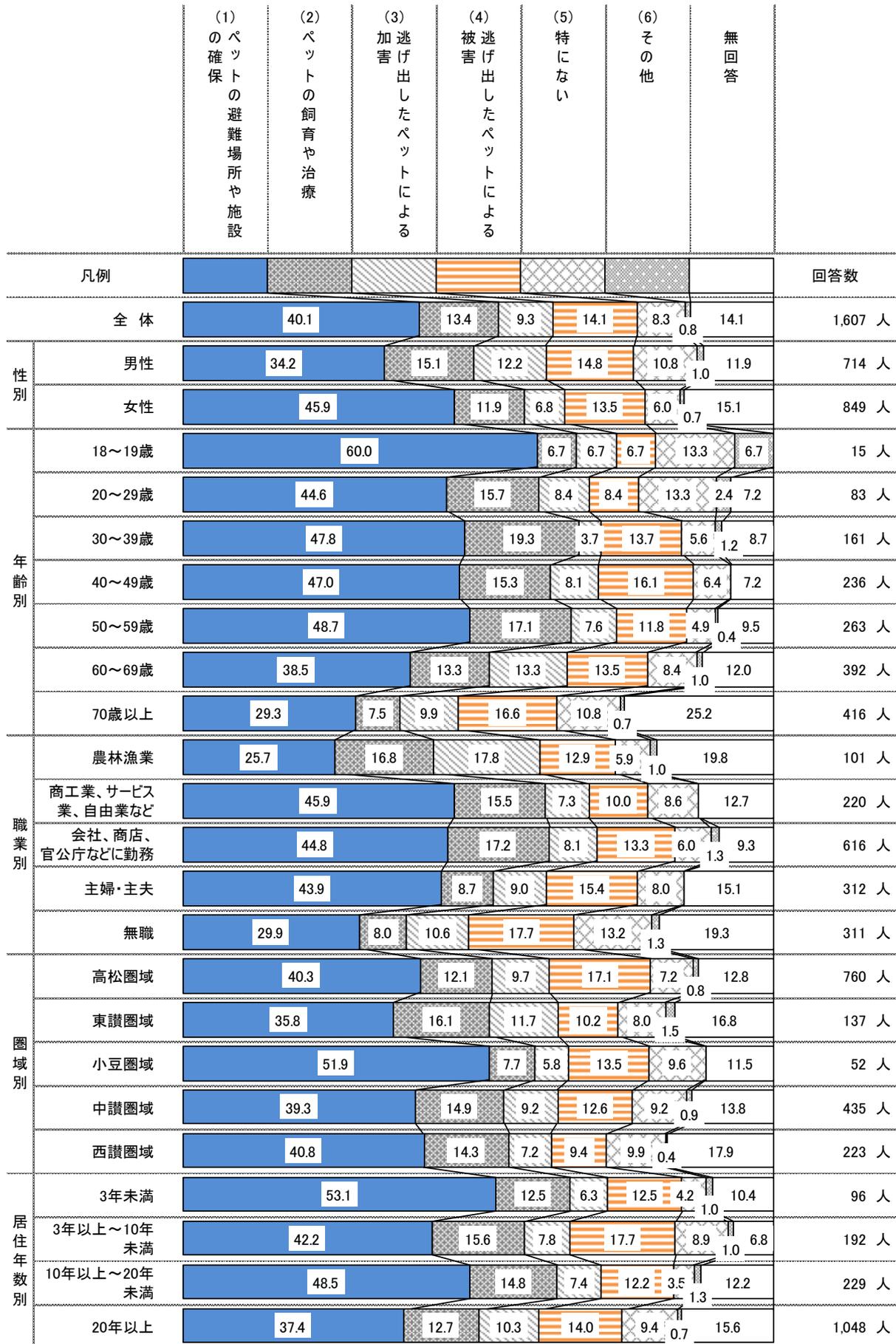
圏域別にみると、

いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高くなっている。これに『高松圏域』、『小豆圏域』では「逃げ出したペットによる被害」が、そのほかの圏域別では「ペットの飼育や治療」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高くなっている。これに『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「ペットの飼育や治療」が、そのほかの居住年数別では「逃げ出したペットによる被害」が続いている。『3年未満』では「逃げ出したペットによる被害」も同率で続いている。

図表 3-(9)-2 【災害時にペットに関する事で、一番不安なことについて】



グラフ単位：(%)

(10)飼っている犬が迷子になったときの対策について

【犬を飼っている方にお聞きます】

付問18 飼っている犬が迷子になったときの対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=369】 ※回答数の多い順に並び替え

- | | | |
|---|---|--------------|
| 1 | 首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない | 45.5%(46.1%) |
| 2 | 飼い主と連絡が取れる措置
(迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など) | 20.6%(20.6%) |
| 3 | マイクロチップを挿入している | 5.1%(5.1%) |
| 4 | 何もしていない | 25.7%(25.3%) |
| 5 | その他 | 4.1%(4.8%) |
| | (無回答) | 2.7%(2.6%) |

飼っている犬が迷子になったときの対策について、「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」(45.5%)が最も高く、次いで「何もしていない」(25.7%)、「飼い主と連絡が取れる措置(迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)」(20.6%)、「マイクロチップを挿入している」(5.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」(46.1%)が最も高く、次いで「何もしていない」(25.3%)、「飼い主と連絡が取れる措置(迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)」(20.6%)、「マイクロチップを挿入している」(5.1%)などとなっている。

図表 3-(10)-1 飼っている犬が迷子になったときの対策について

		回答数
全体	100.0	369 人
(1) 首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	45.5	168 人
(2) 飼い主と連絡が取れる措置(迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)	20.6	76 人
(3) マイクロチップを挿入している	5.1	19 人
(4) 何もしていない	25.7	95 人
(5) その他	4.1	15 人
無回答	2.7	10 人

グラフ単位:(%)

飼っている犬が迷子になったときの対策について、

性別にみると、

男女とも「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が最も高く、『男性』47.1%、『女性』44.8%で、これに「何もしていない」が『男性』28.0%、『女性』24.6%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が最も高く、そのほかの年齢別では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」、「何もしていない」が、『70歳以上』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が、そのほかの年齢別では「何もしていない」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が4割～5割台で最も高くなっている。これに『農林漁業』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が、そのほかの職業別では「何もしていない」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が3割～6割台で最も高くなっている。これに『高松圏域』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が、そのほかの圏域別では「何もしていない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が3割～4割台で最も高くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が、そのほかの居住年数別では「何もしていない」が続いている。

図表 3-(10)-2 【飼っている犬が迷子になったときの対策について】

	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答
		首輪などをつけていない	首輪、首輪への連絡先記入など	マイクログリップを挿入している	何もしていない	その他	
全体	369	45.5	20.6	5.1	25.7	4.1	2.7
（ウェイトバック集計結果）	369	46.1	20.6	5.1	25.3	4.8	2.6
性別							
男性	157	47.1	16.6	5.1	28.0	4.5	3.8
女性	203	44.8	23.2	4.9	24.6	3.4	2.0
年齢別							
18～19歳	4	25.0	50.0	-	25.0	-	-
20～29歳	26	57.7	15.4	3.8	19.2	11.5	3.8
30～39歳	35	51.4	14.3	8.6	22.9	11.4	2.9
40～49歳	49	42.9	18.4	6.1	32.7	2.0	-
50～59歳	78	46.2	17.9	7.7	26.9	2.6	1.3
60～69歳	98	43.9	21.4	4.1	26.5	2.0	5.1
70歳以上	70	44.3	25.7	1.4	24.3	2.9	2.9
職業別							
農林漁業	22	54.5	27.3	-	22.7	-	-
商工業、サービス業、自由業など	60	43.3	15.0	10.0	30.0	6.7	5.0
会社、商店、官公庁などに勤務	148	46.6	18.2	6.1	25.0	4.1	2.7
主婦・主夫	75	46.7	24.0	1.3	25.3	2.7	1.3
無職	51	41.2	21.6	3.9	29.4	3.9	3.9
圏域別							
高松圏域	166	39.8	28.3	6.6	22.9	3.6	3.6
東讃圏域	41	65.9	7.3	4.9	19.5	2.4	2.4
小豆圏域	13	53.8	7.7	-	46.2	-	-
中讃圏域	86	38.4	23.3	5.8	26.7	9.3	1.2
西讃圏域	63	55.6	7.9	1.6	31.7	-	3.2
居住年数別							
3年未満	20	35.0	10.0	15.0	25.0	5.0	10.0
3年以上～10年未満	46	47.8	26.1	6.5	23.9	2.2	-
10年以上～20年未満	46	45.7	17.4	8.7	26.1	4.3	4.3
20年以上	248	46.4	20.6	3.2	26.6	4.0	2.4

【表の見方】
単位＝比率(%)

(11) 犬の不妊・去勢手術をしているかについて

付問19 犬の不妊・去勢手術をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

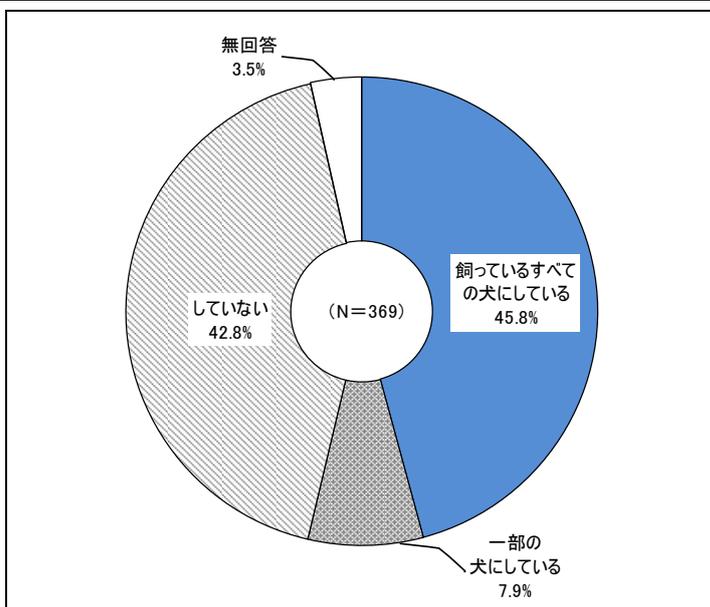
【回答者数=369】

1 飼っているすべての犬にしている	45.8% (44.9%)
2 一部の犬にしている	7.9% (9.0%)
3 していない	42.8% (42.6%)
(無回答)	3.5% (3.6%)

犬の不妊・去勢手術をしているかについて、「飼っているすべての犬にしている」(45.8%)が最も高く、次いで「していない」(42.8%)、「一部の犬にしている」(7.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「飼っているすべての犬にしている」(44.9%)が最も高く、次いで「していない」(42.6%)、「一部の犬にしている」(9.0%)となっている。

図表 3-(11)-1 犬の不妊・去勢手術をしているかについて



犬の不妊・去勢手術をしているかについて、

性別にみると、

『男性』では「していない」が最も高く、44.6%、『女性』では「飼っているすべての犬にしている」48.3%が最も高くなっている。これに『男性』では「飼っているすべての犬にしている」42.0%が、『女性』では「していない」41.4%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「一部の犬にしている」が最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「飼っているすべての犬にしている」が、そのほかの年齢別では「していない」が最も高くなっている。これに『18～19歳』、『20～29歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「飼っているすべての犬にしている」が、そのほかの年齢別では「していない」が続いている。『18～19歳』では「していない」も同率で続いている。

職業別にみると、

『会社、商店、官公庁などに勤務』では「飼っているすべての犬にしている」が最も高く、そのほかの職業別では「していない」が4割～5割台で最も高くなっている。これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「していない」が、そのほかの職業別では「飼っているすべての犬にしている」が続いている。

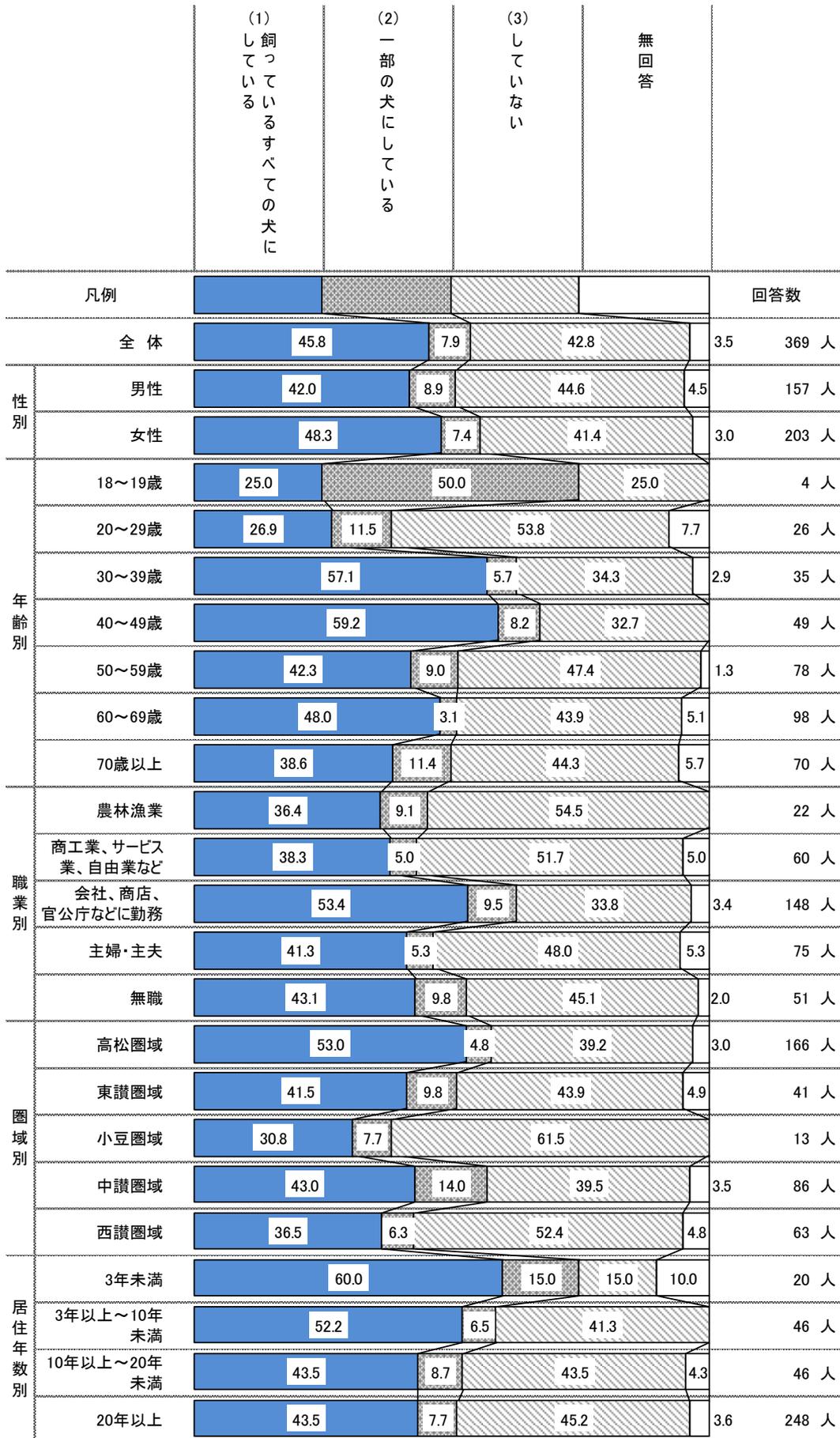
圏域別にみると、

『高松圏域』、『中讃圏域』では「飼っているすべての犬にしている」が最も高く、そのほかの圏域別では「していない」が最も高くなっている。これに『高松圏域』、『中讃圏域』では「していない」が、そのほかの圏域別では「飼っているすべての犬にしている」が続いている。

居住年数別にみると、

『20年以上』では「していない」が最も高く、そのほかの居住年数別では「飼っているすべての犬にしている」が最も高くなっている。『10年以上～20年未満』では「していない」も同率で最も高くなっている。これに『10年以上～20年未満』では「一部の犬にしている」が、『20年以上』では「飼っているすべての犬にしている」が、そのほかの居住年数別では「していない」が続いている。『3年未満』では「一部の犬にしている」も同率で続いている。

図表 3-(11)-2 【犬の不妊・去勢手術をしているかについて】



グラフ単位：(%)

(12)飼っている猫が迷子になったときの対策について

【猫を飼っている方にお聞きます】

付問20 飼っている猫が迷子になったときの対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=213(214)】※回答数の多い順に並び替え

1	首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	26.8%(28.5%)
2	飼い主と連絡が取れる措置 (迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)	11.7%(11.3%)
3	マイクロチップを挿入している	1.4%(1.5%)
4	何もしていない	48.8%(47.6%)
5	その他 (無回答)	11.7%(12.2%) 2.8%(2.4%)

飼っている猫が迷子になったときの対策について、「何もしていない」(48.8%)が最も高く、次いで「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」(26.8%)、「飼い主と連絡が取れる措置(迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)」、「その他」(ともに11.7%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「何もしていない」(47.6%)が最も高く、次いで「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」(28.5%)、「その他」(12.2%)、「飼い主と連絡が取れる措置(迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)」(11.3%)などとなっている。

図表 3-(12)-1 飼っている猫が迷子になったときの対策について

		回答数
全体	100.0	213 人
(1) 首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	26.8	57 人
(2) 飼い主と連絡が取れる措置(迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)	11.7	25 人
(3) マイクロチップを挿入している	1.4	3 人
(4) 何もしていない	48.8	104 人
(5) その他	11.7	25 人
無回答	2.8	6 人

グラフ単位:(%)

飼っている猫が迷子になったときの対策について、

性別にみると、

男女とも「何もしていない」が最も高く、『男性』49.4%、『女性』48.3%で、これに「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が『男性』32.6%、『女性』23.3%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』、『40～49歳』では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が、そのほかの年齢別では「何もしていない」が最も高くなっている。『20～29歳』では「何もしていない」も同率で最も高くなっている。これに『20～29歳』では「その他」が、『40～49歳』では「何もしていない」が、そのほかの年齢別では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「何もしていない」が4割～7割台で最も高くなっている。これに、いずれも「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が続いている。『農林漁業』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など）」も同率で続いている。

圏域別にみると、

いずれも「何もしていない」が3割～7割台で最も高く、『小豆圏域』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など）」も同率で最も高くなっている。いずれも、これに「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が続いている。『東讃圏域』では「何もしていない」も同率で続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「何もしていない」が3割～5割台で最も高く、『3年以上～10年未満』では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」も同率で最も高くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など）」が、そのほかの居住年数別では「首輪などをつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が続いている。『3年未満』では「その他」も同率で続いている。

図表 3-(12)-2 【飼っている猫が迷子になったときの対策について】

	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答
		首輪などをつけていない	飼い主と連絡が取れる措置（迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など）	マイクロチップを挿入している	何もしていない	その他	
【表の見方】 単位＝比率(%)							
全体	213	26.8	11.7	1.4	48.8	11.7	2.8
（ウェイトバック集計結果）	214	28.5	11.3	1.5	47.6	12.2	2.4
性別							
男性	89	32.6	7.9	1.1	49.4	7.9	4.5
女性	120	23.3	14.2	1.7	48.3	14.2	1.7
年齢別							
18～19歳	1	-	-	-	100.0	-	-
20～29歳	16	37.5	6.3	-	37.5	18.8	-
30～39歳	18	33.3	-	5.6	61.1	5.6	5.6
40～49歳	38	39.5	15.8	2.6	34.2	18.4	-
50～59歳	36	13.9	8.3	2.8	61.1	5.6	8.3
60～69歳	57	19.3	10.5	-	56.1	12.3	3.5
70歳以上	43	32.6	18.6	-	39.5	9.3	-
職業別							
農林漁業	22	13.6	13.6	-	68.2	4.5	-
商工業、サービス業、自由業など	40	22.5	7.5	5.0	47.5	10.0	10.0
会社、商店、官公庁などに勤務	84	34.5	11.9	1.2	42.9	14.3	2.4
主婦・主夫	37	21.6	16.2	-	45.9	16.2	-
無職	26	30.8	7.7	-	57.7	3.8	-
圏域別							
高松圏域	97	30.9	12.4	2.1	44.3	12.4	2.1
東讃圏域	14	14.3	-	-	78.6	14.3	-
小豆圏域	6	16.7	33.3	-	33.3	-	16.7
中讃圏域	56	30.4	12.5	1.8	39.3	16.1	3.6
西讃圏域	40	17.5	10.0	-	65.0	5.0	2.5
居住年数別							
3年未満	12	25.0	8.3	-	50.0	25.0	-
3年以上～10年未満	17	35.3	17.6	5.9	35.3	5.9	5.9
10年以上～20年未満	33	27.3	6.1	6.1	45.5	18.2	3.0
20年以上	147	26.5	12.2	-	51.0	9.5	2.7

(13)猫の不妊・去勢手術をしているかについて

付問21 猫の不妊・去勢手術をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

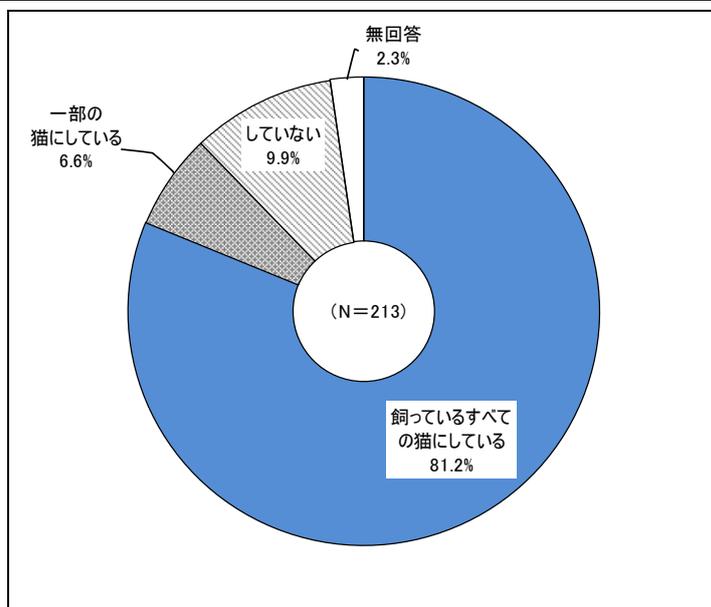
【回答者数=213(214)】

1 飼っているすべての猫にしている	81.2% (80.9%)
2 一部の猫にしている	6.6% (7.5%)
3 していない	9.9% (9.8%)
(無回答)	2.3% (1.8%)

猫の不妊・去勢手術をしているかについて、「飼っているすべての猫にしている」(81.2%)が最も高く、次いで「していない」(9.9%)、「一部の猫にしている」(6.6%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「飼っているすべての猫にしている」(80.9%)が最も高く、次いで「していない」(9.8%)、「一部の猫にしている」(7.5%)となっている。

図表 3-(13)-1 猫の不妊・去勢手術をしているかについて



猫の不妊・去勢手術をしているかについて、

性別にみると、

男女とも「飼っているすべての猫にしている」が最も高く、『男性』82.0%、『女性』80.0%で、これに「していない」が『男性』9.0%、『女性』10.8%が続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「一部の猫にしている」が最も高く、そのほかの年齢別では「飼っているすべての猫にしている」が最も高くなっている。これに『20～29歳』、『30～39歳』、『60～69歳』では「一部の猫にしている」が、そのほかの年齢別では「していない」が続いている。『20～29歳』、『60～69歳』では「していない」が同率が続いている。

職業別にみると、

いずれも「飼っているすべての猫にしている」が7割台以上で最も高くなっている。いずれも、これに「していない」が続いている。『主婦・主夫』、『無職』では「一部の猫にしている」が同率が続いている。

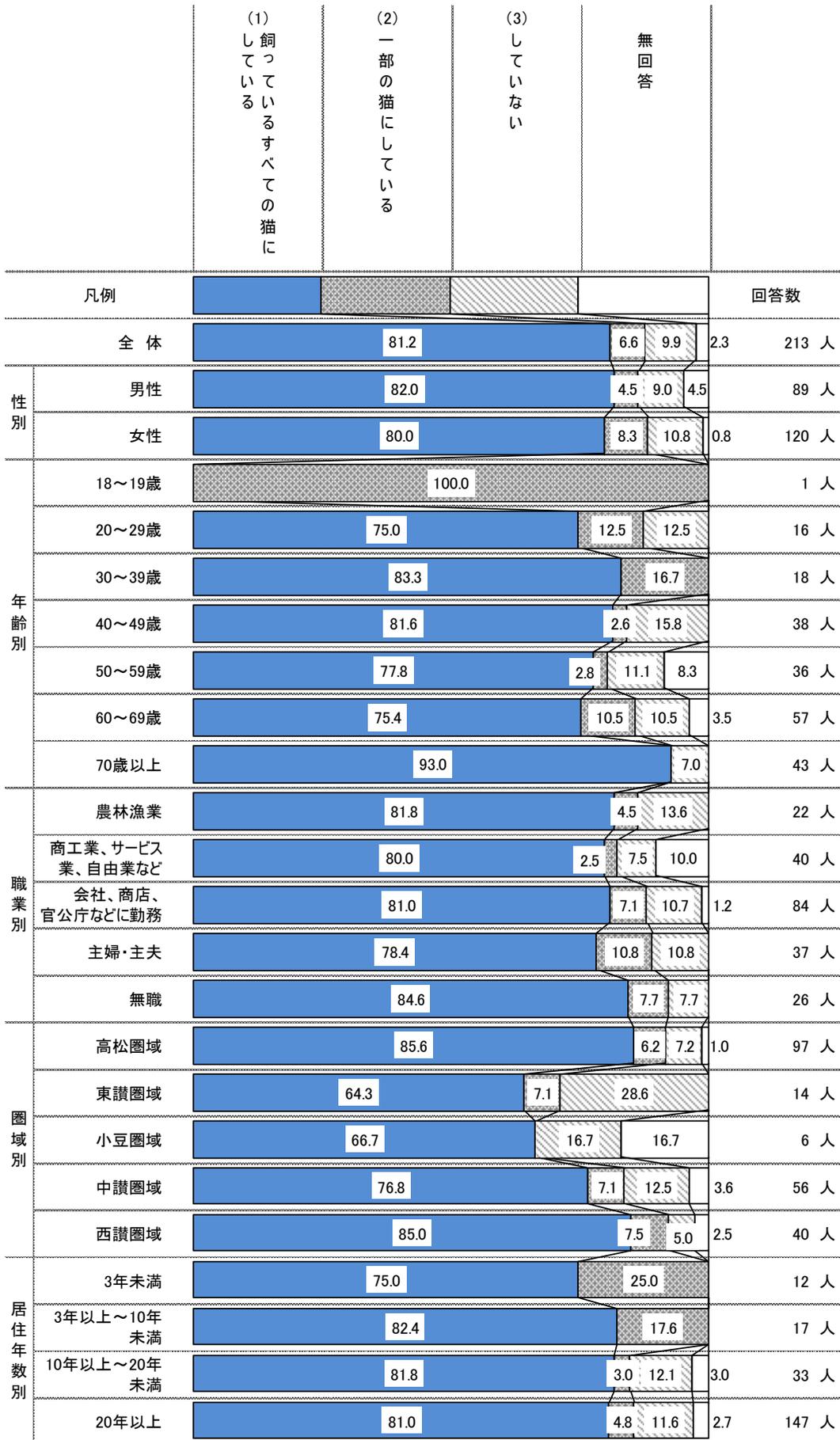
圏域別にみると、

いずれも「飼っているすべての猫にしている」が6割～8割台で最も高くなっている。これに『西讃圏域』では「一部の猫にしている」が、そのほかの圏域別では「していない」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「飼っているすべての猫にしている」が7割～8割台で最も高くなっている。これに『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「一部の猫にしている」が、そのほかの居住年数別では「していない」が続いている。

図表 3-(13)-2 【猫の不妊・去勢手術をしているかについて】



グラフ単位：(%)

(14)どのようにして猫を飼っているかについて

付問22 どのようにして猫を飼っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

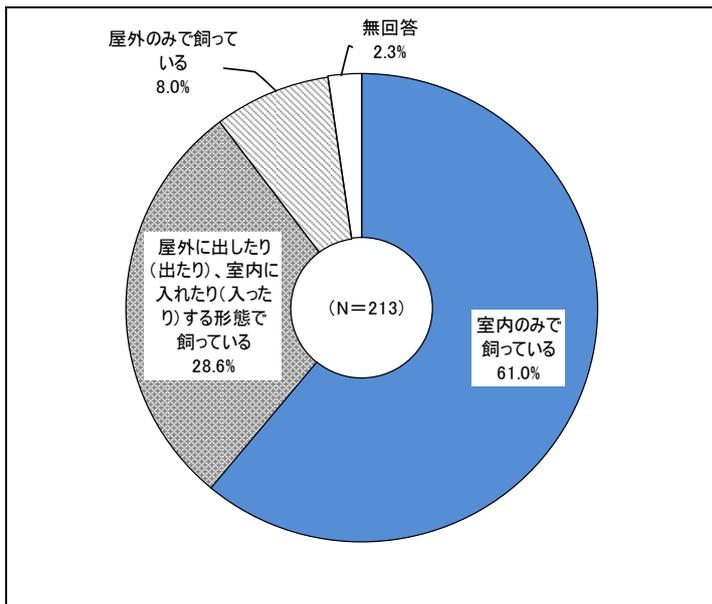
【回答者数=213(214)】

1 室内のみで飼っている	61.0% (61.3%)
2 屋外に出したり (出たり)、室内に入れたり (入ったり) する形態で飼っている	28.6% (29.3%)
3 屋外のみで飼っている	8.0% (7.5%)
4 その他	0.0% (0.0%)
(無回答)	2.3% (1.8%)

どのようにして猫を飼っているかについて、「室内のみで飼っている」(61.0%)が最も高く、次いで「屋外に出したり(出たり)、室内に入れたり(入ったり)する形態で飼っている」(28.6%)、「屋外のみで飼っている」(8.0%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「室内のみで飼っている」(61.3%)が最も高く、次いで「屋外に出したり(出たり)、室内に入れたり(入ったり)する形態で飼っている」(29.3%)、「屋外のみで飼っている」(7.5%)となっている。

図表 3-(14)-1 どのようにして猫を飼っているかについて



どのようにして猫を飼っているかについて、

性別にみると、

男女とも「室内のみで飼っている」が最も高く、『男性』55.1%、『女性』65.8%で、これに、「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が『男性』36.0%、『女性』22.5%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高く、そのほかの年齢別では「室内のみで飼っている」が最も高くなっている。これに「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。『50～59歳』では「屋外のみで飼っている」も同率で続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高く、そのほかの職業別では「室内のみで飼っている」が最も高くなっている。これに『農林漁業』では「室内のみで飼っている」が、そのほかの職業別では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。

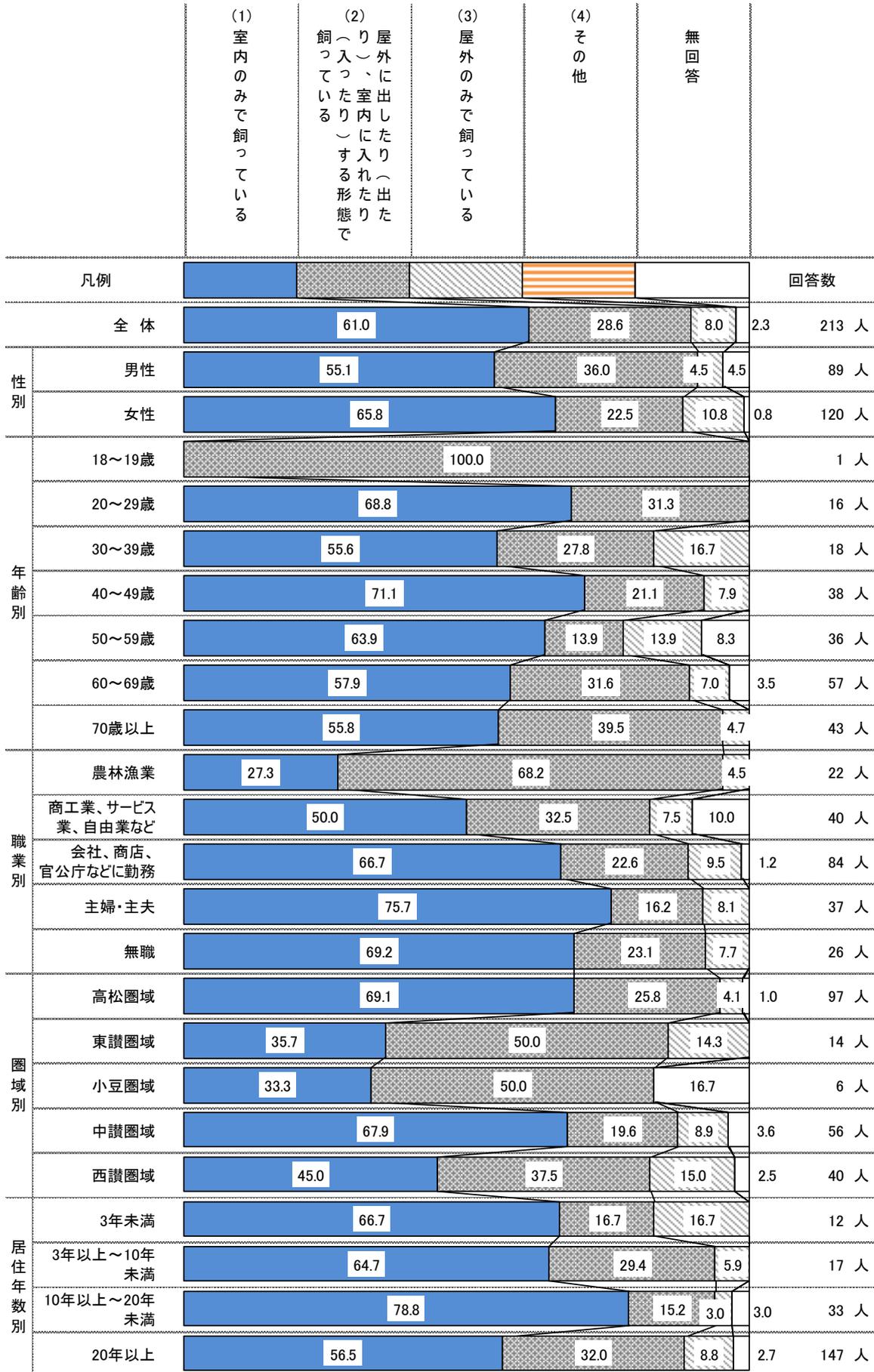
圏域別にみると、

『東讃圏域』、『小豆圏域』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高く、そのほかの圏域別では「室内のみで飼っている」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』、『小豆圏域』では「室内のみで飼っている」が、そのほかの圏域別では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「室内のみで飼っている」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。『3年未満』では「屋外のみで飼っている」も同率で続いている。

図表 3-(14)-2 【どのようにして猫を飼っているかについて】



グラフ単位：(%)

4. 骨髄移植について

(1) 骨髄移植に関心があるかについて

問13 あなたは、骨髄移植に関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

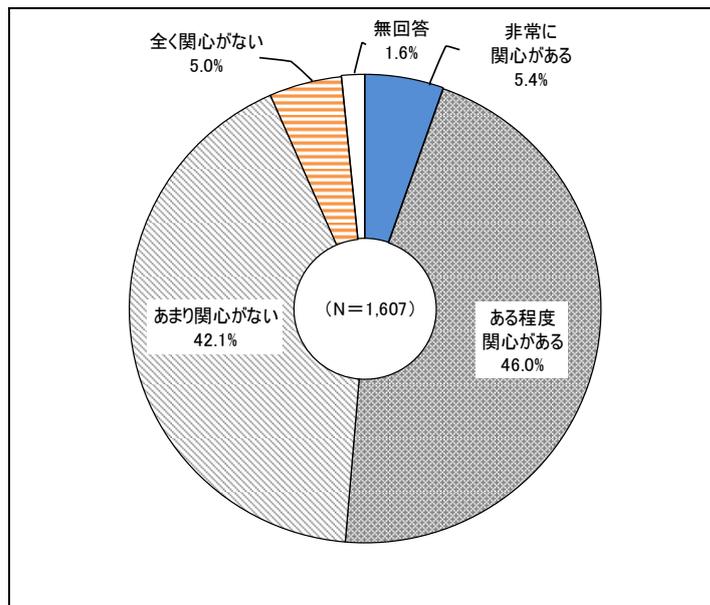
【回答者数=1,607】

1 非常に関心がある	5.4% (5.8%)
2 ある程度関心がある	46.0% (46.4%)
3 あまり関心がない	42.1% (41.0%)
4 全く関心がない	5.0% (5.4%)
(無回答)	1.6% (1.4%)

骨髄移植に関心があるかについて、「ある程度関心がある」(46.0%)が最も高く、次いで「あまり関心がない」(42.1%)、「非常に関心がある」(5.4%)、「全く関心がない」(5.0%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度関心がある」(46.4%)が最も高く、次いで「あまり関心がない」(41.0%)、「非常に関心がある」(5.8%)、「全く関心がない」(5.4%)となっている。

図表 4-(1)-1 骨髄移植に関心があるかについて



骨髄移植に関心があるかについて、

性別にみると、

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】は『男性』46.9%、『女性』55.2%と、女性が高い。

「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】は『男性』51.7%、『女性』43.5%と、男性が高い。

年齢別にみると、

【関心がある】の割合は『18～19歳』（86.7%）が高く、『20～29歳』（45.8%）が低い。

【関心がない】の割合は『20～29歳』（54.2%）が高く、『18～19歳』（13.3%）が低い。

職業別にみると、

【関心がある】の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』（55.0%）が高く、『農林漁業』（44.6%）が低い。

【関心がない】の割合は『農林漁業』（52.5%）が高く、『商工業、サービス業、自由業など』（44.0%）が低い。

圏域別にみると、

【関心がある】の割合は『東讃圏域』（58.4%）が高く、『中讃圏域』（48.5%）が低い。

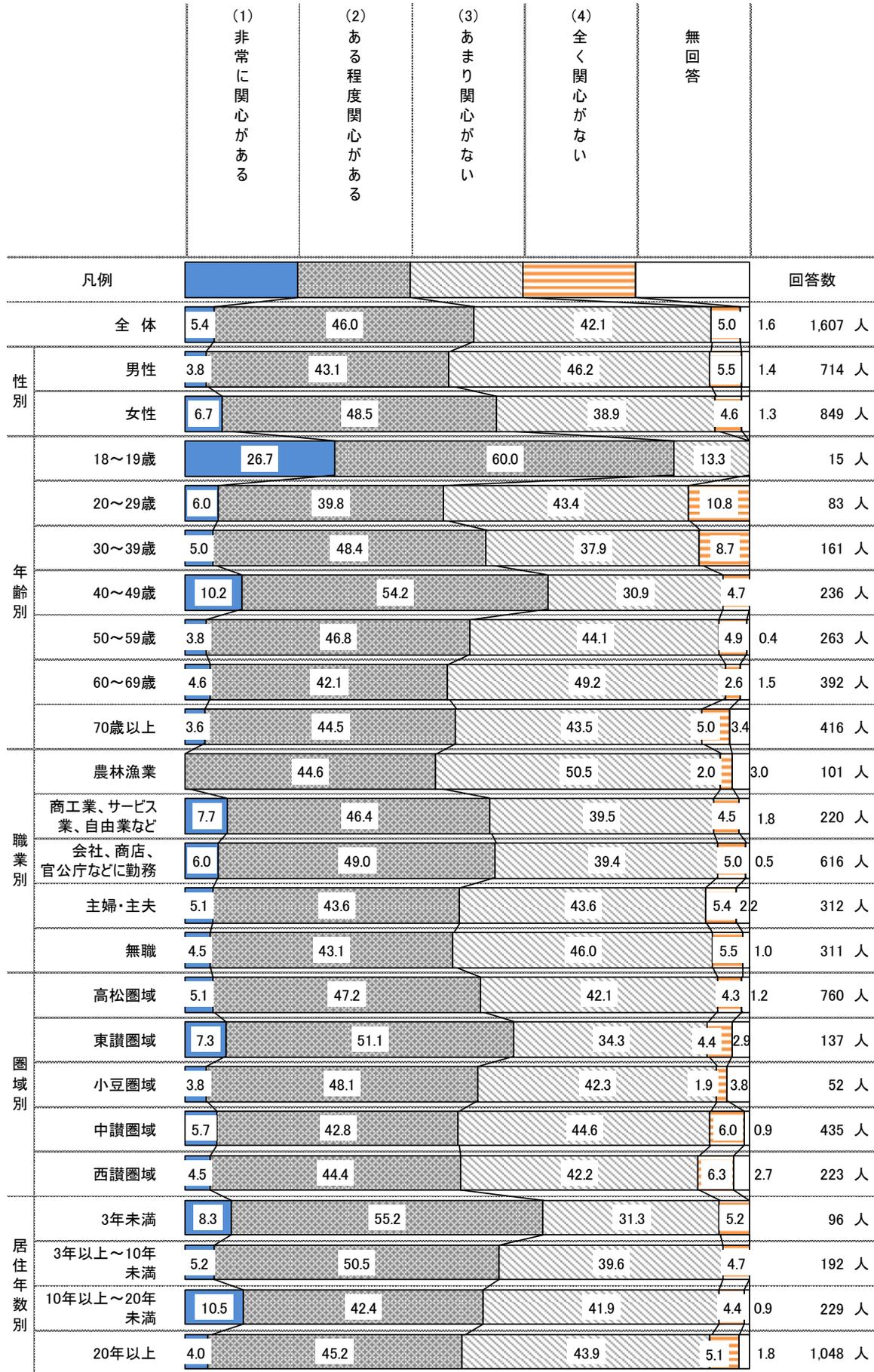
【関心がない】の割合は『中讃圏域』（50.6%）が高く、『東讃圏域』（38.7%）が低い。

居住年数別にみると、

【関心がある】の割合は『3年未満』（63.5%）が高く、『20年以上』（49.2%）が低い。

【関心がない】の割合は『20年以上』（49.0%）が高く、『3年未満』（36.5%）が低い。

図表 4-(1)-2 【骨髄移植に関心があるかについて】



グラフ単位：(%)

(2) 骨髄移植に関心を持ったきっかけについて

【問13で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問23 あなたが骨髄移植に関心を持ったきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=825(839)】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオで話題になったから	65.1% (64.8%)
2	新聞・雑誌で話題になったから	50.1% (48.1%)
3	ポスターやチラシを見たから	17.9% (17.7%)
4	身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから	11.5% (11.3%)
5	職場や学校での会話で話題になったから	8.1% (9.3%)
6	家庭での会話で話題になったから	6.5% (6.6%)
7	本を読んだから	5.7% (5.7%)
8	ビデオを見たから	2.9% (2.9%)
9	イベントに参加したから	1.0% (0.9%)
10	その他	4.0% (4.0%)
	(無回答)	1.3% (1.2%)

骨髄移植に関心を持ったきっかけについて、「テレビ・ラジオで話題になったから」(65.1%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌で話題になったから」(50.1%)、「ポスターやチラシを見たから」(17.9%)、「身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから」(11.5%) などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ・ラジオで話題になったから」(64.8%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌で話題になったから」(48.1%)、「ポスターやチラシを見たから」(17.7%)、「身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから」(11.3%) などとなっている。

図表 4-(2)-1 骨髄移植に関心を持ったきっかけについて

		回答数
全体	100.0	825 人
(1) テレビ・ラジオで話題になったから	65.1	537 人
(2) 新聞・雑誌で話題になったから	50.1	413 人
(3) ポスターやチラシを見たから	17.9	148 人
(4) 身近に、骨髄移植者(または骨髄移植希望者)がいるから	11.5	95 人
(5) 職場や学校での会話で話題になったから	8.1	67 人
(6) 家庭での会話で話題になったから	6.5	54 人
(7) 本を読んだから	5.7	47 人
(8) ビデオを見たから	2.9	24 人
(9) イベントに参加したから	1.0	8 人
(10) その他	4.0	33 人
無回答	1.3	11 人

グラフ単位:(%)

骨髄移植に関心を持ったきっかけについて、

性別にみると、

男女とも「テレビ・ラジオで話題になったから」が最も高く、『男性』65.4%、『女性』65.2%で、これに「新聞・雑誌で話題になったから」が、『男性』51.3%、『女性』49.9%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「テレビ・ラジオで話題になったから」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌で話題になったから」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「テレビ・ラジオで話題になったから」が6割台で最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌で話題になったから」が4割～5割台で続いている。

圏域別にみると、

いずれも「テレビ・ラジオで話題になったから」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌で話題になったから」が4割～5割台で続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「テレビ・ラジオで話題になったから」が半数を超えて最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌で話題になったから」が3割～5割台で続いている。

図表 4-(2)-2 【骨髄移植に関心を持ったきっかけについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
	全体（人）	テレビ・ラジオで話題になったから	新聞・雑誌で話題になったから	ポスターやチラシを見たから	身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから	職場や学校での会話で話題になったから	家庭での会話で話題になったから	本を読んだから	ビデオを見たから	イベントに参加したから	その他	無回答	
全体		825	65.1	50.1	17.9	11.5	8.1	6.5	5.7	2.9	1.0	4.0	1.3
	(ウェイトバック集計結果)	839	64.8	48.1	17.7	11.3	9.3	6.6	5.7	2.9	0.9	4.0	1.2
性別	男性	335	65.4	51.3	21.2	9.3	10.4	5.7	5.7	2.7	0.6	5.4	0.6
	女性	469	65.2	49.9	15.8	13.2	6.6	6.8	5.5	2.8	1.3	3.2	1.7
年齢別	18～19歳	13	61.5	30.8	15.4	7.7	23.1	-	7.7	-	-	7.7	-
	20～29歳	38	57.9	28.9	10.5	13.2	26.3	10.5	7.9	2.6	-	2.6	-
	30～39歳	86	68.6	39.5	24.4	5.8	10.5	2.3	5.8	2.3	-	5.8	-
	40～49歳	152	67.1	42.8	12.5	13.8	9.9	7.9	2.6	0.7	1.3	3.3	1.3
	50～59歳	133	60.9	49.6	14.3	12.8	10.5	4.5	3.8	2.3	2.3	6.8	-
	60～69歳	183	68.3	55.2	19.7	13.1	6.0	5.5	7.7	1.6	1.1	3.8	2.7
	70歳以上	200	64.0	62.5	22.0	10.5	2.0	8.5	6.5	6.0	0.5	2.5	1.5
職業別	農林漁業	45	66.7	53.3	24.4	13.3	-	4.4	2.2	2.2	-	6.7	2.2
	商工業、サービス業、自由業など	119	62.2	47.9	11.8	11.8	5.9	1.7	5.9	1.7	-	8.4	0.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	339	65.2	46.3	18.0	12.7	12.7	7.4	4.1	1.5	1.5	3.5	1.2
	主婦・主夫	152	66.4	57.9	14.5	10.5	3.3	8.6	6.6	3.9	1.3	2.0	1.3
	無職	148	66.2	52.7	24.3	10.1	7.4	6.1	8.8	5.4	0.7	3.4	1.4
圏域別	高松圏域	398	63.8	47.2	18.1	12.1	9.0	6.3	6.3	2.8	0.8	4.3	1.0
	東讃圏域	80	62.5	48.8	13.8	10.0	11.3	5.0	6.3	3.8	1.3	3.8	2.5
	小豆圏域	27	55.6	40.7	29.6	14.8	-	7.4	7.4	7.4	-	11.1	-
	中讃圏域	211	70.1	53.1	19.4	11.4	5.7	7.1	4.3	3.3	1.9	2.4	1.9
	西讃圏域	109	64.2	57.8	14.7	10.1	9.2	7.3	5.5	0.9	-	4.6	0.9
居住年数別	3年未満	61	55.7	36.1	23.0	4.9	13.1	4.9	11.5	3.3	-	8.2	-
	3年以上～10年未満	107	73.8	43.0	15.0	11.2	7.5	5.6	4.7	0.9	0.9	1.9	0.9
	10年以上～20年未満	121	69.4	47.9	14.0	14.9	15.7	6.6	6.6	0.8	0.8	3.3	-
	20年以上	516	63.6	54.3	19.0	11.8	6.0	6.6	4.8	3.5	1.2	4.3	1.7

(3) 骨髄バンクについて

問14 あなたは、骨髄バンクのことを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

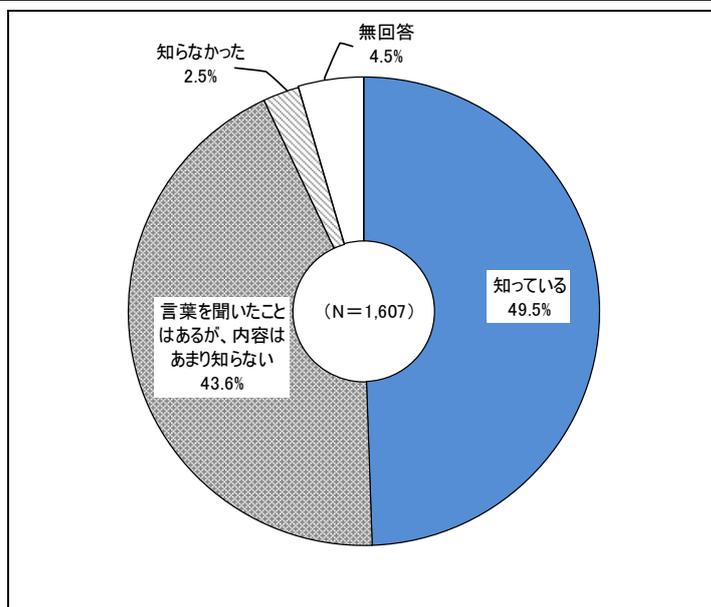
【回答者数=1,607】

1 知っている	49.5% (50.2%)
2 言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない	43.6% (42.8%)
3 知らなかった	2.5% (2.6%)
(無回答)	4.5% (4.4%)

骨髄バンクについて、「知っている」(49.5%)が最も高く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」(43.6%)、「知らなかった」(2.5%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知っている」(50.2%)が最も高く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」(42.8%)、「知らなかった」(2.6%)となっている。

図表 4-(3)-1 骨髄バンクについて



骨髄バンクについて、

性別にみると、

男女とも「知っている」が最も高く、『男性』47.8%、『女性』51.5%で、これに「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が『男性』45.5%、『女性』41.5%で続いている。

年齢別にみると、

『70歳以上』では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が最も高く、そのほかの年齢別では「知っている」が最も高くなっている。これに『70歳以上』では「知っている」が、そのほかの年齢別では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』、『無職』では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が最も高く、『主婦・主夫』では「知っている」、「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が高く、そのほかの職業別では「知っている」が最も高くなっている。これに『農林漁業』、『無職』では「知っている」が、そのほかの職業別では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が続いている。

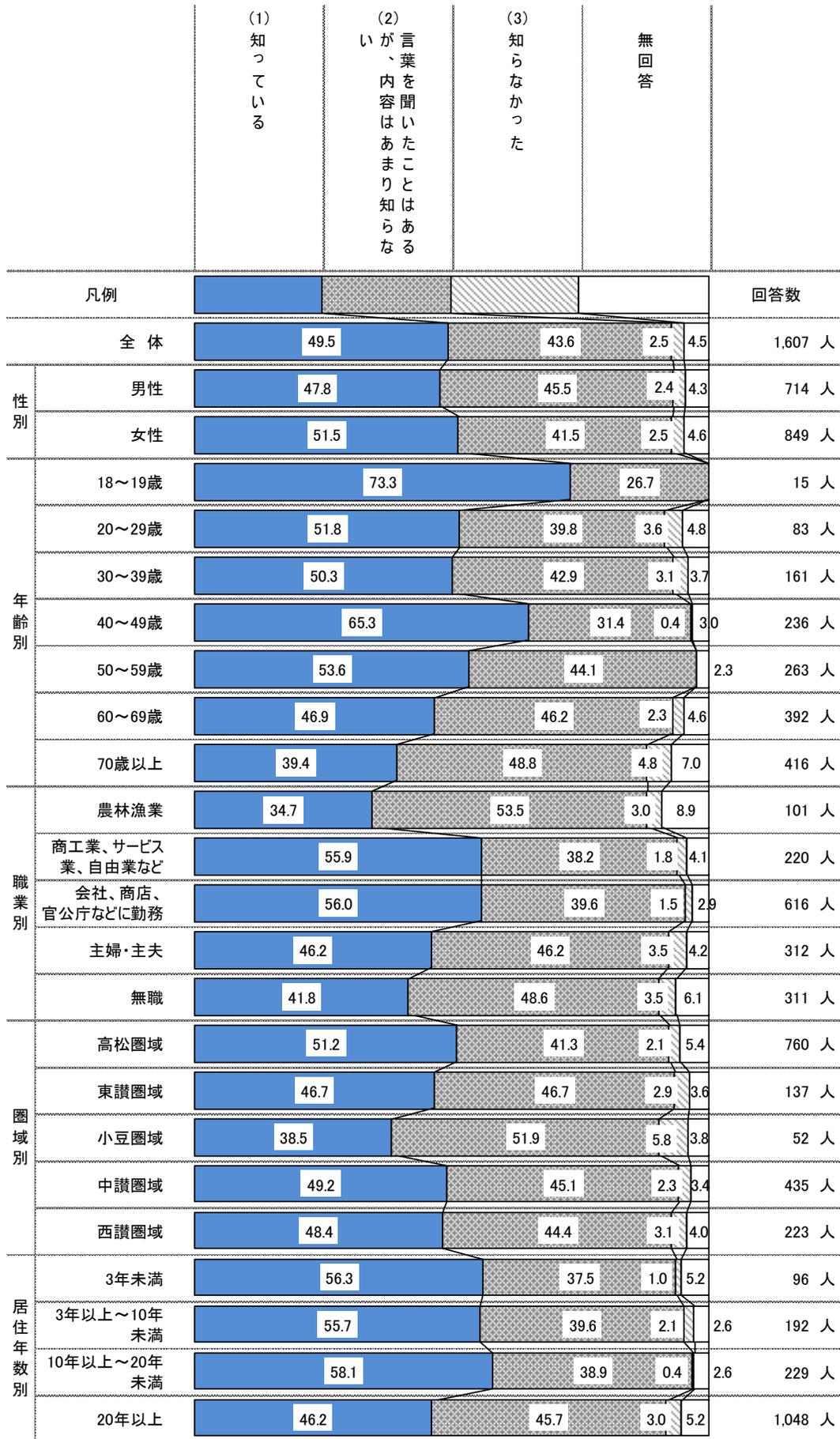
圏域別にみると、

『小豆圏域』では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が最も高く、『東讃圏域』では「知っている」、「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が高く、そのほかの圏域別では「知っている」が最も高くなっている。これに『小豆圏域』では「知っている」が、そのほかの圏域別では「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が4割台で続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「知っている」が4割～5割台で最も高くなっている。いずれも、これに「言葉を聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が3割～4割台で続いている。

図表 4-(3)-2 【骨髄バンクについて】



グラフ単位：(%)

(4) 骨髄バンクを何で知ったかについて

【問14で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問24 あなたは、骨髄バンクを何で知りましたか。該当するものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,495】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ	77.9% (77.5%)
2	新聞・雑誌	55.8% (52.6%)
3	献血会場 (血液センター、献血ルーム、献血バスなど)	16.1% (16.4%)
4	ラジオ	15.7% (15.7%)
5	学校・職場	9.2% (10.9%)
6	インターネット	8.0% (9.2%)
7	知人・友人	6.0% (5.8%)
8	ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)	1.5% (1.8%)
9	その他	1.2% (1.3%)
	(無回答)	1.7% (1.5%)

骨髄バンクを何で知ったかについて、「テレビ」(77.9%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌」(55.8%)、「献血会場(血液センター、献血ルーム、献血バスなど)」(16.1%)、「ラジオ」(15.7%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ」(77.5%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌」(52.6%)、「献血会場(血液センター、献血ルーム、献血バスなど)」(16.4%)、「ラジオ」(15.7%)などとなっている。

図表 4-(4)-1 骨髄バンクを何で知ったかについて

		回答数
全体	100.0	1,495 人
(1) テレビ	77.9	1,165 人
(2) 新聞・雑誌	55.8	834 人
(3) 献血会場(血液センター、献血ルーム、 献血バスなど)	16.1	240 人
(4) ラジオ	15.7	235 人
(5) 学校・職場	9.2	138 人
(6) インターネット	8.0	119 人
(7) 知人・友人	6.0	90 人
(8) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)	1.5	22 人
(9) その他	1.2	18 人
無回答	1.7	25 人

グラフ単位：(%)

骨髄バンクを何で知ったかについて、

性別にみると、

男女とも「テレビ」が最も高く、『男性』77.0%、『女性』79.5%で、これに「新聞・雑誌」が『男性』57.2%、『女性』54.8%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「テレビ」が6割～8割台で最も高くなっている。これに『20～29歳』では「学校・職場」が、そのほかの年齢別では「新聞・雑誌」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「テレビ」が7割～8割台で最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌」が4割～6割台で続いている。

圏域別にみると、

いずれも「テレビ」が7割～8割台で最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌」が半数を超えて続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「テレビ」が7割～8割台で最も高くなっている。いずれも、これに「新聞・雑誌」が3割～6割台で続いている。

図表 4-(4)-2 【骨髄バンクを何で知ったかについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	テレビ	新聞・雑誌	献血会場 (血液センター、 献血ルーム、 献血バスなど)	ラジオ	学校・職場	インターネット	知人・友人	ソーシャル・ ネットワーク・ サービス(SNS)	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		1,495	77.9	55.8	16.1	15.7	9.2	8.0	6.0	1.5	1.2	1.7
	(ウェイトバック集計結果)	1,495	77.5	52.6	16.4	15.7	10.9	9.2	5.8	1.8	1.3	1.5
性別	男性	666	77.0	57.2	14.4	19.5	8.4	9.8	4.7	0.9	1.2	1.5
	女性	789	79.5	54.8	17.1	12.7	10.3	6.6	6.8	2.0	1.3	1.6
年齢別	18～19歳	15	80.0	53.3	13.3	6.7	33.3	20.0	-	6.7	6.7	-
	20～29歳	76	67.1	19.7	21.1	11.8	31.6	19.7	-	3.9	1.3	-
	30～39歳	150	80.7	34.7	20.0	20.0	16.0	20.0	4.7	5.3	2.7	0.7
	40～49歳	228	79.8	43.4	17.1	19.3	10.5	7.9	7.9	0.4	0.9	-
	50～59歳	257	78.2	58.8	18.3	18.7	8.9	7.8	5.4	1.6	1.9	1.6
	60～69歳	365	79.7	68.2	14.2	12.3	6.8	4.7	5.2	0.3	1.1	2.5
	70歳以上	367	77.1	65.4	12.3	14.4	3.3	3.8	7.4	1.1	0.3	2.7
職業別	農林漁業	89	71.9	67.4	14.6	21.3	3.4	2.2	4.5	1.1	-	1.1
	商工業、サービス業、 自由業など	207	78.7	57.5	18.4	15.5	6.8	12.1	4.3	2.4	1.0	1.0
	会社、商店、官公庁 などに勤務	589	78.4	48.9	18.5	18.2	13.4	9.5	5.9	1.7	2.2	1.5
	主婦・主夫	288	80.9	59.0	13.2	12.2	6.3	4.2	8.0	1.0	0.7	2.1
	無職	281	76.5	62.3	11.7	12.8	8.2	7.8	5.0	1.1	0.4	2.1
圏域別	高松圏域	703	77.4	55.5	17.1	16.4	10.4	9.5	5.7	1.7	1.8	1.7
	東讃圏域	128	75.0	54.7	14.1	14.1	11.7	4.7	3.9	-	2.3	3.1
	小豆圏域	47	83.0	68.1	21.3	8.5	8.5	4.3	8.5	-	-	-
	中讃圏域	410	78.5	56.3	14.6	14.9	6.6	7.3	7.8	1.7	0.5	1.2
	西讃圏域	207	79.2	53.6	15.5	17.9	9.2	6.8	4.3	1.4	-	1.9
居住年数別	3年未満	90	73.3	43.3	20.0	20.0	22.2	12.2	2.2	5.6	2.2	-
	3年以上～10年未満	183	79.2	37.2	17.5	16.4	6.6	13.7	6.6	1.6	1.1	1.6
	10年以上～20年未満	222	82.9	55.0	14.9	14.4	14.0	8.6	4.1	2.7	0.9	0.5
	20年以上	963	77.5	60.7	15.4	15.6	7.7	6.4	6.4	0.8	1.2	2.1

(5) ドナー登録をしているかについて

問15 あなたは、ドナー登録をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

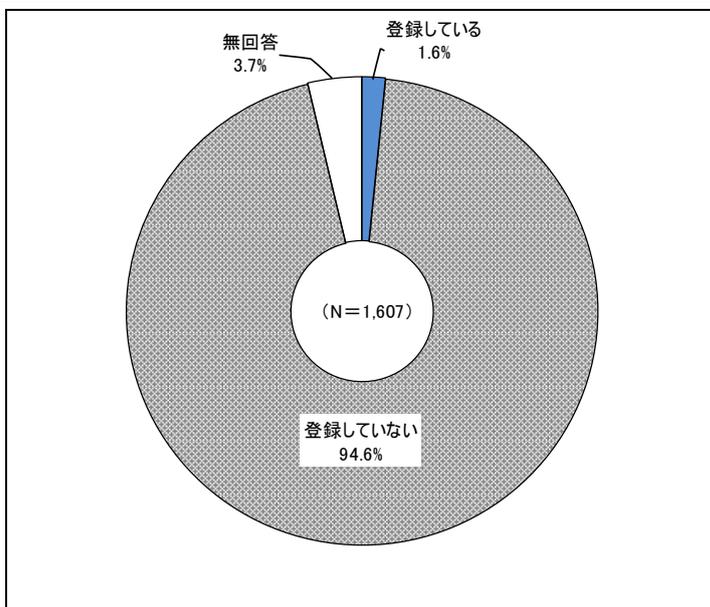
【回答者数=1,607】

1 登録している	1.6% (1.9%)
2 登録していない	94.6% (94.6%)
(無回答)	3.7% (3.5%)

ドナー登録をしているかについて、「登録している」(1.6%)、「登録していない」(94.6%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「登録している」(1.9%)、「登録していない」(94.6%)となっている。

図表 4-(5)-1 ドナー登録をしているかについて



ドナー登録をしているかについて、

性別にみると、

男女とも「登録していない」が9割以上を占めている。

年齢別にみると、

いずれも「登録していない」が9割以上を占めており、「登録している」は『18～19歳』で(6.7%)となっている。

職業別にみると、

いずれも「登録していない」が9割以上を占めている。

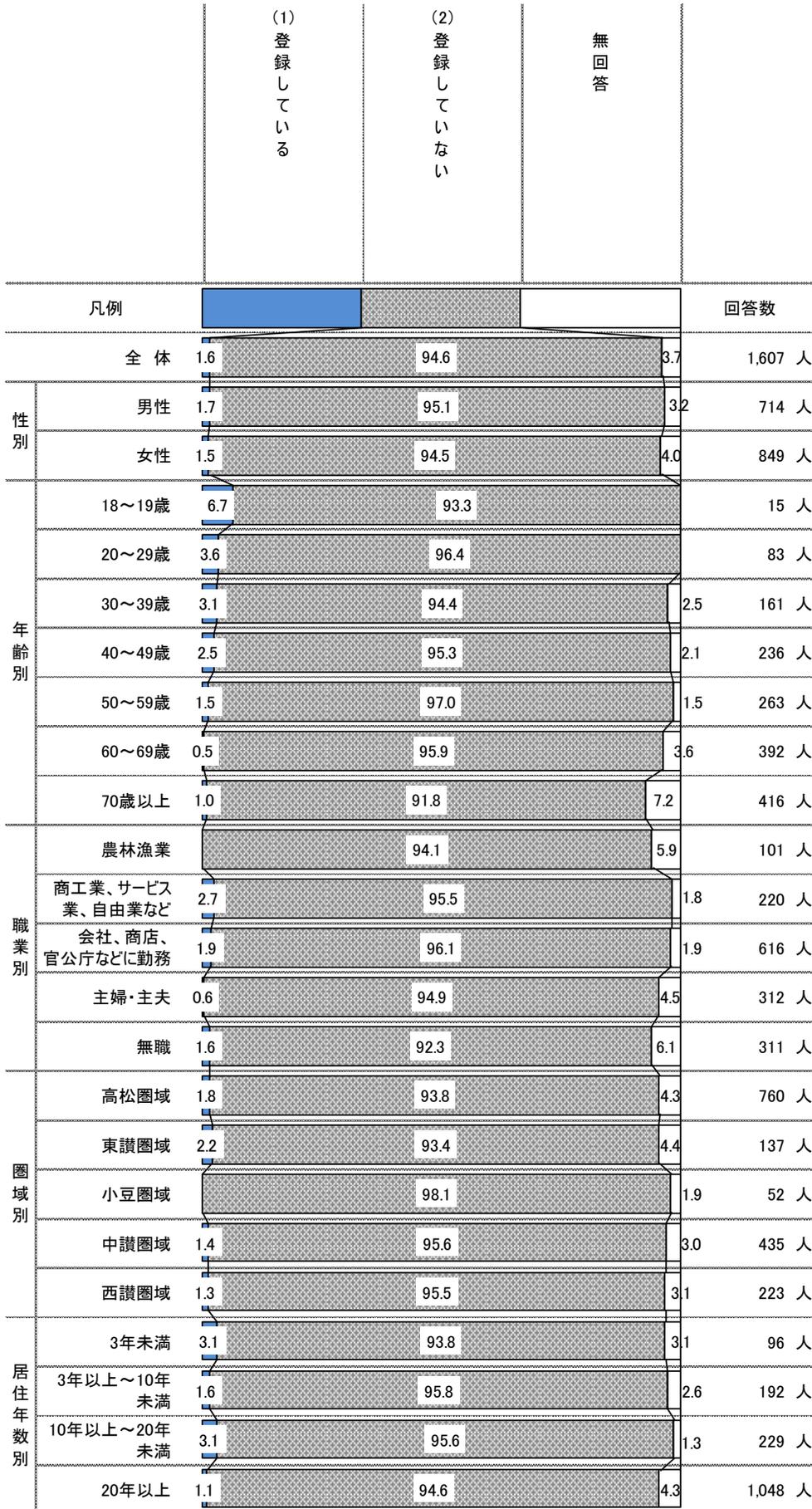
圏域別にみると、

いずれも「登録していない」が9割以上を占めている。

居住年数別にみると、

いずれも「登録していない」が9割以上を占めている。

図表 4-(5)-2 【ドナー登録をしているかについて】



グラフ単位：(%)

(6) 骨髄バンクに登録したきっかけについて

【問15で「1」と答えた方にお聞きします】

付問25 あなたが、骨髄バンクに登録したきっかけは何ですか。最も近いものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

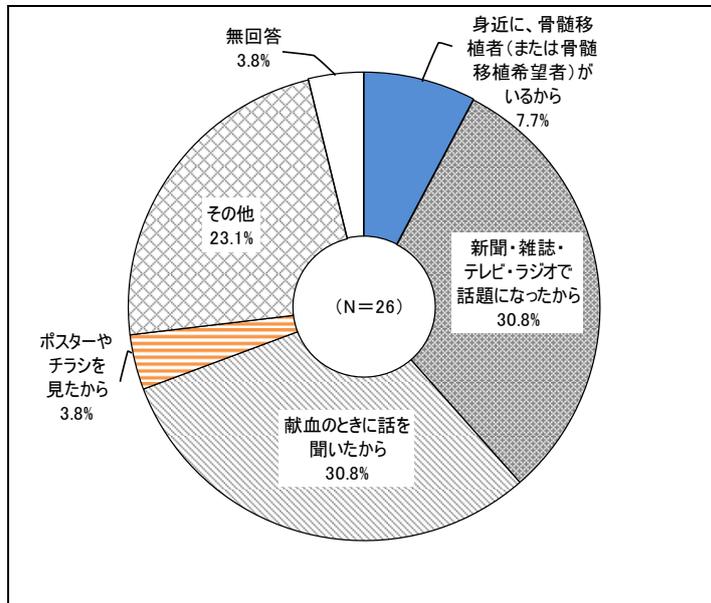
【回答者数=26(31)】

1	身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから	7.7% (10.0%)
2	新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になったから	30.8% (31.0%)
3	献血のときに話を聞いたから	30.8% (31.2%)
4	ポスターやチラシを見たから	3.8% (3.6%)
5	その他	23.1% (20.9%)
	(無回答)	3.8% (3.3%)

骨髄バンクに登録したきっかけについて、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になったから」、「献血のときに話を聞いたから」（ともに30.8%）が最も高く、次いで「その他」（23.1%）、「身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから」（7.7%）などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「献血のときに話を聞いたから」（31.2%）が最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になったから」（31.0%）、「その他」（20.9%）、「身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから」（10.0%）などとなっている。

図表 4-(6)-1 骨髄バンクに登録したきっかけについて



骨髄バンクに登録したきっかけについて、

性別にみると、

男女ともに「新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になったから」が最も高く、『男性』33.3%、『女性』30.8%が最も高くなっている。『女性』では「献血のときに話を聞いたから」、「その他」も同率となっている。これに『男性』では「献血のときに話を聞いたから」25.0%、『女性』では「身近に、骨髄移植者（または骨髄移植希望者）がいるから」7.7%が続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』、『70歳以上』では「献血のときに話を聞いたから」が最も高く、『50～59歳』では「その他」が、そのほかの年齢別では「新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になったから」が高くなっている。

職業別にみると、

あまり大きな差はみられなかった。

圏域別にみると、

あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、

あまり大きな差はみられなかった。

図表 4-(6)-2 【骨髄バンクに登録したきっかけについて】

	(1) 身近に、 骨髄移植 希望者 (がま いるか ら)	(2) 新聞・ 雑誌・ テレビ・ ラジ オで話 題にな ったか ら	(3) 献血の ときに 話を聞 いたか ら	(4) ポスター やチラシ を見た から	(5) その他	無 回 答	回答数
凡例							
全体	7.7	30.8	30.8	3.8	23.1	3.8	26 人
性別							
男性	8.3	33.3	25.0	8.3	16.7	8.3	12 人
女性	7.7	30.8	30.8		30.8		13 人
年齢別							
18～19歳		100.0					1 人
20～29歳	33.3		66.7				3 人
30～39歳	20.0	40.0		40.0			5 人
40～49歳		33.3	16.7	16.7	33.3		6 人
50～59歳		25.0	25.0		50.0		4 人
60～69歳		100.0					2 人
70歳以上			75.0		25.0		4 人
職業別							
農林漁業	0.0						- 人
商工業、サービス業、自由業など	16.7		50.0		16.7	16.7	6 人
会社、商店、官公庁などに勤務	8.3	16.7	33.3	8.3	33.3		12 人
主婦・主夫		50.0		50.0			2 人
無職		40.0		40.0	20.0		5 人
圏域別							
高松圏域		35.7	28.6	7.1	28.6		14 人
東讃圏域	33.3		66.7				3 人
小豆圏域	0.0						- 人
中讃圏域	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7		6 人
西讃圏域		33.3	33.3		33.3		3 人
居住年数別							
3年未満		33.3	33.3		33.3		3 人
3年以上～10年未満	33.3		33.3		33.3		3 人
10年以上～20年未満	14.3	42.9		28.6	14.3		7 人
20年以上	25.0		41.7		25.0	8.3	12 人

グラフ単位：(%)

(7) 骨髄バンクに登録していない理由について

【問15で「2」と答えた方にお聞きします】

付問26 あなたが骨髄バンクに登録していない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,521(1,520)】※回答数の多い順に並び替え

1	骨髄をとることに不安があるから	39.6% (40.4%)
2	骨髄バンクの制度をよく知らないから	35.9% (37.1%)
3	年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから	31.8% (28.6%)
4	骨髄移植についてよく知らないから	22.1% (22.9%)
5	登録できる場所がわからない、行きづらいから	20.1% (22.0%)
6	登録の手続きが面倒、時間がかかるから	9.9% (10.6%)
7	興味・関心がないから	8.5% (9.0%)
8	家族などの賛成が得られないから (家族などに心配されるから)	6.2% (6.9%)
9	特になし	5.9% (5.9%)
10	その他	1.6% (1.7%)
	(無回答)	2.0% (1.8%)

骨髄バンクに登録していない理由について、「骨髄をとることに不安があるから」(39.6%)が最も高く、次いで「骨髄バンクの制度をよく知らないから」(35.9%)、「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」(31.8%)、「骨髄移植についてよく知らないから」(22.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「骨髄をとることに不安があるから」(40.4%)が最も高く、次いで「骨髄バンクの制度をよく知らないから」(37.1%)、「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」(28.6%)、「骨髄移植についてよく知らないから」(22.9%)などとなっている。

図表 4-(7)-1 骨髄バンクに登録していない理由について

		回答数
全体	100.0	1,521 人
(1) 骨髄をとることに不安があるから	39.6	603 人
(2) 骨髄バンクの制度をよく知らないから	35.9	546 人
(3) 年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから	31.8	483 人
(4) 骨髄移植についてよく知らないから	22.1	336 人
(5) 登録できる場所がわからない、行きづらいから	20.1	306 人
(6) 登録の手続きが面倒、時間がかかるから	9.9	151 人
(7) 興味・関心がないから	8.5	129 人
(8) 家族などの賛成が得られないから(家族などに心配されるから)	6.2	95 人
(9) 特にない	5.9	89 人
(10) その他	1.6	24 人
無回答	2.0	30 人

グラフ単位：(%)

骨髄バンクに登録していない理由について、

性別にみると、

『男性』では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が最も高く 37.3%、『女性』では「骨髄をとることに不安があるから」43.1%が最も高くなっている。これに『男性』では「骨髄をとることに不安があるから」が 36.4%、『女性』では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が 35.3%で続いている。

年齢別にみると、

『18～19歳』では「登録できる場所がわからない、行きづらいから」、「骨髄移植についてよく知らないから」が、『30～39歳』では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」、「骨髄をとることに不安があるから」が高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」が、そのほかの年齢別では「骨髄をとることに不安があるから」が最も高くなっている。これに『30～39歳』では「登録できる場所がわからない、行きづらいから」が、『60～69歳』では「骨髄をとることに不安があるから」が、そのほかの年齢別では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が続いている。

職業別にみると、

『商工業、サービス業、自由業など』では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「骨髄をとることに不安があるから」が、そのほかの職業別では「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」が最も高くなっている。これに『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「骨髄をとることに不安があるから」が、そのほかの職業別では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が続いている。

圏域別にみると、

『東讃圏域』、『小豆圏域』では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が最も高く、そのほかの圏域別では「骨髄をとることに不安があるから」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』では「骨髄をとることに不安があるから」が、『小豆圏域』では「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」が、そのほかの圏域別では「骨髄バンクの制度をよく知らないから」が続いている。

居住年数別にみると、

『20年以上』では「年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから」が最も高く、そのほかの居住年数別では「骨髄をとることに不安があるから」が最も高くなっている。これに『20年以上』では「骨髄をとることに不安があるから」が、そのほかの居住年数別では「骨髄バンクの制度をよく知らない」が続いている。

図表 4-(7)-2 【骨髄バンクに登録していない理由について】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
		骨髄をとることに不安があるから	骨髄バンクの制度をよく知らないから	年齢、健康上の理由により登録の条件に該当せず登録できないから	骨髄移植についてよく知らないから	登録できる場所がわからない、行きづらいから	登録の手続きが面倒、時間がかかるから	興味・関心がないから	家族などの賛成が得られないから(家族などに心配されるから)	特になし	その他	
全体	1,521	39.6	35.9	31.8	22.1	20.1	9.9	8.5	6.2	5.9	1.6	2.0
(ウェイトバック集計結果)	1,520	40.4	37.1	28.6	22.9	22.0	10.6	9.0	6.9	5.9	1.7	1.8
性別												
男性	679	36.4	37.3	27.8	24.6	21.9	11.8	10.2	5.9	7.1	1.6	1.8
女性	802	43.1	35.3	34.5	19.8	19.1	8.4	7.0	6.7	4.6	1.6	2.0
年齢別												
18～19歳	14	35.7	57.1	7.1	64.3	64.3	28.6	14.3	28.6	-	-	-
20～29歳	80	46.3	43.8	5.0	21.3	30.0	8.8	16.3	7.5	7.5	1.3	1.3
30～39歳	152	46.7	46.7	5.3	28.3	32.9	16.4	10.5	9.9	7.9	3.9	0.7
40～49歳	225	60.9	38.2	8.0	21.8	30.2	14.7	7.6	8.4	5.3	3.6	-
50～59歳	255	47.1	32.2	23.1	18.4	20.0	11.0	8.6	5.5	7.5	1.2	0.4
60～69歳	376	37.2	33.8	44.4	22.6	15.7	6.9	7.4	4.8	5.3	0.5	3.2
70歳以上	382	21.7	33.5	55.0	20.2	11.0	6.3	7.1	4.7	4.2	1.0	3.7
職業別												
農林漁業	95	25.3	38.9	43.2	26.3	12.6	10.5	8.4	5.3	4.2	3.2	4.2
商工業、サービス業、自由業など	210	30.0	35.2	26.2	21.0	21.0	8.1	8.1	5.7	6.2	2.4	1.9
会社、商店、官公庁などに勤務	592	50.2	38.7	17.2	22.5	26.9	12.8	7.8	7.4	7.1	2.0	0.8
主婦・主夫	296	40.5	31.1	45.9	17.9	13.5	5.4	7.8	4.7	4.1	0.3	2.7
無職	287	30.7	36.2	45.6	24.4	16.4	9.4	10.8	6.3	4.9	1.0	2.4
圏域別												
高松圏域	713	41.8	35.9	33.0	20.8	20.5	10.0	6.3	6.2	4.3	2.1	2.1
東讃圏域	128	36.7	41.4	33.6	28.1	20.3	9.4	10.2	6.3	5.5	0.8	2.3
小豆圏域	51	27.5	41.2	33.3	31.4	23.5	11.8	7.8	5.9	5.9	-	-
中讃圏域	416	38.9	35.3	30.8	20.4	21.4	11.3	9.4	6.7	8.2	1.7	1.9
西讃圏域	213	38.5	32.4	28.2	23.9	15.5	7.0	13.1	5.6	6.6	0.5	1.9
居住年数別												
3年未満	90	44.4	40.0	14.4	15.6	26.7	12.2	6.7	7.8	7.8	5.6	-
3年以上～10年未満	184	45.7	41.3	13.6	22.8	31.5	14.1	8.7	10.9	8.7	2.2	1.1
10年以上～20年未満	219	53.9	39.3	22.8	23.7	27.4	10.5	6.8	5.5	5.9	0.9	0.9
20年以上	991	35.4	34.2	38.2	22.1	16.2	8.8	8.9	5.5	4.9	1.3	2.5

(8) 骨髄移植について、十分な情報が得られていると思うかについて

問16 あなたは、骨髄移植について、十分な情報が得られていると思いますか。最も近いものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

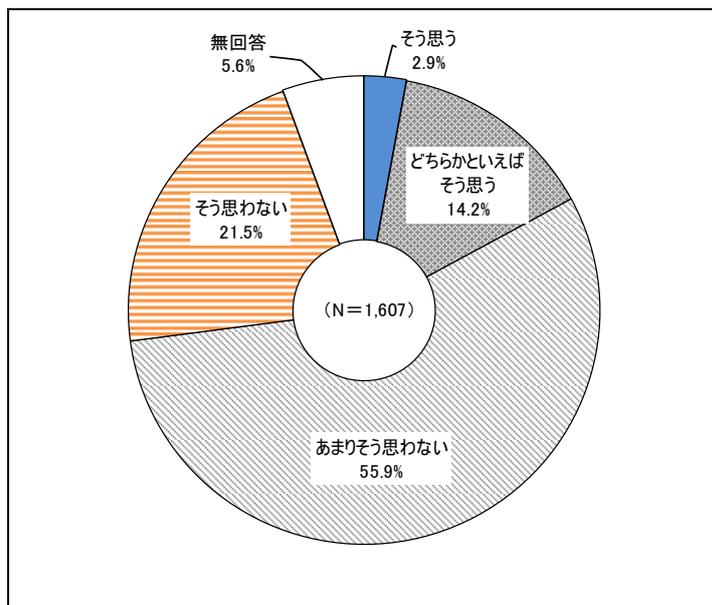
【回答者数=1,607】

1	そう思う	2.9% (2.9%)
2	どちらかといえばそう思う	14.2% (13.9%)
3	あまりそう思わない	55.9% (55.6%)
4	そう思わない	21.5% (22.2%)
	(無回答)	5.6% (5.4%)

骨髄移植について、十分な情報が得られていると思うかについて、「あまりそう思わない」(55.9%)が最も高く、次いで「そう思わない」(21.5%)、「どちらかといえばそう思う」(14.2%)、「そう思う」(2.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「あまりそう思わない」(55.6%)が最も高く、次いで「そう思わない」(22.2%)、「どちらかといえばそう思う」(13.9%)、「そう思う」(2.9%)となっている。

図表 4-(8)-1 骨髄移植について、十分な情報が得られていると思うかについて



骨髄移植について、十分な情報が得られていると思うかについて、

性別にみると、

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は『男性』15.8%、『女性』17.7%と、女性が高い。

「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】は『男性』79.4%、『女性』76.3%と、男性が高い。

年齢別にみると、

【そう思う】の割合は『70歳以上』(21.6%)が高く、『30～39歳』(11.2%)が低い。

【そう思わない】の割合は『30～39歳』(86.3%)が高く、『70歳以上』(65.6%)が低い。

職業別にみると、

【そう思う】の割合はあまり大きな差はみられなかった。

【そう思わない】の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』(81.9%)が高く、『無職』(73.3%)が低い。

圏域別にみると、

【そう思う】の割合はあまり大きな差はみられなかった。

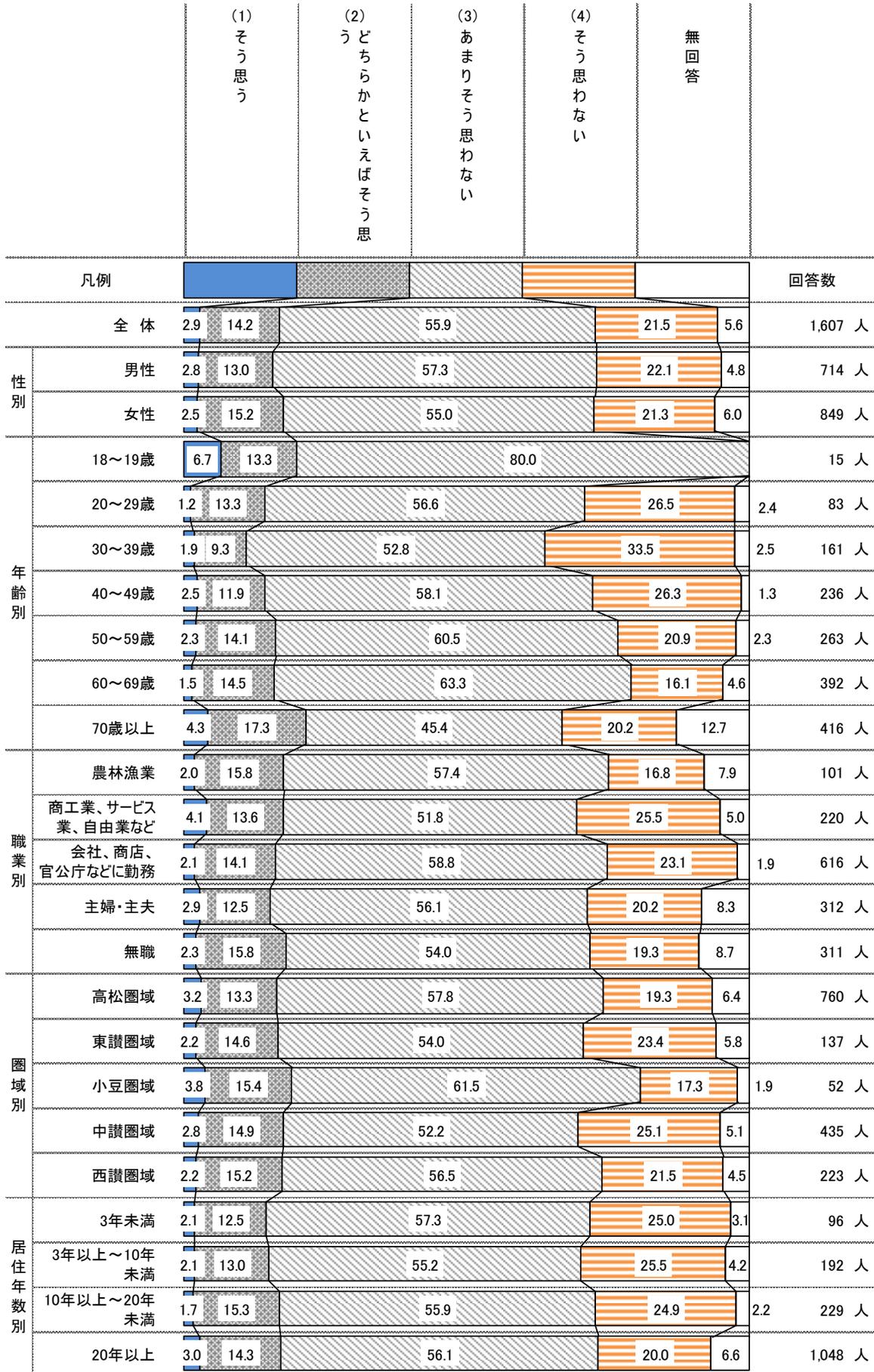
【そう思わない】の割合はいずれも7割台でありあまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、

【そう思う】の割合はあまり大きな差はみられなかった。

【そう思わない】の割合は7割～8割台でありあまり大きな差はみられなかった。

図表 4-(8)-2 【骨髄移植について、十分な情報が得られていると思うかについて】



グラフ単位：(%)

(9) 骨髄移植について知っていることについて

問17 あなたが骨髄移植について知っていることをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,607】 ※回答数の多い順に並び替え

- | | | |
|---|--|---------------|
| 1 | 骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと | 56.3% (56.9%) |
| 2 | ドナー登録後も、骨髄の提供を断ることができること | 16.9% (17.3%) |
| 3 | 骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと | 15.6% (15.6%) |
| 4 | 骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること | 15.4% (15.2%) |
| 5 | 骨髄バンクへのドナー登録ができる場所は、献血ルーム、献血バス、
県保健所などであること | 12.7% (12.5%) |
| 6 | 骨髄の提供には、通常3泊4日の入院や健康診断などにより7日程度かかること | 8.9% (8.8%) |
| | (無回答) | 30.2% (29.6%) |

骨髄移植について知っていることについて、「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」(56.3%)が最も高く、次いで「ドナー登録後も、骨髄の提供を断ることができること」(16.9%)、「骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと」(15.6%)、「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」(15.4%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」(56.9%)が最も高く、次いで「ドナー登録後も、骨髄の提供を断ることができること」(17.3%)、「骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと」(15.6%)、「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」(15.2%)などとなっている。

図表 4-(9)-1 骨髄移植について知っていることについて

		回答数
全体	100.0	1,607 人
(1) 骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと	56.3	904 人
(2) ドナー登録後も、骨髄の提供を断ることができること	16.9	271 人
(3) 骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと	15.6	251 人
(4) 骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること	15.4	247 人
(5) 骨髄バンクへのドナー登録ができる場所は、献血ルーム、献血バス、県保健所などであること	12.7	204 人
(6) 骨髄の提供には、通常3泊4日の入院や健康診断などにより7日程度かかること	8.9	143 人
無回答	30.2	486 人

グラフ単位:(%)

骨髄移植について知っていることについて、

性別にみると、

男女ともに「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」が最も高く、『男性』55.3%、『女性』58.4%で、これに「ドナーの登録後も、骨髄の提供を断ることができること」が『男性』14.8%、『女性』18.7%で続いている。

年齢別にみると、

いずれも「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」が4割～6割台で最も高くなっている。これに『60～69歳』では「骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと」が、『70歳以上』では「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」が、そのほかの年齢別では「ドナーの登録後も、骨髄の提供を断ることができること」が続いている。

職業別にみると、

いずれも「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」が4割～6割台で最も高くなっている。これに『農林漁業』では「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」が、そのほかの職業別では「ドナーの登録後も、骨髄の提供を断ることができること」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」が4割～5割台で最も高くなっている。これに『小豆圏域』では「骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと」が、『高松圏域』、『西讃圏域』では「ドナーの登録後も、骨髄の提供を断ることができること」が、そのほかの圏域別では「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」が続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「骨髄の提供は任意にされたものでなければならないこと」が半数を超えて最も高くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること」が、そのほかの居住年数別では「ドナーの登録後も、骨髄の提供を断ることができること」が続いている。

図表 4-(9)-2 【骨髄移植について知っていることについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体(人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無回答
		骨髄の提供は任意にされたものでなければならぬこと	ドナー登録後も、骨髄の提供を断ることができること	骨髄の提供のための検査費用、入院費などは一切かからないこと	骨髄バンクへのドナー登録は、献血にあわせてできること	骨髄バンクへのドナー登録ができる場所は、献血ルーム、献血バス、県保健所などであること	骨髄の提供には、通常3泊4日の入院や健康診断などにより7日程度かかること	
全体	1,607	56.3	16.9	15.6	15.4	12.7	8.9	30.2
(ウエイトバック集計結果)	1,607	56.9	17.3	15.6	15.2	12.5	8.8	29.6
性別								
男性	714	55.3	14.8	14.7	14.7	11.8	6.3	32.6
女性	849	58.4	18.7	16.4	15.5	13.4	11.5	27.1
年齢別								
18～19歳	15	60.0	33.3	26.7	26.7	20.0	20.0	13.3
20～29歳	83	68.7	19.3	18.1	8.4	9.6	8.4	19.3
30～39歳	161	60.9	17.4	14.9	13.7	11.2	7.5	26.7
40～49歳	236	59.3	19.5	12.7	15.7	10.2	9.7	25.8
50～59歳	263	64.6	18.6	16.7	16.3	11.0	11.0	24.3
60～69歳	392	54.8	15.8	18.6	15.6	14.5	11.0	29.6
70歳以上	416	48.8	14.2	13.0	15.1	14.2	6.3	39.2
職業別								
農林漁業	101	43.6	6.9	9.9	14.9	11.9	4.0	40.6
商工業、サービス業、自由業など	220	56.8	19.5	17.7	11.4	10.9	10.0	29.1
会社、商店、官公庁などに勤務	616	61.7	17.2	16.9	16.4	13.3	10.9	25.3
主婦・主夫	312	57.1	18.3	14.4	14.4	10.9	10.3	30.4
無職	311	52.7	16.7	14.8	16.1	14.8	5.8	33.8
圏域別								
高松圏域	760	56.4	19.2	17.1	16.1	14.7	10.1	28.7
東讃圏域	137	59.1	11.7	10.9	12.4	5.8	6.6	28.5
小豆圏域	52	50.0	15.4	26.9	7.7	13.5	9.6	32.7
中讃圏域	435	59.3	14.5	14.9	16.6	13.6	9.0	30.1
西讃圏域	223	49.3	17.0	12.1	14.3	8.1	5.8	36.3
居住年数別								
3年未満	96	63.5	21.9	17.7	11.5	11.5	8.3	17.7
3年以上～10年未満	192	64.1	14.1	12.5	15.1	13.0	8.3	27.1
10年以上～20年未満	229	62.9	21.4	21.0	15.7	13.1	14.0	24.5
20年以上	1,048	53.8	16.0	14.8	15.4	12.6	8.3	32.3

(10) 骨髄移植に関してどのような情報がほしいかについて

問18 あなたは、骨髄移植に関してどのような情報がほしいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,607】※回答数の多い順に並び替え

1	骨髄の提供による健康面への影響	49.1% (49.7%)
2	骨髄移植の安全性など移植医療の情報	48.8% (48.6%)
3	骨髄移植とは何か	33.5% (33.8%)
4	骨髄移植の実施状況	28.1% (29.0%)
5	骨髄バンクへの登録方法	24.0% (25.6%)
6	骨髄移植に要する費用などの情報	23.2% (24.4%)
7	移植患者の選ばれ方など骨髄移植の流れ	22.4% (23.6%)
8	骨髄移植の体験についての情報	21.2% (21.8%)
9	政府などが行っている骨髄移植に対する支援などの情報	16.0% (16.0%)
10	骨髄の提供、移植ができる施設の情報	15.3% (16.1%)
11	骨髄移植についての相談窓口の情報	10.1% (10.2%)
12	骨髄移植のあっせん機関、学会やボランティア団体などの関係団体の情報	5.5% (5.6%)
13	特にない	11.1% (11.3%)
14	その他	0.3% (0.4%)
15	わからない	5.0% (4.8%)
	(無回答)	6.2% (5.8%)

骨髄移植に関してどのような情報がほしいかについて、「骨髄の提供による健康面への影響」(49.1%)が最も高く、次いで「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」(48.8%)、「骨髄移植とは何か」(33.5%)、「骨髄移植の実施状況」(28.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「骨髄の提供による健康面への影響」(49.7%)が最も高く、次いで「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」(48.6%)、「骨髄移植とは何か」(33.8%)、「骨髄移植の実施状況」(29.0%)などとなっている。

図表 4-(10)-1 骨髄移植に関してどのような情報がほしいかについて

		回答数
全体	100.0	1,607 人
(1) 骨髄の提供による健康面への影響	49.1	789 人
(2) 骨髄移植の安全性など移植医療の情報	48.8	784 人
(3) 骨髄移植とは何か	33.5	538 人
(4) 骨髄移植の実施状況	28.1	452 人
(5) 骨髄バンクへの登録方法	24.0	386 人
(6) 骨髄移植に要する費用などの情報	23.2	373 人
(7) 移植患者の選ばれ方など骨髄移植の流れ	22.4	360 人
(8) 骨髄移植の体験についての情報	21.2	341 人
(9) 政府などが行っている骨髄移植に対する支援などの情報	16.0	257 人
(10) 骨髄の提供、移植ができる施設の情報	15.3	246 人
(11) 骨髄移植についての相談窓口の情報	10.1	162 人
(12) 骨髄移植のあっせん機関、学会やボランティア団体などの関係団体の情報	5.5	89 人
(13) 特にない	11.1	179 人
(14) その他	0.3	5 人
(15) わからない	5.0	81 人
無回答	6.2	100 人

グラフ単位：(%)

骨髄移植に関してどのような情報がほしいかについて、

性別にみると、

男女ともに「骨髄の提供による健康面への影響」が最も高く、その割合は『男性』47.9%、『女性』51.5%で、これに「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が『男性』46.6%、『女性』51.1%で続いている。

年齢別にみると、

『20～29歳』、『40～49歳』では「骨髄の提供による健康面への影響」が最も高く、『50～59歳』では「骨髄の提供による健康面への影響」、「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が高く、そのほかの年齢別では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が最も高くなっている。これに『18～19歳』では「骨髄移植の実施状況」が、『50～59歳』では「骨髄移植とは何か」が、『20～29歳』、『40～49歳』では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が、そのほかの年齢別では「骨髄の提供による健康面への影響」が続いている。

職業別にみると、

『農林漁業』では「骨髄移植とは何か」が最も高く、『無職』では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が、そのほかの職業別では「骨髄の提供による健康面への影響」が最も高くなっている。これに『無職』では「骨髄の提供による健康面への影響」が、そのほかの職業別では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が続いている。

圏域別にみると、

『東讃圏域』、『西讃圏域』では「骨髄の提供による健康面への影響」が最も高く、そのほかの圏域別では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が最も高くなっている。これに『東讃圏域』、『西讃圏域』では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が、そのほかの圏域別では「骨髄の提供による健康面への影響」が続いている。

居住年数別にみると、

『20年以上』では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が最も高く、そのほかの居住年数別では「骨髄の提供による健康面への影響」が最も高くなっている。これに『20年以上』では「骨髄の提供による健康面への影響」が、そのほかの居住年数別では「骨髄移植の安全性など移植医療の情報」が続いている。

図表 4-(10)-2 【骨髄移植に関してどのような情報がほしいかについて】

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)		
	全体 (人)	骨髄の提供による健康面への影響	骨髄移植の安全性など移植医療の情報	骨髄移植とは何か	骨髄移植の実施状況	骨髄バンクへの登録方法	骨髄移植に要する費用などの情報	移植患者の選ばれ方など骨髄移植の流れ	骨髄移植の体験についての情報	政府などが行っている骨髄移植に対する支援などの情報	骨髄の提供、移植ができる施設の情報	骨髄移植についての相談窓口の情報	骨髄移植のあっせん機関、学会やボランティア団体などの関係団体の情報	特になし	その他	わからない	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)																	
全体	1,607	49.1	48.8	33.5	28.1	24.0	23.2	22.4	21.2	16.0	15.3	10.1	5.5	11.1	0.3	5.0	6.2
(ウェイトバック集計結果)	1,607	49.7	48.6	33.8	29.0	25.6	24.4	23.6	21.8	16.0	16.1	10.2	5.6	11.3	0.4	4.8	5.8
性別																	
男性	714	47.9	46.6	35.9	28.3	22.5	23.4	20.7	20.3	15.5	13.7	9.7	5.6	13.7		3.6	5.6
女性	849	51.5	51.1	31.9	28.3	25.9	23.7	24.6	22.4	16.3	17.1	10.5	5.5	8.8	0.6	6.0	6.2
年齢別																	
18～19歳	15	60.0	80.0	46.7	73.3	40.0	40.0	40.0	26.7	33.3	26.7	20.0	20.0	6.7	-	-	-
20～29歳	83	56.6	39.8	37.3	26.5	31.3	27.7	33.7	21.7	12.0	19.3	8.4	6.0	14.5	1.2	3.6	1.2
30～39歳	161	52.2	54.0	32.3	36.6	38.5	33.5	28.6	30.4	20.5	21.1	11.8	3.7	8.1	0.6	3.7	1.9
40～49歳	236	63.1	54.2	38.6	31.8	36.4	36.4	33.9	29.2	14.4	22.0	9.3	4.2	8.1	0.8	1.3	1.3
50～59歳	263	56.7	56.7	31.9	27.8	23.2	23.6	26.2	23.2	15.6	14.8	8.4	3.4	7.6		5.7	4.6
60～69歳	392	49.0	52.0	34.7	27.6	17.6	18.6	18.6	19.1	17.9	12.5	10.2	7.1	8.9	0.3	5.6	5.6
70歳以上	416	36.1	37.3	30.5	22.8	17.3	15.4	13.2	14.2	13.5	11.8	10.8	6.3	17.5		6.7	12.7
職業別																	
農林漁業	101	31.7	36.6	39.6	27.7	16.8	20.8	11.9	16.8	11.9	7.9	5.0	4.0	12.9		4.0	14.9
商工業、サービス業、自由業など	220	50.5	46.4	34.1	30.0	28.6	25.5	24.1	22.7	15.9	17.7	9.1	7.7	9.1	0.5	3.2	7.3
会社、商店、官公庁などに勤務	616	56.8	56.3	35.1	30.2	28.4	29.5	27.9	25.0	14.8	19.2	10.2	4.4	8.4	0.2	3.2	3.2
主婦・主夫	312	49.4	46.8	27.6	24.0	20.2	18.9	21.5	19.9	18.9	13.5	9.6	4.2	10.9	0.6	8.3	7.1
無職	311	42.4	43.7	35.0	28.3	20.6	16.1	17.0	16.4	16.4	11.6	12.9	8.4	17.0	0.3	6.1	6.4
圏域別																	
高松圏域	760	50.4	51.1	31.6	29.1	24.6	22.2	24.9	21.4	16.6	16.1	10.3	5.5	11.3	0.3	4.1	6.6
東讃圏域	137	49.6	44.5	39.4	24.1	20.4	29.9	21.9	20.4	15.3	16.8	11.7	7.3	8.8		7.3	6.6
小豆圏域	52	48.1	50.0	36.5	28.8	23.1	9.6	15.4	26.9	15.4	9.6	7.7	7.7	11.5		7.7	5.8
中讃圏域	435	48.3	48.5	32.9	29.0	25.7	23.7	20.9	21.1	16.8	16.1	9.9	6.0	12.4	0.5	5.5	5.3
西讃圏域	223	46.2	43.9	36.8	25.6	21.1	24.7	18.8	19.7	13.0	11.7	9.4	3.1	9.4	0.4	5.4	6.7
居住年数別																	
3年未満	96	58.3	44.8	31.3	31.3	34.4	33.3	31.3	24.0	11.5	24.0	9.4	5.2	11.5			2.1
3年以上～10年未満	192	57.3	56.3	32.8	28.1	33.3	32.3	30.2	22.9	14.1	20.8	9.9	3.1	8.9		2.6	2.1
10年以上～20年未満	229	56.8	52.0	35.4	33.2	28.8	24.5	24.0	23.1	16.2	20.1	10.9	5.7	7.9	1.3	4.8	3.1
20年以上	1,048	46.2	47.5	33.8	27.0	20.9	20.8	20.4	20.5	16.6	12.8	10.0	6.0	12.1	0.2	5.8	7.6

(11) 骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策について

問19 県内の市町では、骨髄を提供する場合、骨髄提供者や提供者が勤務する事業所に助成金を支給しているところがあり、県では、平成30年度から、その費用のおよそ2分の1を助成したり、ドナー休暇制度の普及促進を図るなど、提供を希望する方が提供しやすい環境の整備に努めています。あなたは、骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策は何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,607】 ※回答数の多い順に並び替え

1 骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）	50.5% (51.4%)
2 骨髄移植に関する教育の推進	43.2% (43.6%)
3 骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）	39.8% (39.1%)
4 骨髄バンクにドナー登録できる場所・時間の拡充	24.3% (24.6%)
5 骨髄提供者が従事している事業所への支援（表彰、金銭的支援など）	20.7% (21.4%)
6 特にない	6.7% (6.7%)
7 その他	1.1% (1.2%)
8 わからない	8.8% (8.5%)
(無回答)	7.3% (6.9%)

骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策について、「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」(50.5%)が最も高く、次いで「骨髄移植に関する教育の推進」(43.2%)、「骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）」(39.8%)、「骨髄バンクにドナー登録できる場所・時間の拡充」(24.3%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」(51.4%)が最も高く、次いで「骨髄移植に関する教育の推進」(43.6%)、「骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）」(39.1%)、「骨髄バンクにドナー登録できる場所・時間の拡充」(24.6%)などとなっている。

図表 4-(11)-1 骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策について

		回答数
全体	100.0	1,607 人
(1) 骨髄提供者への支援(精神的支援、金銭的支援など)	50.5	811 人
(2) 骨髄移植に関する教育の推進	43.2	695 人
(3) 骨髄移植の普及啓発活動の推進(メディア広報、リーフレット配布、講演会など)	39.8	640 人
(4) 骨髄バンクにドナー登録できる場所・時間の拡充	24.3	390 人
(5) 骨髄提供者が従事している事業所への支援(表彰、金銭的支援など)	20.7	333 人
(6) 特にない	6.7	108 人
(7) その他	1.1	17 人
(8) わからない	8.8	142 人
無回答	7.3	117 人

グラフ単位:(%)

骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策について、

性別にみると、

男女ともに「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が最も高く、『男性』48.5%、『女性』53.5%で、これに「骨髄移植に関する教育の推進」が『男性』43.4%、『女性』44.4%で続いている。

年齢別にみると、

『70歳以上』では「骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）」が最も高く、そのほかの年齢別では「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が最も高くなっている。これに『60～69歳』では「骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）」が、『70歳以上』では「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が、そのほかの年齢別では「骨髄移植に関する教育の推進」が続いている。

職業別にみると、

『無職』では「骨髄移植の普及啓発活動の推進（メディア広報、リーフレット配布、講演会など）」が最も高く、そのほかの職業別では「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が最も高くなっている。これに『無職』では「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が、そのほかの職業別では「骨髄移植に関する教育の推進」が続いている。

圏域別にみると、

いずれも「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が4割～5割台で最も高くなっている。いずれも、これに「骨髄移植に関する教育の推進」が3割～4割台で続いている。

居住年数別にみると、

いずれも「骨髄提供者への支援（精神的支援、金銭的支援など）」が4割～6割台で最も高くなっている。いずれも、これに「骨髄移植に関する教育の推進」が4割台で続いている。

図表 4-(11)-2 【骨髄移植を推進するため、県が行うべき対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		全体 (人)	骨髄提供者への支援 (精神的支援、金銭的支援など)	骨髄移植に関する教育の推進	骨髄移植の普及啓発活動の推進 (メディア広報、リーフレット配布、講演会など)	骨髄バンクにドナー登録できる場所・時間の拡充	骨髄提供者が従事している事業所への支援 (表彰、金銭的支援など)	特になし	その他	わからない	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)											
全体		1,607	50.5	43.2	39.8	24.3	20.7	6.7	1.1	8.8	7.3
	(ウエイトバック集計結果)	1,607	51.4	43.6	39.1	24.6	21.4	6.7	1.2	8.5	6.9
性別	男性	714	48.5	43.4	42.0	23.4	22.0	9.7	1.0	8.3	5.7
	女性	849	53.5	44.4	39.2	25.8	20.5	4.0	1.1	9.1	7.4
年齢別	18～19歳	15	73.3	46.7	26.7	33.3	40.0	-	6.7	-	6.7
	20～29歳	83	57.8	47.0	31.3	21.7	25.3	7.2	1.2	6.0	1.2
	30～39歳	161	55.9	50.9	38.5	31.7	25.5	6.8	2.5	6.2	1.9
	40～49歳	236	64.8	47.5	44.1	30.5	25.0	5.9	0.8	3.8	3.0
	50～59歳	263	57.0	46.4	38.8	26.2	27.8	4.9	1.5	7.6	4.2
	60～69歳	392	49.5	43.6	44.4	23.2	18.1	7.1	0.5	8.4	6.4
	70歳以上	416	37.5	37.3	38.9	19.5	14.4	7.5	0.5	14.2	13.7
職業別	農林漁業	101	42.6	39.6	29.7	11.9	8.9	6.9	-	8.9	16.8
	商工業、サービス業、自由業など	220	49.5	45.0	37.3	29.1	23.6	7.3	0.5	6.4	8.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	616	60.2	46.6	41.9	26.8	26.8	5.8	1.3	5.8	3.2
	主婦・主夫	312	48.4	45.2	39.4	24.7	16.3	3.5	1.0	9.6	8.7
	無職	311	40.5	38.3	45.3	21.9	17.0	10.6	1.3	14.5	7.1
圏域別	高松圏域	760	51.4	46.2	41.7	25.1	21.7	5.5	1.2	7.5	7.1
	東讃圏域	137	46.0	38.7	38.0	22.6	18.2	5.8	0.7	13.1	8.8
	小豆圏域	52	46.2	34.6	28.8	26.9	21.2	7.7	-	15.4	9.6
	中讃圏域	435	50.6	41.1	37.7	23.9	20.9	9.0	1.1	9.2	6.7
	西讃圏域	223	50.7	42.2	41.3	22.4	18.4	6.7	0.9	8.5	7.6
居住年数別	3年未満	96	65.6	49.0	43.8	29.2	29.2	6.3	1.0	4.2	2.1
	3年以上～10年未満	192	53.6	43.8	39.6	30.7	26.0	7.3	2.1	6.3	3.1
	10年以上～20年未満	229	57.2	46.7	38.9	28.4	22.7	3.9	0.9	8.7	4.8
	20年以上	1,048	48.2	42.9	40.7	22.4	19.2	7.1	0.9	9.5	8.1

5. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている24の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていくうえでどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から平成32年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(1)成長する香川（重要度）

問20 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜重要度＞を、
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

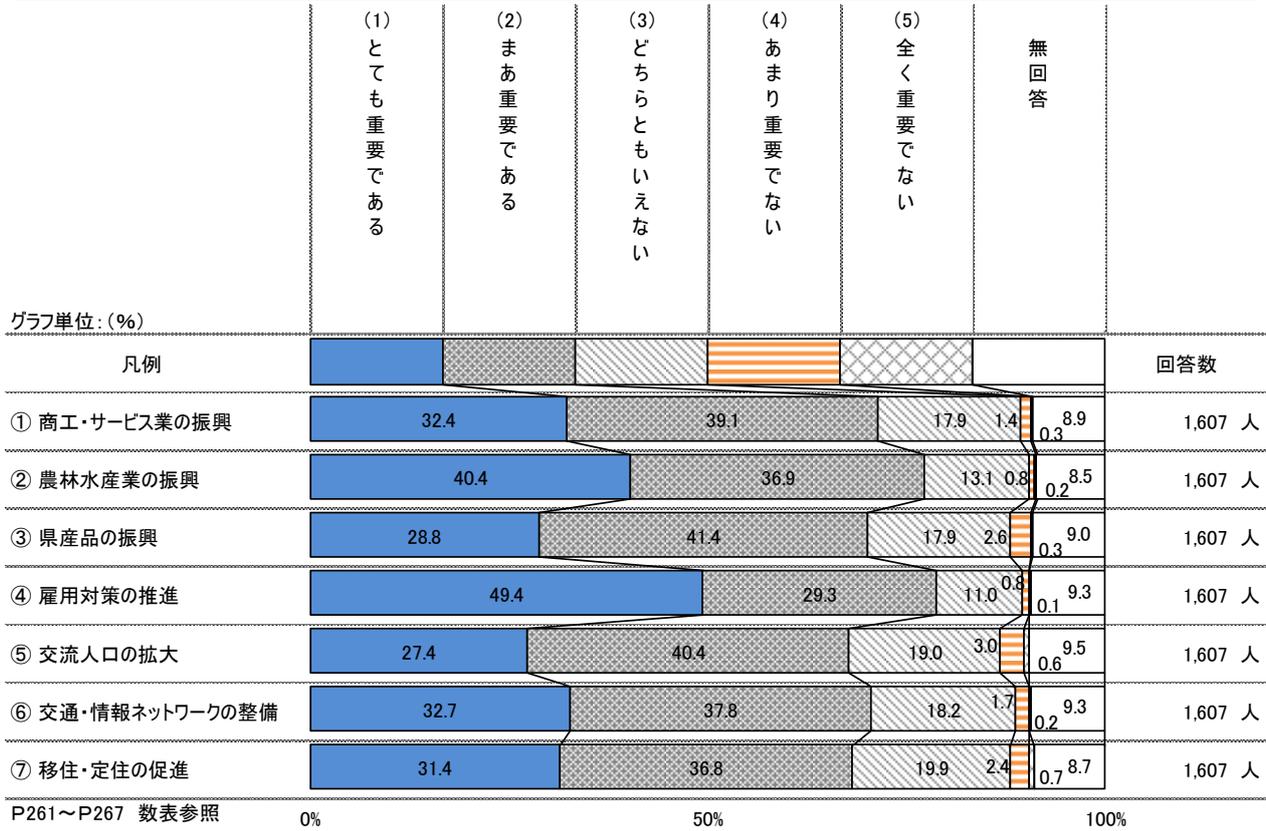
【回答者数=1,607】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	32.4 (32.3)	39.1 (39.0)	17.9 (18.3)	1.4 (1.6)	0.3 (0.3)	8.9 (8.5)
2 農林水産業の振興	40.4 (39.7)	36.9 (37.5)	13.1 (13.6)	0.8 (0.8)	0.2 (0.3)	8.5 (8.2)
3 県産品の振興	28.8 (28.3)	41.4 (41.2)	17.9 (18.4)	2.6 (2.9)	0.3 (0.3)	9.0 (8.8)
4 雇用対策の推進	49.4 (50.8)	29.3 (28.0)	11.0 (11.3)	0.8 (1.0)	0.1 (0.1)	9.3 (8.9)
5 交流人口の拡大	27.4 (27.3)	40.4 (40.2)	19.0 (19.3)	3.0 (3.3)	0.6 (0.7)	9.5 (9.2)
6 交通・情報ネットワークの整備	32.7 (32.8)	37.8 (37.9)	18.2 (18.1)	1.7 (2.0)	0.2 (0.3)	9.3 (9.0)
7 移住・定住の促進	31.4 (31.6)	36.8 (36.3)	19.9 (20.0)	2.4 (2.9)	0.7 (0.8)	8.7 (8.4)

「成長する香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、すべての分野において6割を超えており、「雇用対策の推進」（78.7%）が最も高く、次いで「農林水産業の振興」（77.3%）となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、すべての分野において6割を超えており、「雇用対策の推進」（78.8%）が最も高く、次いで「農林水産業の振興」（77.2%）となっている。

図表 5-(1) 成長する香川（重要度）



(2)成長する香川（満足度）

問20 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜満足度＞を、
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

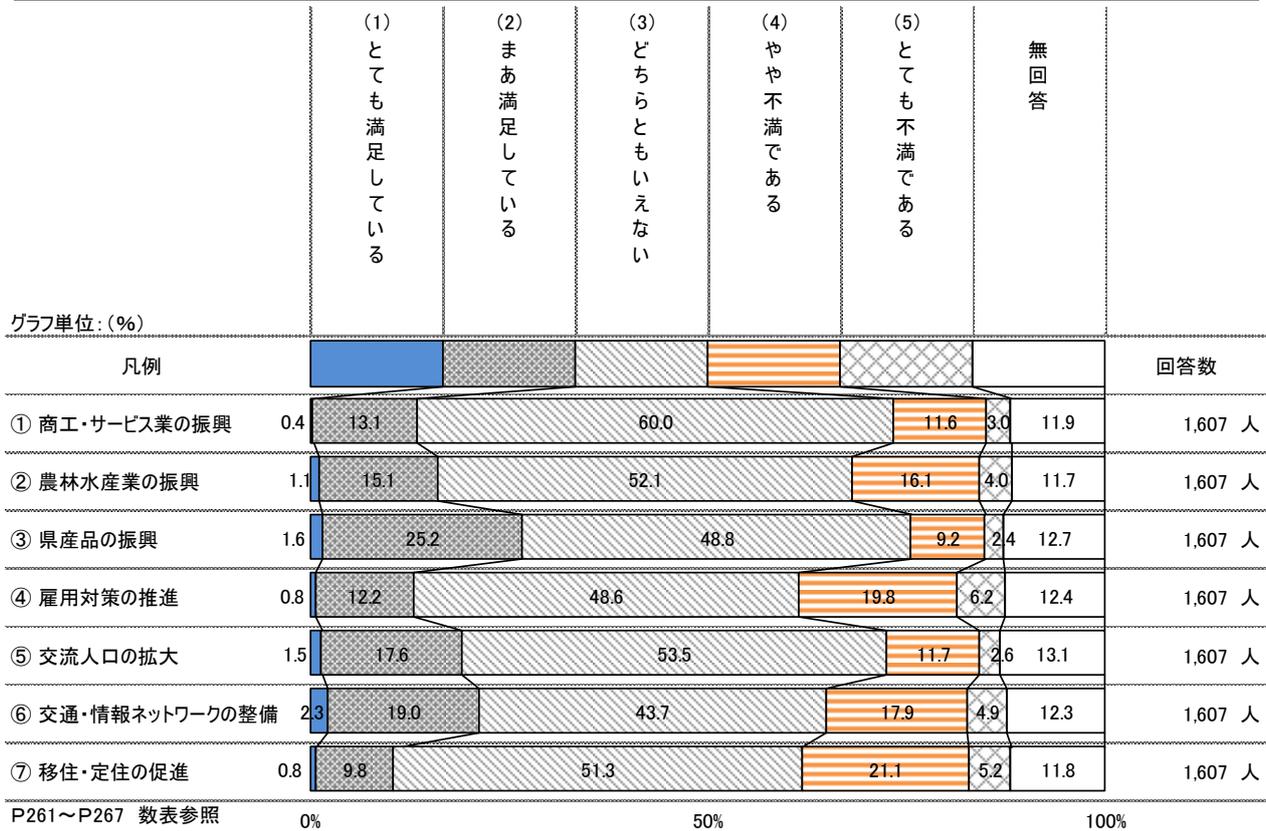
【回答者数=1,607】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.4 (0.4)	13.1 (13.0)	60.0 (60.1)	11.6 (11.8)	3.0 (3.0)	11.9 (11.6)
2 農林水産業の振興	1.1 (1.1)	15.1 (15.2)	52.1 (53.1)	16.1 (15.4)	4.0 (3.7)	11.7 (11.4)
3 県産品の振興	1.6 (2.0)	25.2 (25.8)	48.8 (48.2)	9.2 (9.1)	2.4 (2.3)	12.7 (12.5)
4 雇用対策の推進	0.8 (0.9)	12.2 (12.2)	48.6 (48.2)	19.8 (20.3)	6.2 (6.5)	12.4 (11.9)
5 交流人口の拡大	1.5 (1.7)	17.6 (18.0)	53.5 (53.0)	11.7 (12.0)	2.6 (2.6)	13.1 (12.8)
6 交通・情報ネットワークの整備	2.3 (2.4)	19.0 (19.6)	43.7 (43.0)	17.9 (18.5)	4.9 (4.6)	12.3 (11.9)
7 移住・定住の促進	0.8 (0.9)	9.8 (9.7)	51.3 (51.0)	21.1 (21.9)	5.2 (5.1)	11.8 (11.4)

「成長する香川」については、「県産品の振興」と「交流人口の拡大」において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、その他の分野においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(2) 成長する香川（満足度）



(3)信頼・安心の香川（重要度）

問21 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

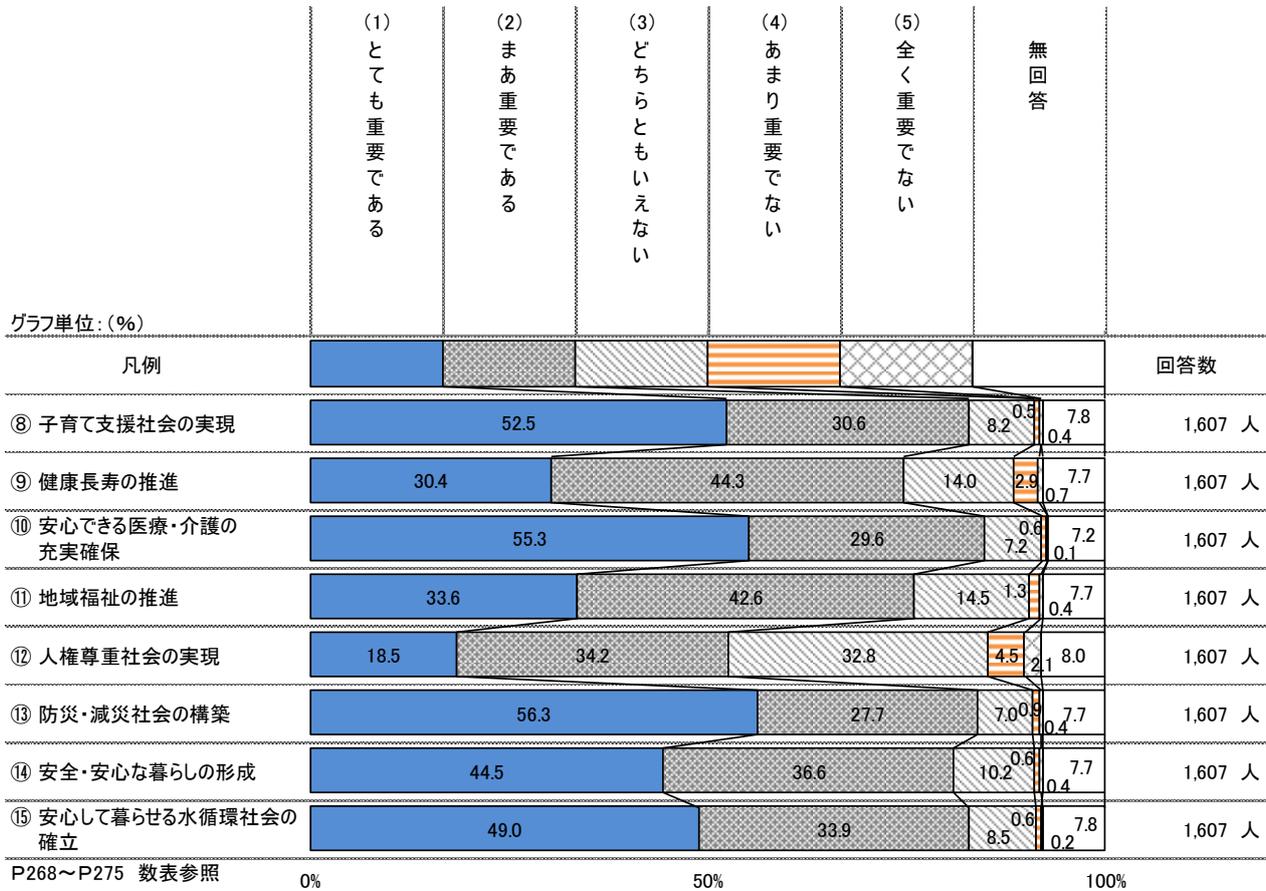
【回答者数=1,607】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
8 子育て支援社会の実現	52.5 (53.3)	30.6 (29.5)	8.2 (8.7)	0.5 (0.6)	0.4 (0.4)	7.8 (7.5)
9 健康長寿の推進	30.4 (30.1)	44.3 (43.4)	14.0 (15.2)	2.9 (3.3)	0.7 (0.7)	7.7 (7.3)
10 安心できる医療・介護の充実確保	55.3 (55.5)	29.6 (29.0)	7.2 (7.7)	0.6 (0.7)	0.1 (0.1)	7.2 (7.0)
11 地域福祉の推進	33.6 (33.6)	42.6 (42.0)	14.5 (15.2)	1.3 (1.5)	0.4 (0.3)	7.7 (7.4)
12 人権尊重社会の実現	18.5 (18.7)	34.2 (33.4)	32.8 (33.2)	4.5 (5.0)	2.1 (2.1)	8.0 (7.7)
13 防災・減災社会の構築	56.3 (57.4)	27.7 (26.7)	7.0 (7.2)	0.9 (0.9)	0.4 (0.4)	7.7 (7.3)
14 安全・安心な暮らしの形成	44.5 (45.5)	36.6 (35.6)	10.2 (10.4)	0.6 (0.7)	0.4 (0.4)	7.7 (7.4)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	49.0 (49.9)	33.9 (32.8)	8.5 (8.9)	0.6 (0.8)	0.2 (0.2)	7.8 (7.5)

「信頼・安心の香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」（84.9％）が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」（84.0％）となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」（84.5％）が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」（84.1％）となっている。

図表 5-(3) 信頼・安心の香川（重要度）



(4)信頼・安心の香川（満足度）

問21 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

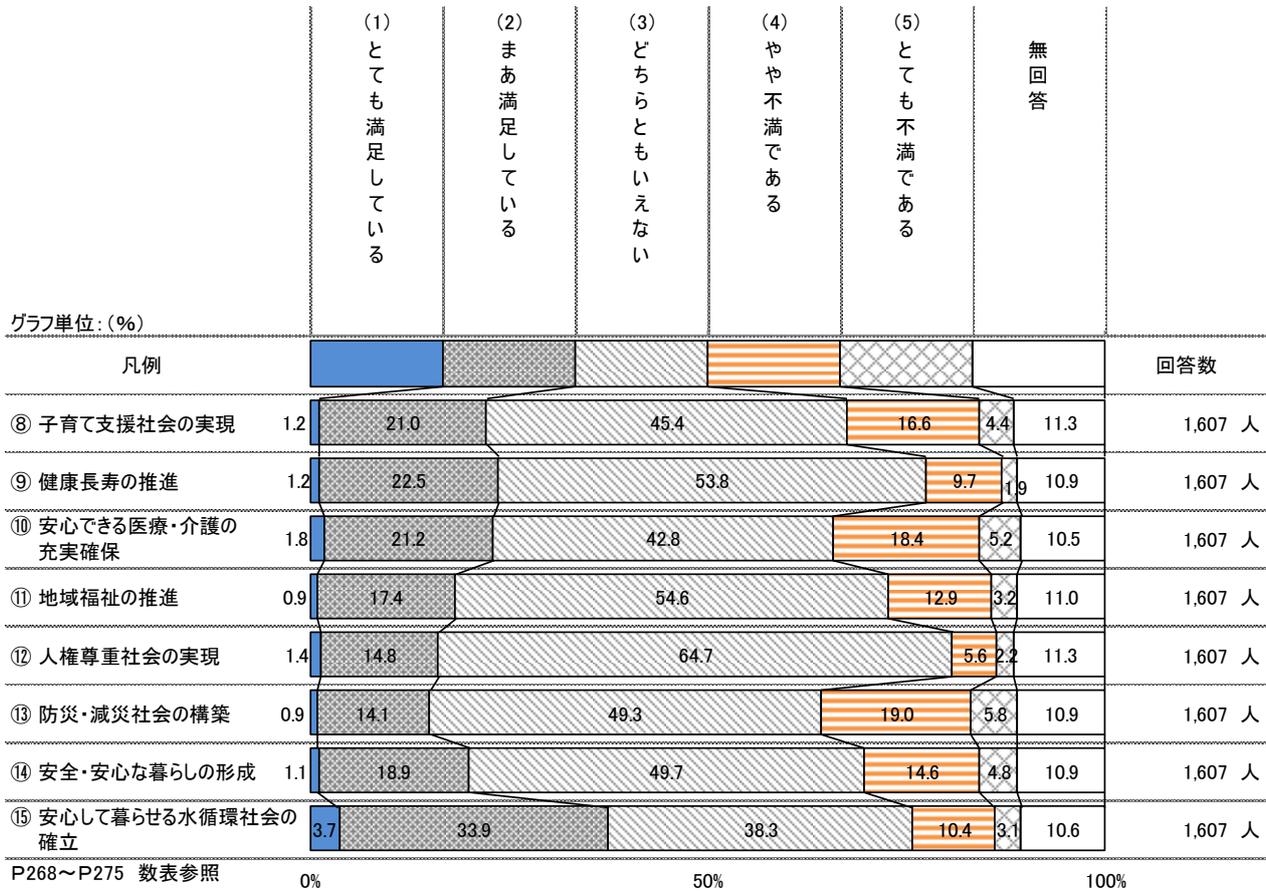
【回答者数=1,607】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
8 子育て支援社会の実現	1.2 (1.3)	21.0 (20.8)	45.4 (45.3)	16.6 (16.9)	4.4 (4.6)	11.3 (11.0)
9 健康長寿の推進	1.2 (1.2)	22.5 (21.9)	53.8 (54.9)	9.7 (9.6)	1.9 (1.9)	10.9 (10.5)
10 安心できる医療・介護の充実確保	1.8 (1.9)	21.2 (21.5)	42.8 (42.7)	18.4 (18.3)	5.2 (5.3)	10.5 (10.3)
11 地域福祉の推進	0.9 (1.0)	17.4 (17.9)	54.6 (54.2)	12.9 (12.9)	3.2 (3.3)	11.0 (10.6)
12 人権尊重社会の実現	1.4 (1.6)	14.8 (15.1)	64.7 (64.5)	5.6 (5.6)	2.2 (2.3)	11.3 (11.0)
13 防災・減災社会の構築	0.9 (0.9)	14.1 (14.2)	49.3 (48.7)	19.0 (19.8)	5.8 (5.8)	10.9 (10.6)
14 安全・安心な暮らしの形成	1.1 (1.2)	18.9 (19.2)	49.7 (48.5)	14.6 (15.2)	4.8 (5.3)	10.9 (10.6)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	3.7 (4.1)	33.9 (33.2)	38.3 (38.5)	10.4 (10.7)	3.1 (3.2)	10.6 (10.3)

「信頼・安心の香川」については、「安心できる医療・介護の充実確保」、「防災・減災社会の構築」において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、その他の分野においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値については、「安心できる医療・介護の充実確保」、「防災・減災社会の構築」、「安心・安全な暮らしの形成」において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、その他の分野においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5-(4) 信頼・安心の香川（満足度）



(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）

問22 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

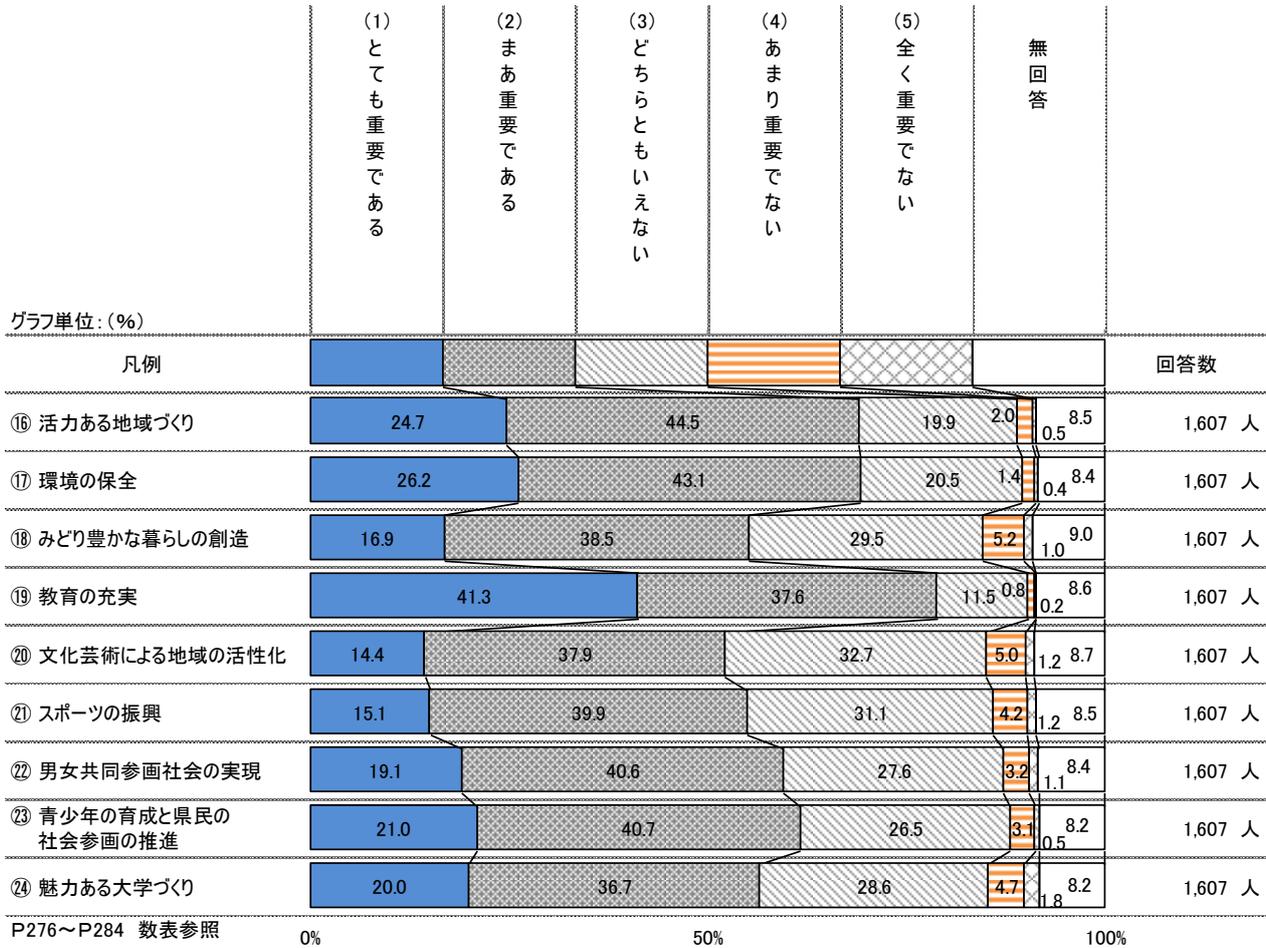
【回答者数=1,607】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
16 活力ある地域づくり	24.7 (24.2)	44.5 (44.3)	19.9 (20.6)	2.0 (2.2)	0.5 (0.6)	8.5 (8.1)
17 環境の保全	26.2 (26.3)	43.1 (42.8)	20.5 (20.9)	1.4 (1.5)	0.4 (0.4)	8.4 (8.1)
18 みどり豊かな暮らしの創造	16.9 (16.9)	38.5 (37.6)	29.5 (30.2)	5.2 (5.3)	1.0 (1.2)	9.0 (8.8)
19 教育の充実	41.3 (42.1)	37.6 (36.6)	11.5 (11.9)	0.8 (1.0)	0.2 (0.2)	8.6 (8.2)
20 文化芸術による地域の活性化	14.4 (14.6)	37.9 (37.0)	32.7 (33.0)	5.0 (5.8)	1.2 (1.3)	8.7 (8.3)
21 スポーツの振興	15.1 (15.6)	39.9 (39.0)	31.1 (31.2)	4.2 (4.8)	1.2 (1.4)	8.5 (8.1)
22 男女共同参画社会の実現	19.1 (20.0)	40.6 (39.9)	27.6 (27.5)	3.2 (3.4)	1.1 (1.2)	8.4 (8.1)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	21.0 (20.9)	40.7 (39.9)	26.5 (27.4)	3.1 (3.3)	0.5 (0.6)	8.2 (7.9)
24 魅力ある大学づくり	20.0 (20.8)	36.7 (35.6)	28.6 (28.7)	4.7 (5.0)	1.8 (2.0)	8.2 (7.9)

「笑顔で暮らせる香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」（78.9%）が最も高く、次いで「環境の保全」（69.3%）、「活力ある地域づくり」（69.2%）となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「教育の充実」（78.7%）が最も高く、次いで「環境の保全」（69.1%）、「活力ある地域づくり」（68.5%）となっている。

図表 5-(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）



(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）

問22 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

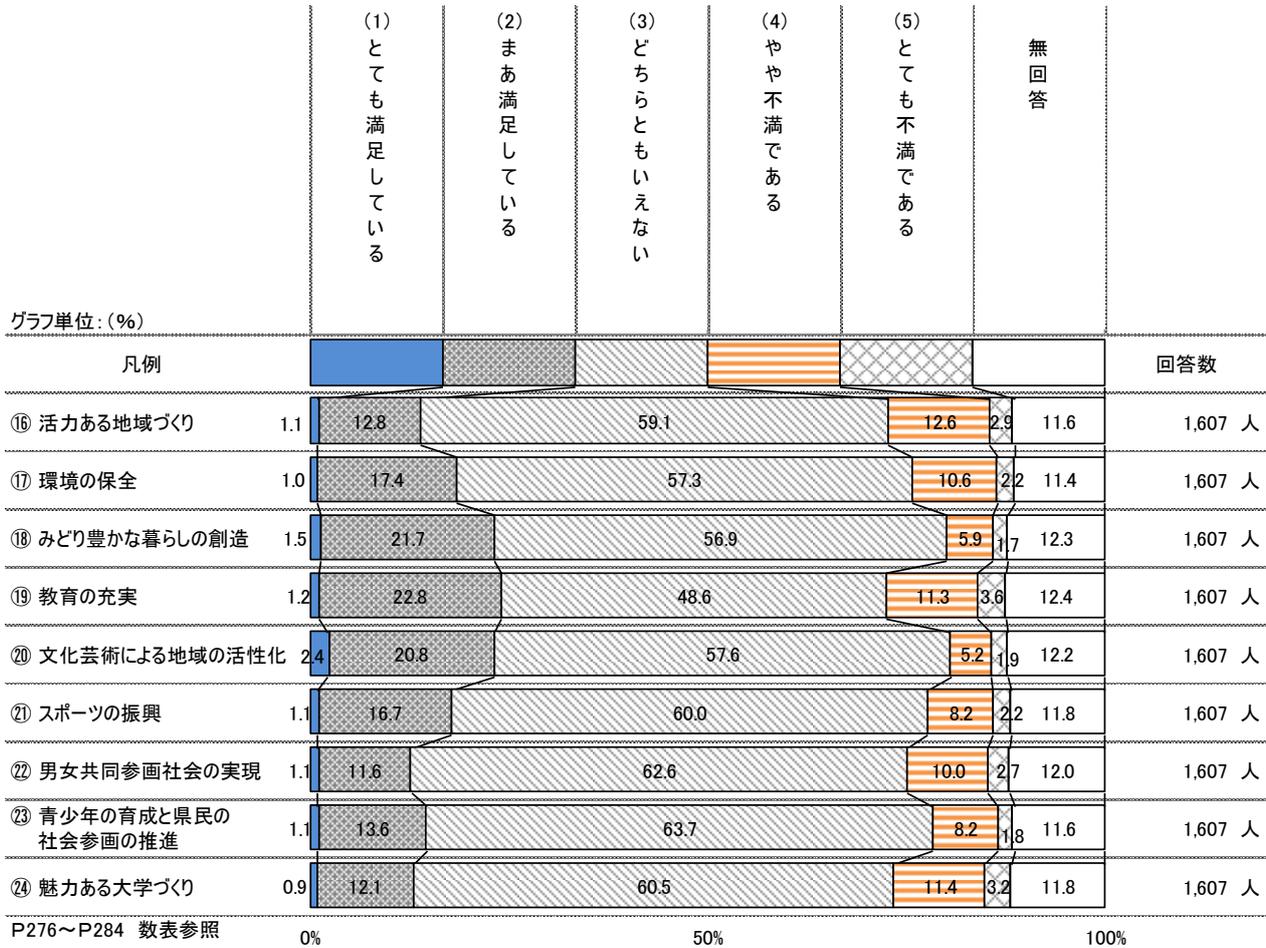
【回答者数=1,607】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
16 活力ある地域づくり	1.1 (1.1)	12.8 (12.8)	59.1 (59.4)	12.6 (12.7)	2.9 (2.8)	11.6 (11.2)
17 環境の保全	1.0 (1.1)	17.4 (17.9)	57.3 (56.7)	10.6 (11.0)	2.2 (2.2)	11.4 (11.0)
18 みどり豊かな暮らしの創造	1.5 (1.6)	21.7 (21.7)	56.9 (56.9)	5.9 (5.8)	1.7 (1.7)	12.3 (12.1)
19 教育の充実	1.2 (1.4)	22.8 (22.7)	48.6 (48.4)	11.3 (11.8)	3.6 (3.7)	12.4 (12.0)
20 文化芸術による地域の活性化	2.4 (3.0)	20.8 (20.7)	57.6 (57.1)	5.2 (5.5)	1.9 (1.9)	12.2 (11.8)
21 スポーツの振興	1.1 (1.3)	16.7 (16.7)	60.0 (59.6)	8.2 (8.4)	2.2 (2.6)	11.8 (11.4)
22 男女共同参画社会の実現	1.1 (1.3)	11.6 (11.7)	62.6 (62.6)	10.0 (10.2)	2.7 (2.7)	12.0 (11.6)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.1 (1.4)	13.6 (13.2)	63.7 (64.4)	8.2 (7.9)	1.8 (1.9)	11.6 (11.2)
24 魅力ある大学づくり	0.9 (1.1)	12.1 (11.9)	60.5 (59.9)	11.4 (12.2)	3.2 (3.5)	11.8 (11.5)

「笑顔で暮らせる香川」については、「活力ある地域づくり」、「魅力ある大学づくり」において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、「男女共同参画社会の実現」で同じ割合になったのを除き、その他の分野においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値については、「活力ある地域づくり」、「魅力ある大学づくり」において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、その他の分野においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5-(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）



商工・サービス業の振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.9%、『女性』71.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『20～29歳』、『70歳以上』を除くすべての年代で7割を超え、『18～19歳』において86.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において79.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、『高松圏域』において72.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『20年以上』（69.3%）を除くすべての居住年数で7割を超え、『10年以上～20年未満』において79.9%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（18.2%）が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（13.3%）を上回り、『女性』においては【満足している】の割合（14.1%）が【不満である】の割合（11.9%）を上回っている。

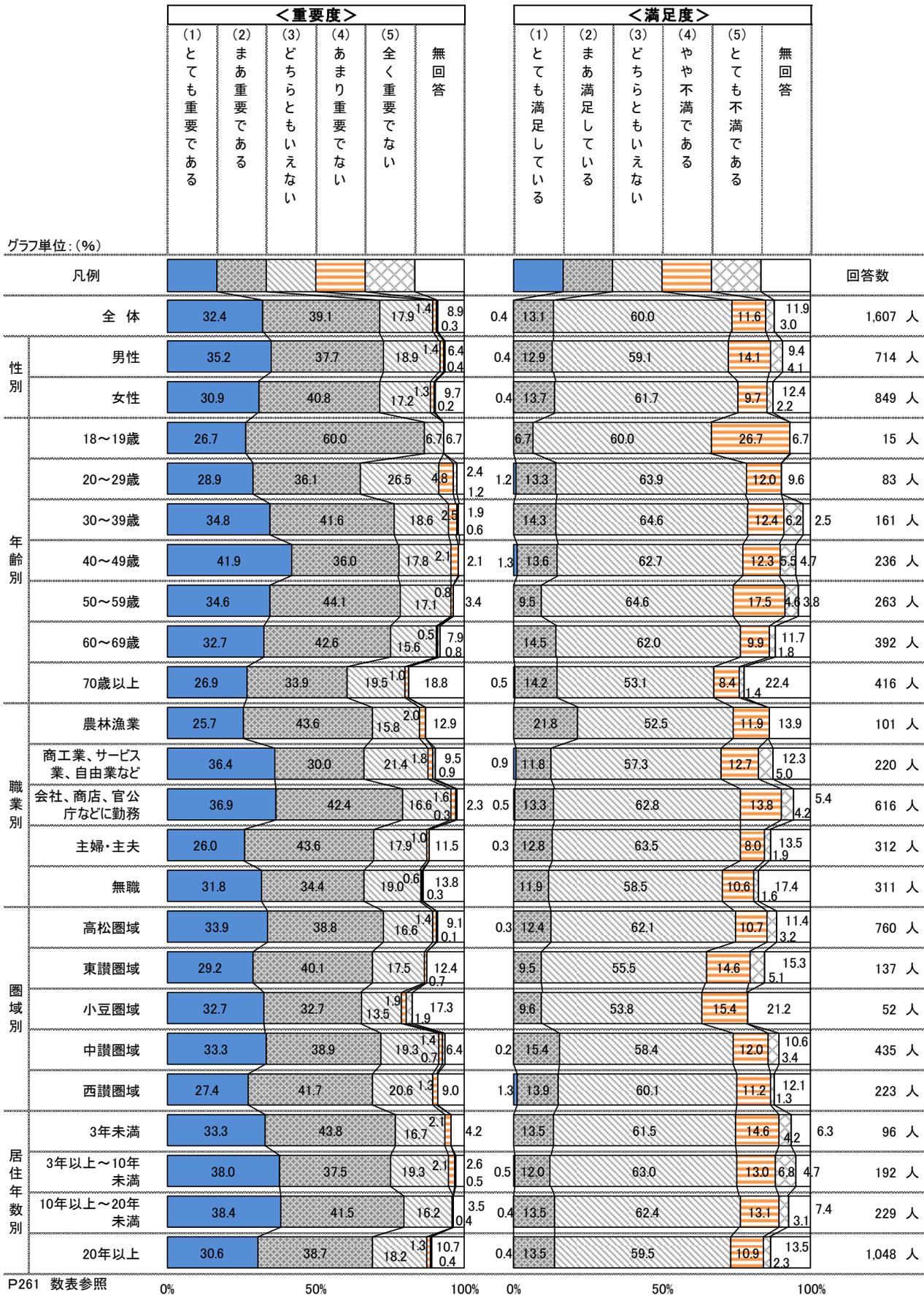
年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』及び『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』及び『西讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合（13.9%）が【不満である】の割合（13.2%）を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(1) 【商工・サービス業の振興】



農林水産業の振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』77.0%、『女性』78.8%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』（66.6%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において83.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』（69.8%）を除くすべての職業で7割を超え、『農林漁業』において89.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』（69.2%）を除くすべての圏域で7割を超え、『西讃圏域』において79.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で7割を超え、『3年以上～10年未満』において84.4%と最も高くなっている。

農林水産業の振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っている。

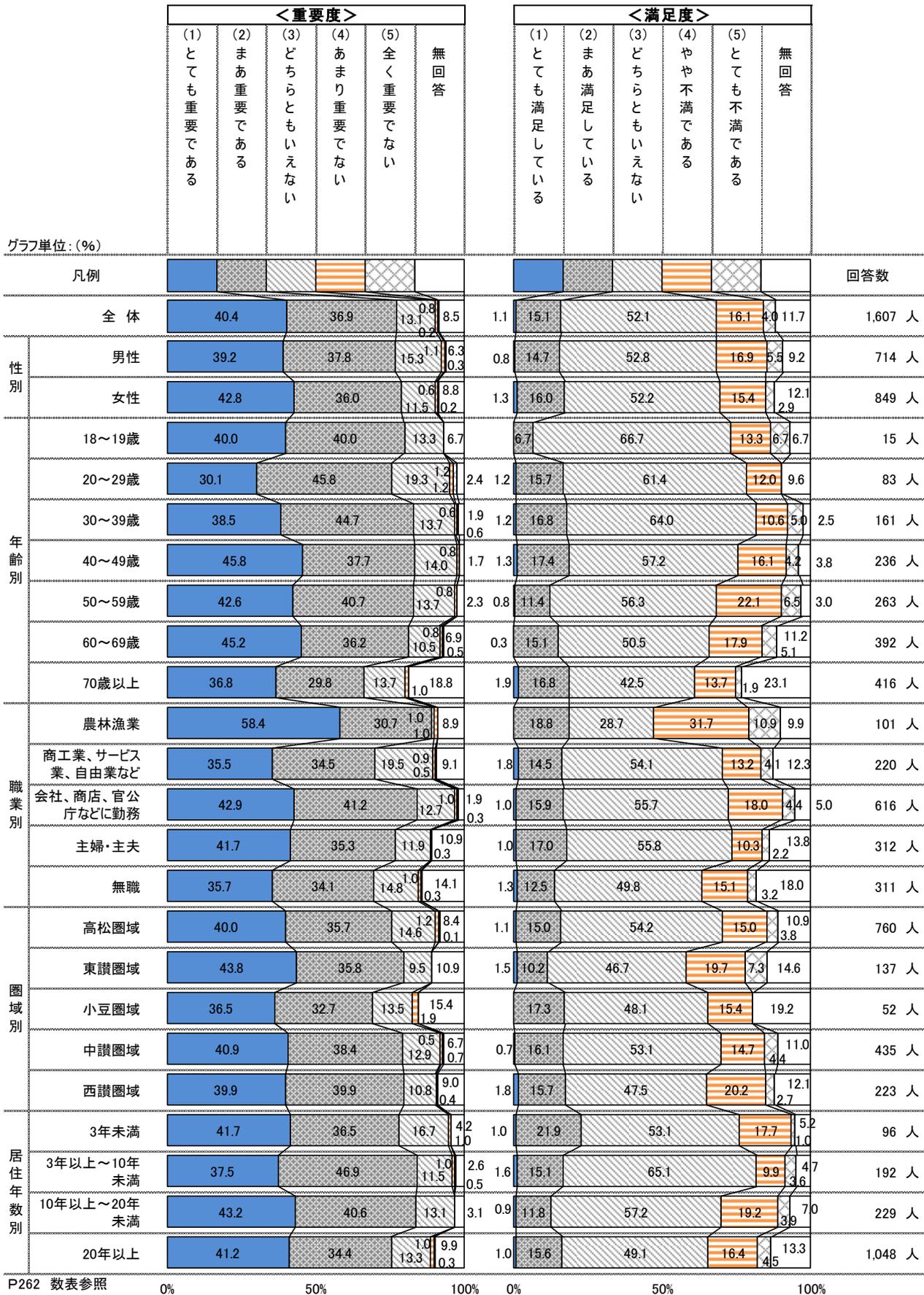
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合（18.0%）が【不満である】の割合（12.5%）を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】の割合（17.3%）が【不満である】の割合（15.4%）を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』及び『3年以上～10年未満』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(2) 【農林水産業の振興】



県産品の振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.6%、『女性』71.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で6割を超え、『50～59歳』において76.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『農林漁業』において77.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、『中讃圏域』及び『西讃圏域』において72.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（67.7%）を除くすべての居住年数で7割を超え、『10年以上～20年未満』において74.6%と最も高くなっている。

県産品の振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

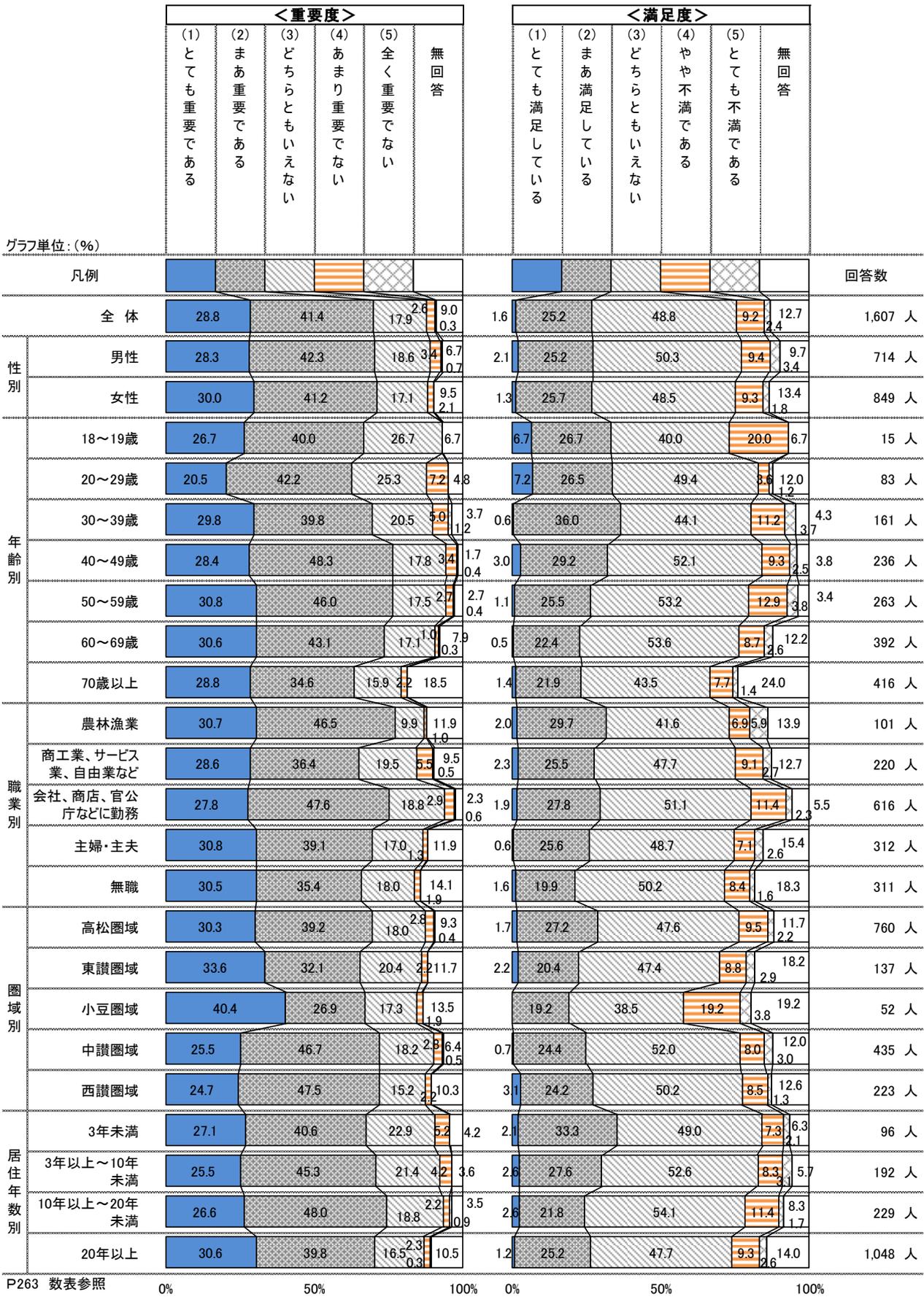
年齢別にみると、すべての年代において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合(23.0%)が【満足している】の割合(19.2%)を上回り、その他の圏域においては、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(3) 【県産品の振興】



雇用対策の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.6%、『女性』78.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』（67.3%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において87.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、全ての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で7割を超え、あまり大きな差は見られなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『20年以上』（77.6%）を除くすべての居住年数で8割を超え、『10年以上～20年未満』において84.3%と高くなっている。

雇用対策の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っている。

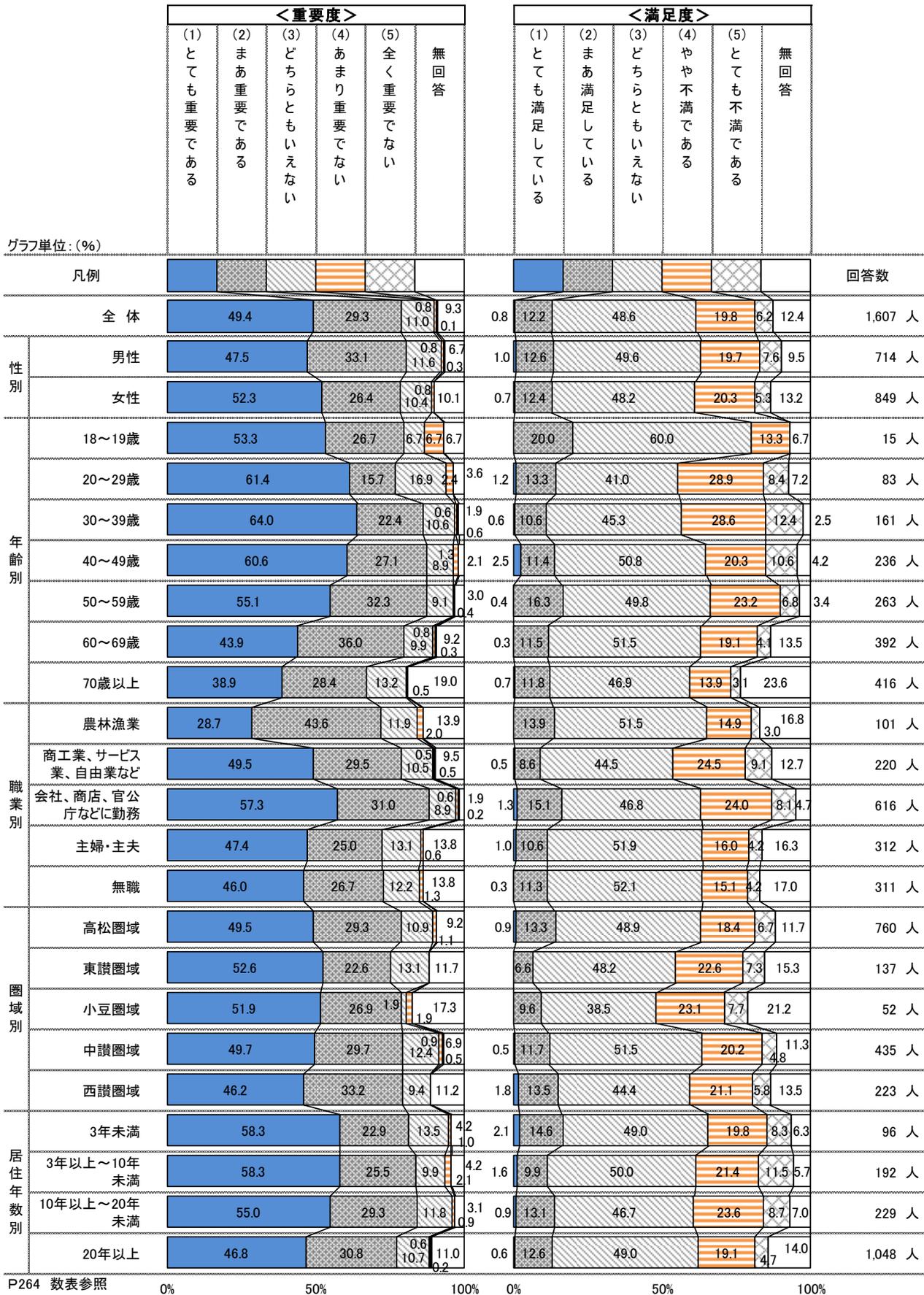
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】の割合（20.0%）が【不満である】の割合（13.3%）を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(4) 【雇用対策の推進】



交流人口の拡大【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.4%、『女性』68.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で6割を超え、『40～49歳』において75.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において73.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、『東讃圏域』において72.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において75.1%と最も高くなっている。

交流人口の拡大【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

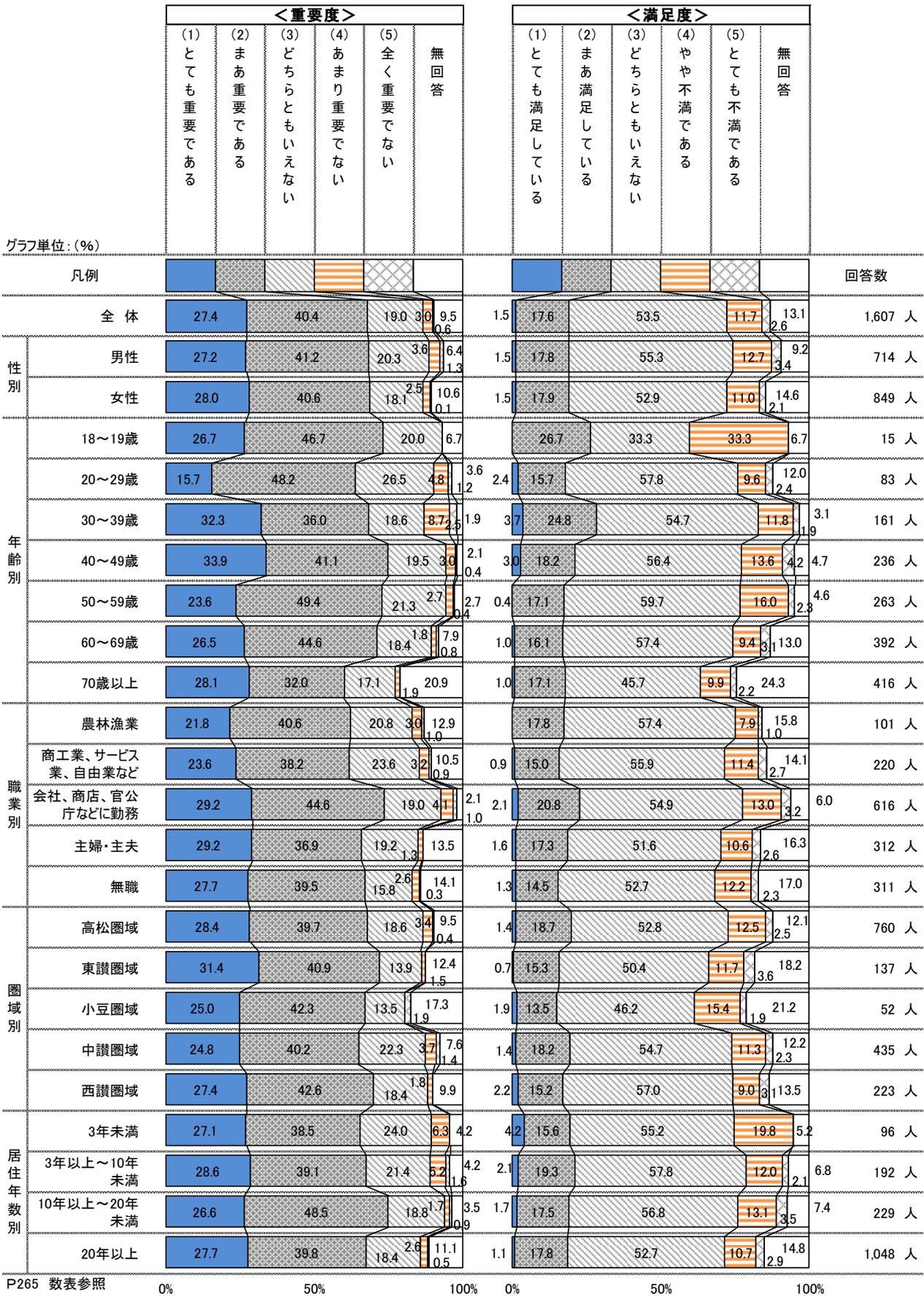
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『18～19歳』、『50～59歳』においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合（17.3%）が【満足している】の割合（15.4%）を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合（19.8%）が同率となっており、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(5) 【交流人口の拡大】



交通・情報ネットワークの整備【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.8%、『女性』70.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合が、『18～19歳』及び『70歳以上』を除くすべての年代で7割を超え、『20～29歳』において79.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合が、すべての職業において6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において78.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合が、『西讃圏域』(65.4%)を除くすべての圏域で7割を超え、『小豆圏域』において73.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合が、すべての居住年数で6割を超え、『3年以上～10年未満』において75.5%と最も高くなっている。

交通・情報ネットワークの整備【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合(24.8%)が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合(21.3%)を上回り、『女性』においては【満足している】の割合(22.0%)が【不満である】の割合(21.7%)を上回っている。

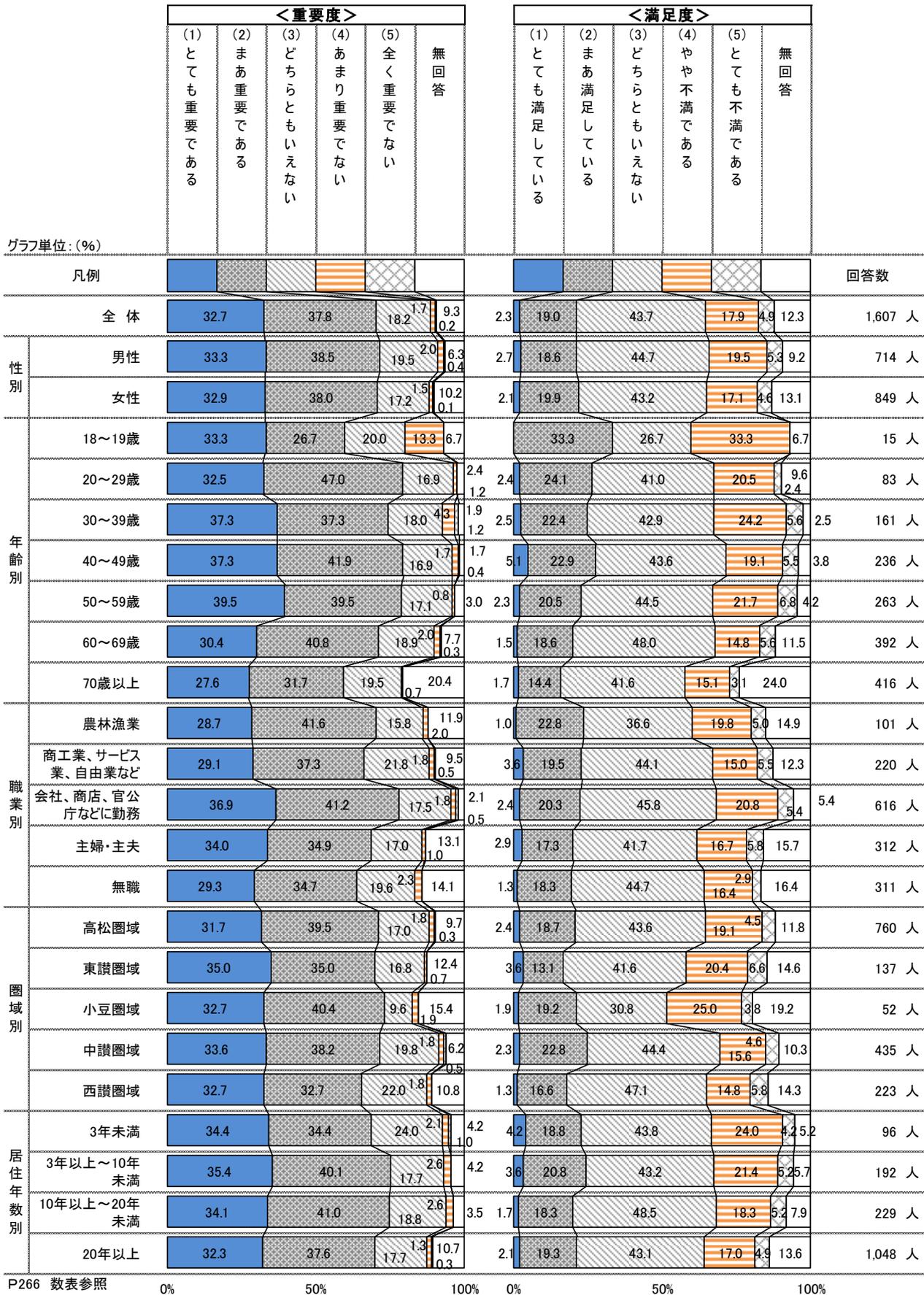
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合(33.3%)は同率となっており、『20～29歳』、『40～49歳』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』及び『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において、【満足している】の割合(25.1%)が【不満である】の割合(20.2%)を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(6) 【交通・情報ネットワークの整備】



移住・定住の促進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.2%、『女性』68.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で6割を超え、『18～19歳』において86.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において73.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、『西讃圏域』において74.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において70.3%と最も高くなっている。

移住・定住の促進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っている。

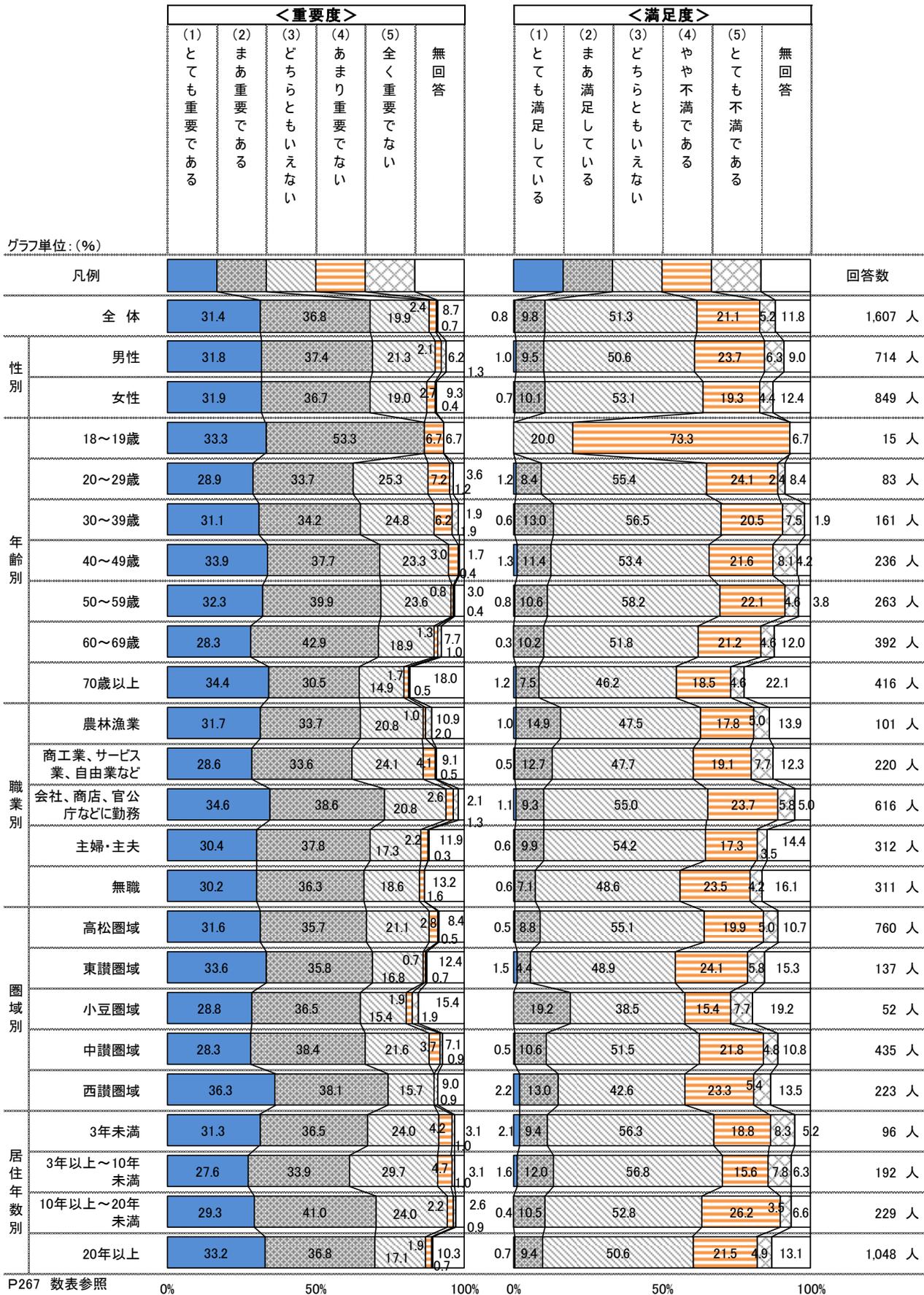
年齢別にみると、すべての年代において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(7) 【移住・定住の促進】



子育て支援社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.1%、『女性』83.7%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で7割を超え、『50～59歳』において91.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において90.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』（78.9%）を除くすべての圏域で8割を超え、『中讃圏域』において86.5%と高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において90.6%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（23.6%）が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（19.3%）を上回り、『女性』においては【満足している】の割合（24.7%）が【不満である】の割合（19.7%）を上回っている。

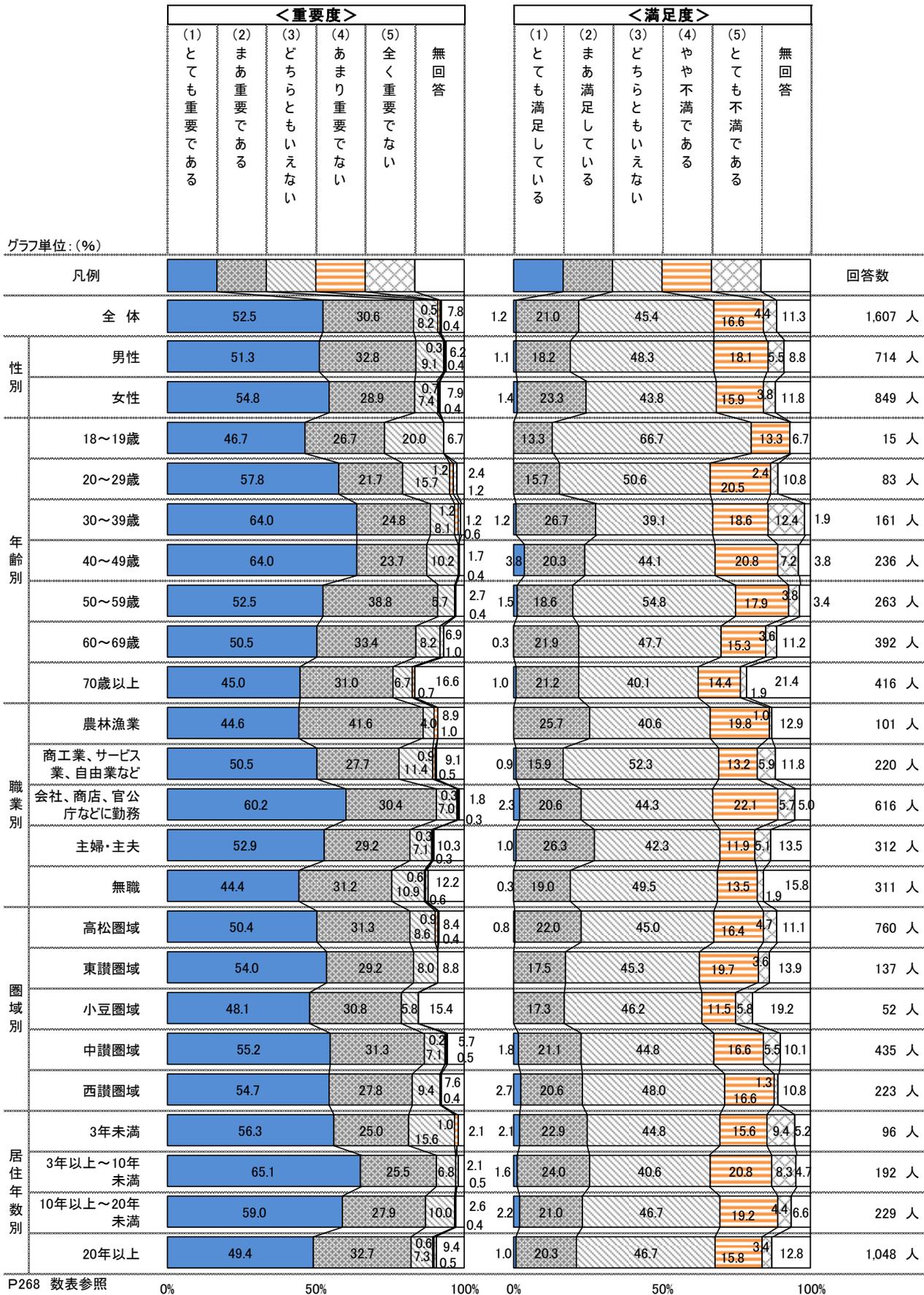
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合（13.3%）は同率となっており、『60～69歳』及び『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合（17.3%）は同率となっており、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合（25.0%）は同率となっており、『20年以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(8) 【子育て支援社会の実現】



健康長寿の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.3%、『女性』77.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』（46.7%）を除くすべての年代において6割を超え、『50～59歳』において83.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において81.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で7割を超え、『西讃圏域』において78.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（62.5%）を除くすべての居住年数で7割を超え、『20年以上』において77.0%と高くなっている。

健康長寿の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

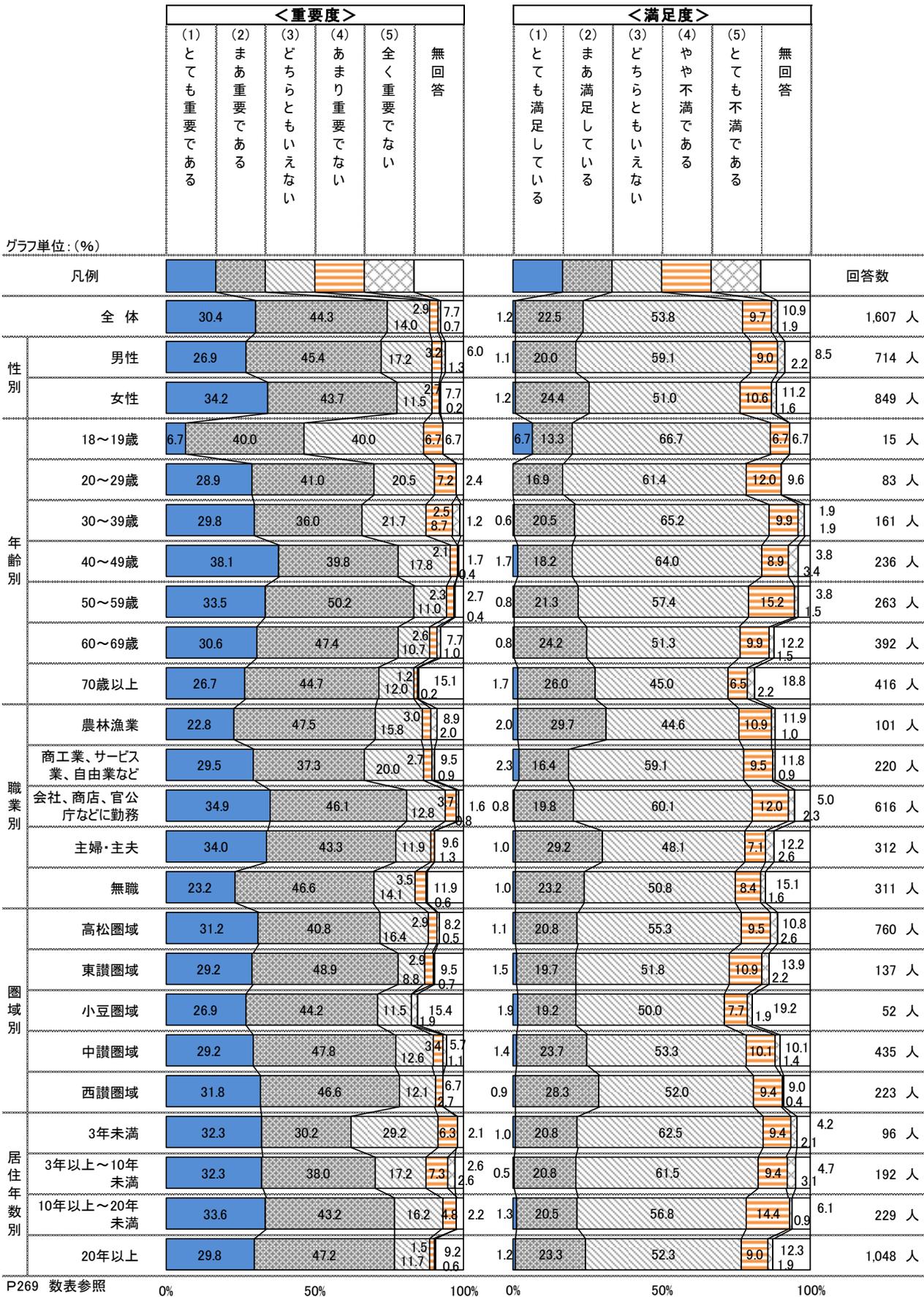
年齢別にみると、すべての年代において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(9) 【健康長寿の推進】



安心できる医療・介護の充実確保【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.6%、『女性』87.0%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』（78.1%）を除くすべての年代において8割を超え、『50～59歳』において93.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』（79.4%）を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において91.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で8割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において90.2%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（24.6%）が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（22.9%）を上回り、『女性』においては【不満である】の割合（25.0%）が【満足している】の割合（21.5%）を上回っている。

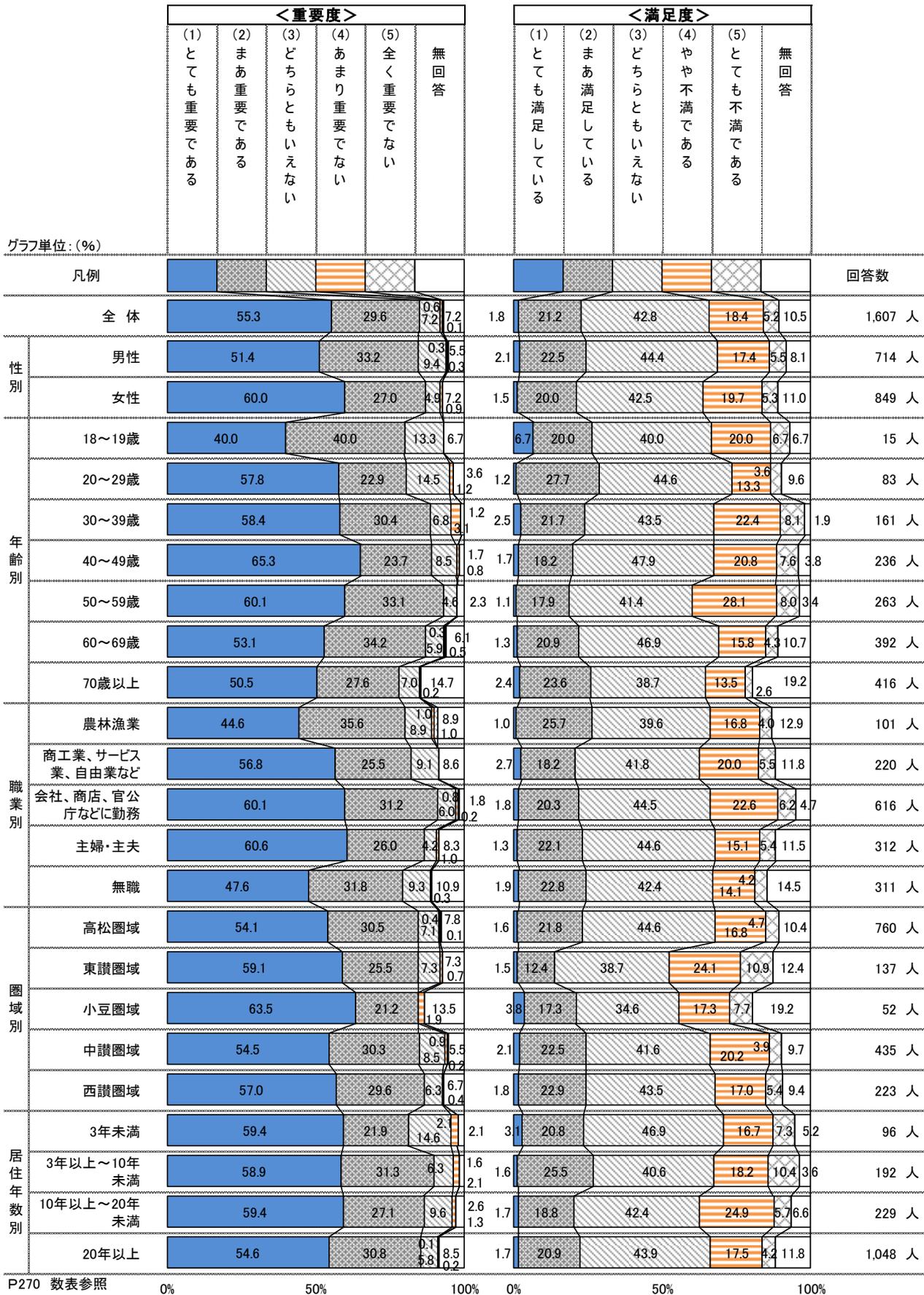
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合（26.7%）は同率となっており、『20～29歳』、『60～69歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合（22.6%）が【不満である】の割合（21.7%）を上回り、その他の居住年数においては【不満である】が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(10) 【安心できる医療・介護の充実確保】



地域福祉の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.5%、『女性』78.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『20～29歳』（69.8%）を除くすべての年代で7割を超え、『50～59歳』において81.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において80.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で7割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で7割を超え、『20年以上』において77.5%と最も高くなっている。

地域福祉の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（18.8%）が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（15.0%）を上回り、『女性』においては【満足している】と【不満である】の割合（17.4%）が同率となっている。

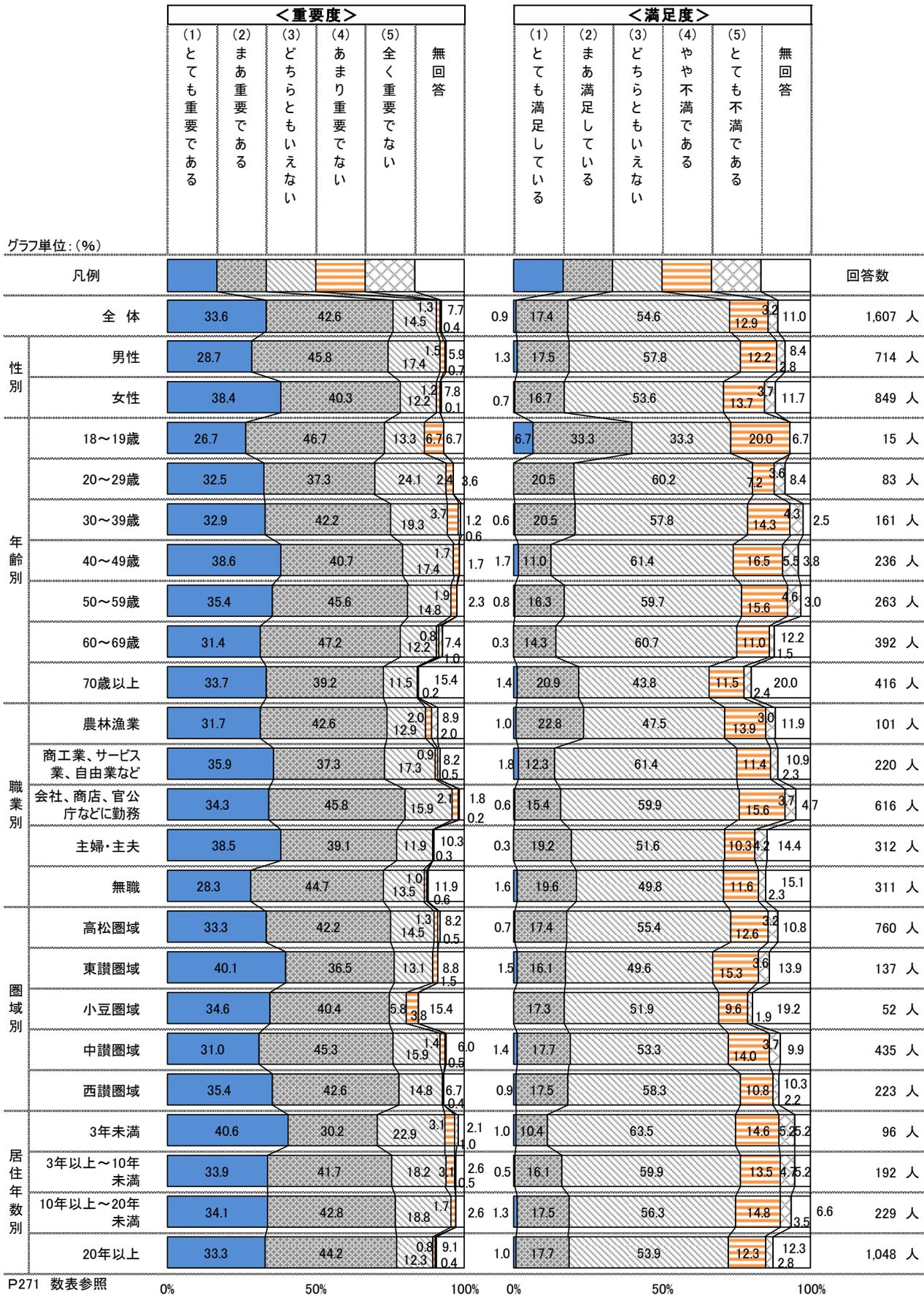
年齢別にみると、『40～49歳』及び『50～59歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【不満である】の割合（19.3%）が【満足している】の割合（16.0%）を上回り、その他の職業については【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合（18.9%）が【満足している】の割合（17.6%）を上回り、その他の圏域については【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』及び『20年以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の居住年数については【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(11) 【地域福祉の推進】



人権尊重社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』（48.8%）、『女性』（57.3%）と、いずれも半数程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『40～49歳』において59.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』を除くすべての職業で半数を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において57.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で半数を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で半数を超え、あまり大きな差はみられなかった。

人権尊重社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

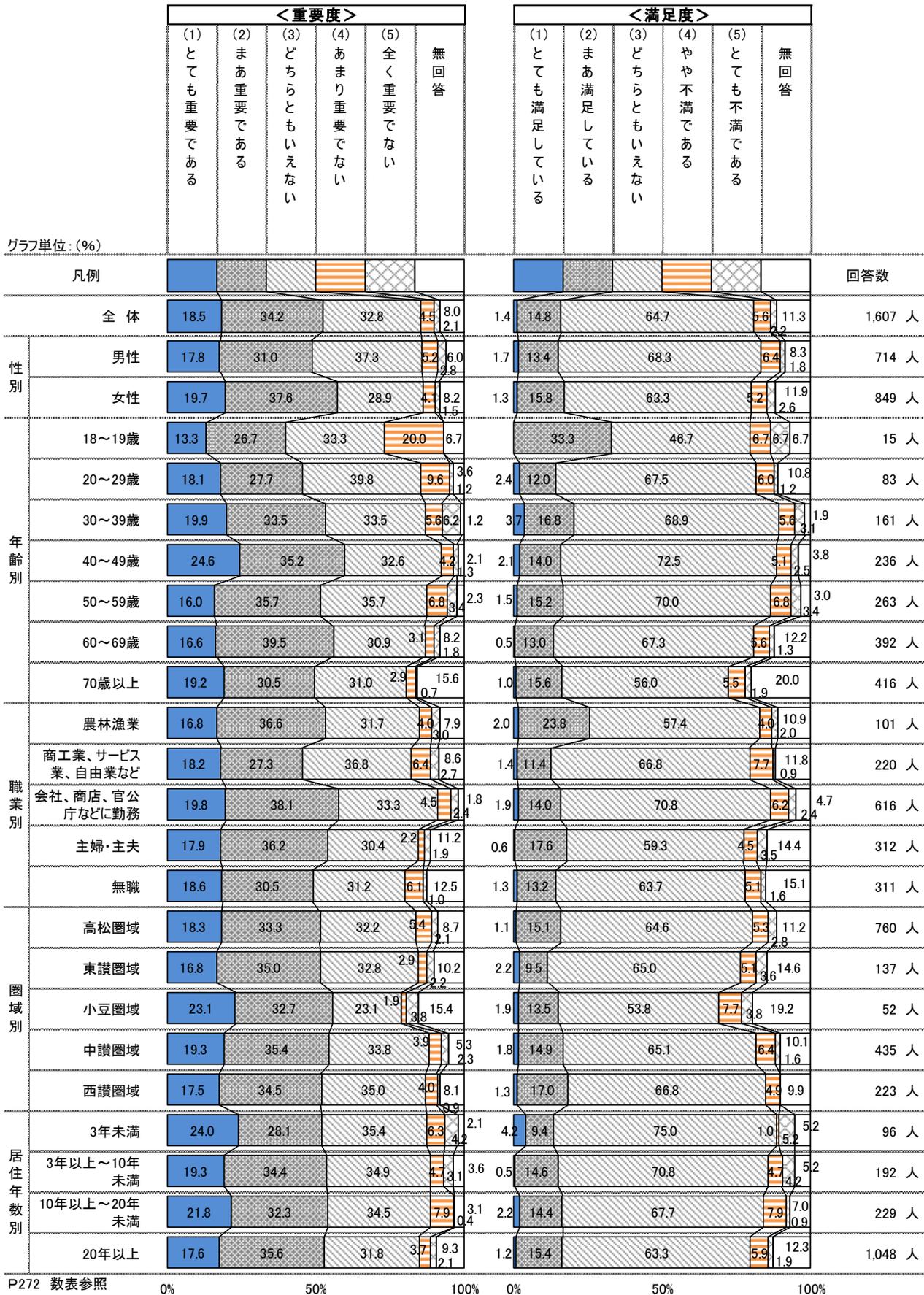
年齢別にみると、すべての年代において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(12) 【人権尊重社会の実現】



防災・減災社会の構築【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.5%、『女性』85.2%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で7割を超え、『40～49歳』において93.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において92.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で8割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において91.1%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築【満足度】について、

性別にみると『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っている。

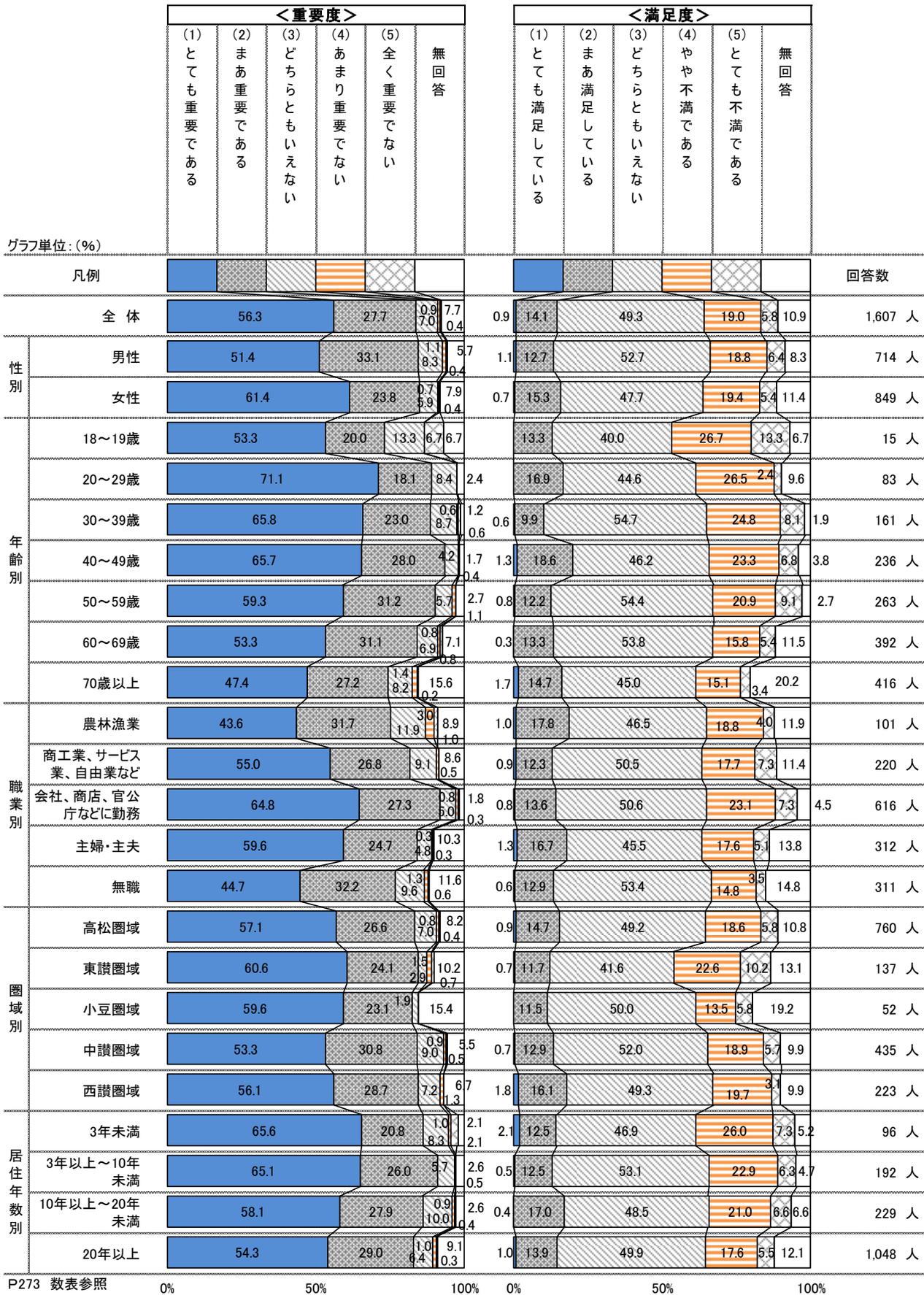
年齢別にみると、すべての年代において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(13) 【防災・減災社会の構築】



安全・安心な暮らしの形成【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.8%、『女性』81.9%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』（46.7%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において89.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『西讃圏域』（79.4%）を除くすべての圏域で8割を超え、『東讃圏域』において84.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において90.1%と最も高くなっている。

安全・安心な暮らしの形成【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（20.5%）が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（20.1%）を上回り、『女性』においては【満足している】の割合（19.9%）が【不満である】の割合（18.9%）を上回っている。

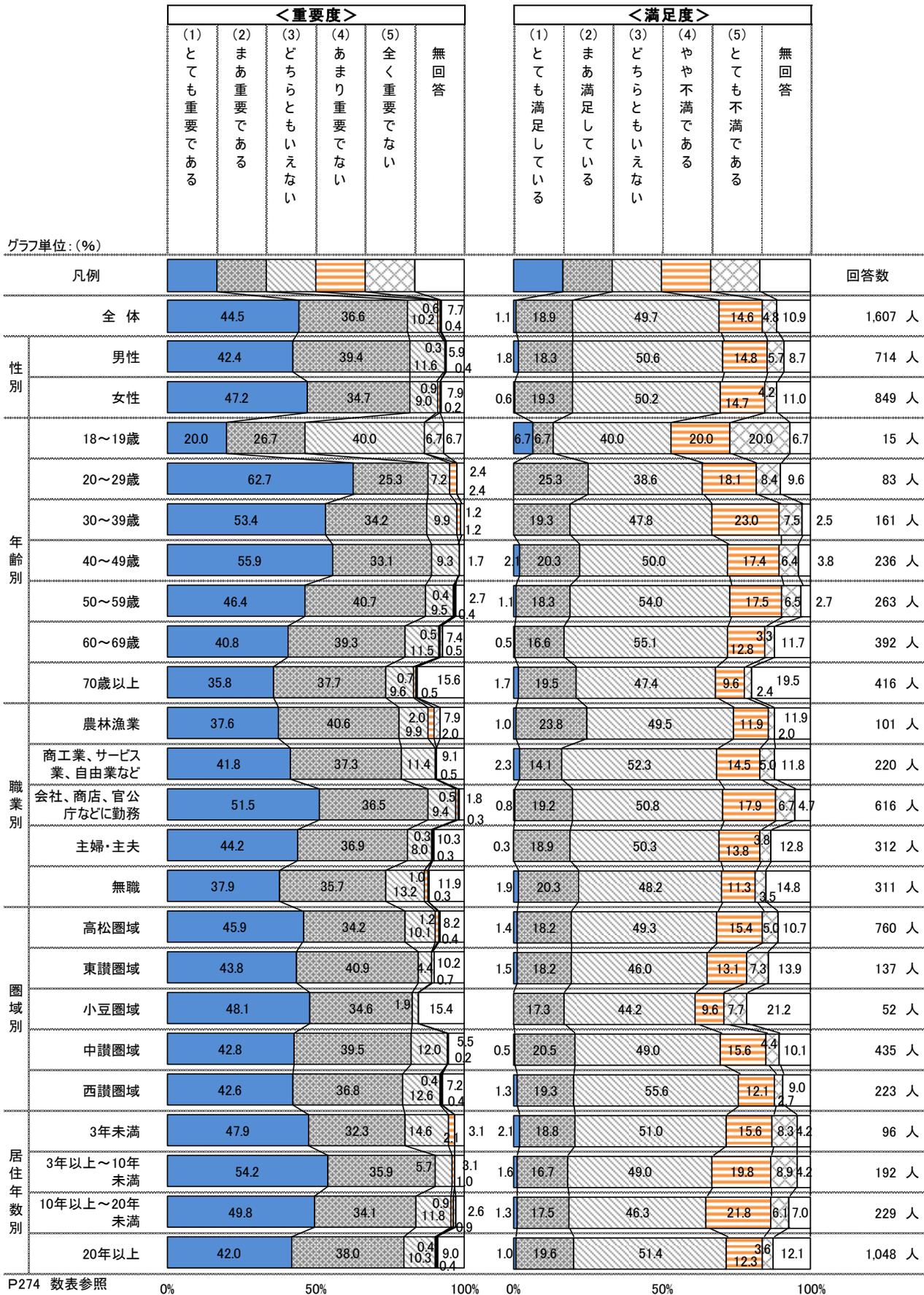
年齢別にみると、『60～69歳』及び『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合（17.3%）は同率となっており、『中讃圏域』、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合（20.6%）が【不満である】の割合（15.9%）を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(14) 【安全・安心な暮らしの形成】



安心して暮らせる水循環社会の確立【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.1%、『女性』84.2%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で7割を超え、『50～59歳』において90.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において89.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』（76.9%）を除くすべての圏域で8割を超え、『中讃圏域』において84.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で8割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

安心して暮らせる水循環社会の確立【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

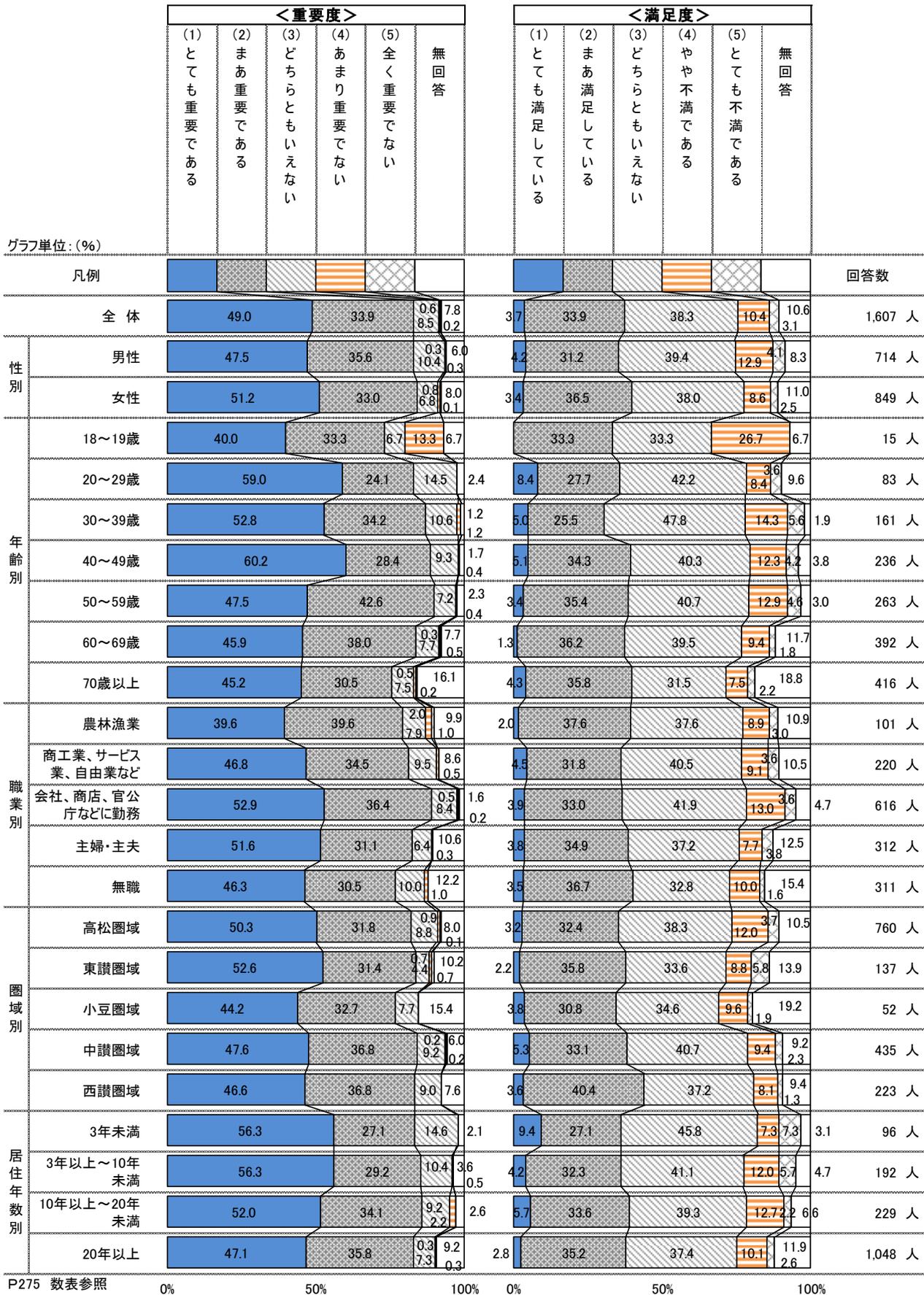
年齢別にみると、すべての年代において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(15) 【安心して暮らせる水循環社会の確立】



活力ある地域づくり【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.9%、『女性』71.6%と、いずれも7割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で6割を超え、『50～59歳』において76.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『農林漁業』において82.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、『西讃圏域』において74.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で6割を超え、『20年以上』において72.1%と最も高くなっている。

活力ある地域づくり【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（19.2%）が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（11.9%）を上回り、『女性』においては【満足している】の割合（16.1%）が【不満である】の割合（13.1%）を上回っている。

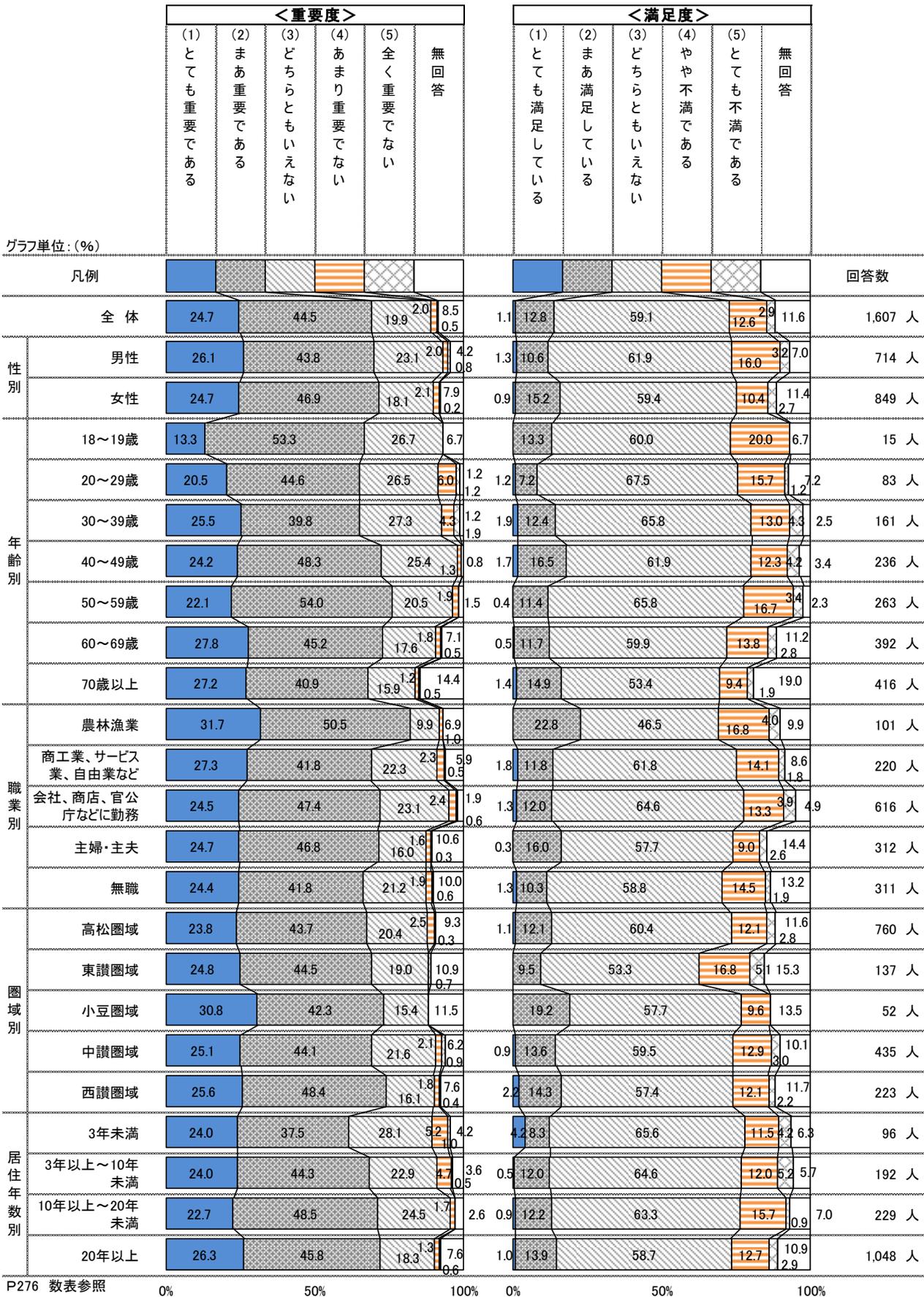
年齢別にみると、『40～49歳』及び『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』及び『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』及び『西讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(16) 【活力ある地域づくり】



環境の保全【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.9%、『女性』72.1%と、いずれも7割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で6割を超え、『50～59歳』において76.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で6割を超え、『農林漁業』において75.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で6割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において72.9%と最も高くなっている。

環境の保全【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

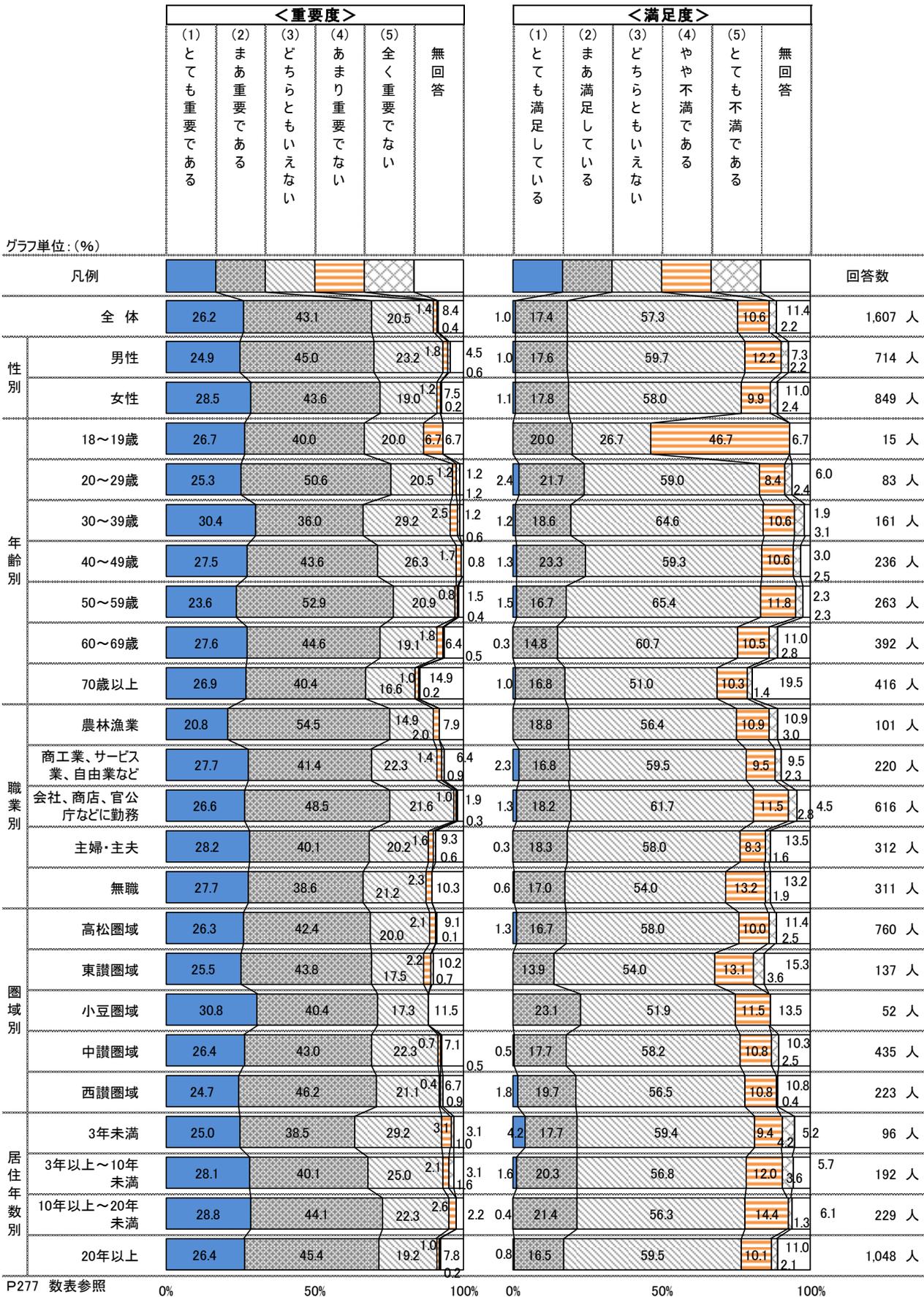
年齢別にみると、『18～19歳』において、【不満である】の割合（46.7%）が【満足している】の割合（20.0%）を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において【不満である】の割合（16.7%）が【満足している】の割合（13.9%）を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(17) 【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』52.4%、『女性』60.3%と、いずれも半数程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『20～29歳』（48.2%）を除くすべての年代において半数を超え、『60～69歳』において59.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で半数を超え、『農林漁業』において66.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で半数を超え、『小豆圏域』において61.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、すべての居住年数で半数を超え、『20年以上』において58.1%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

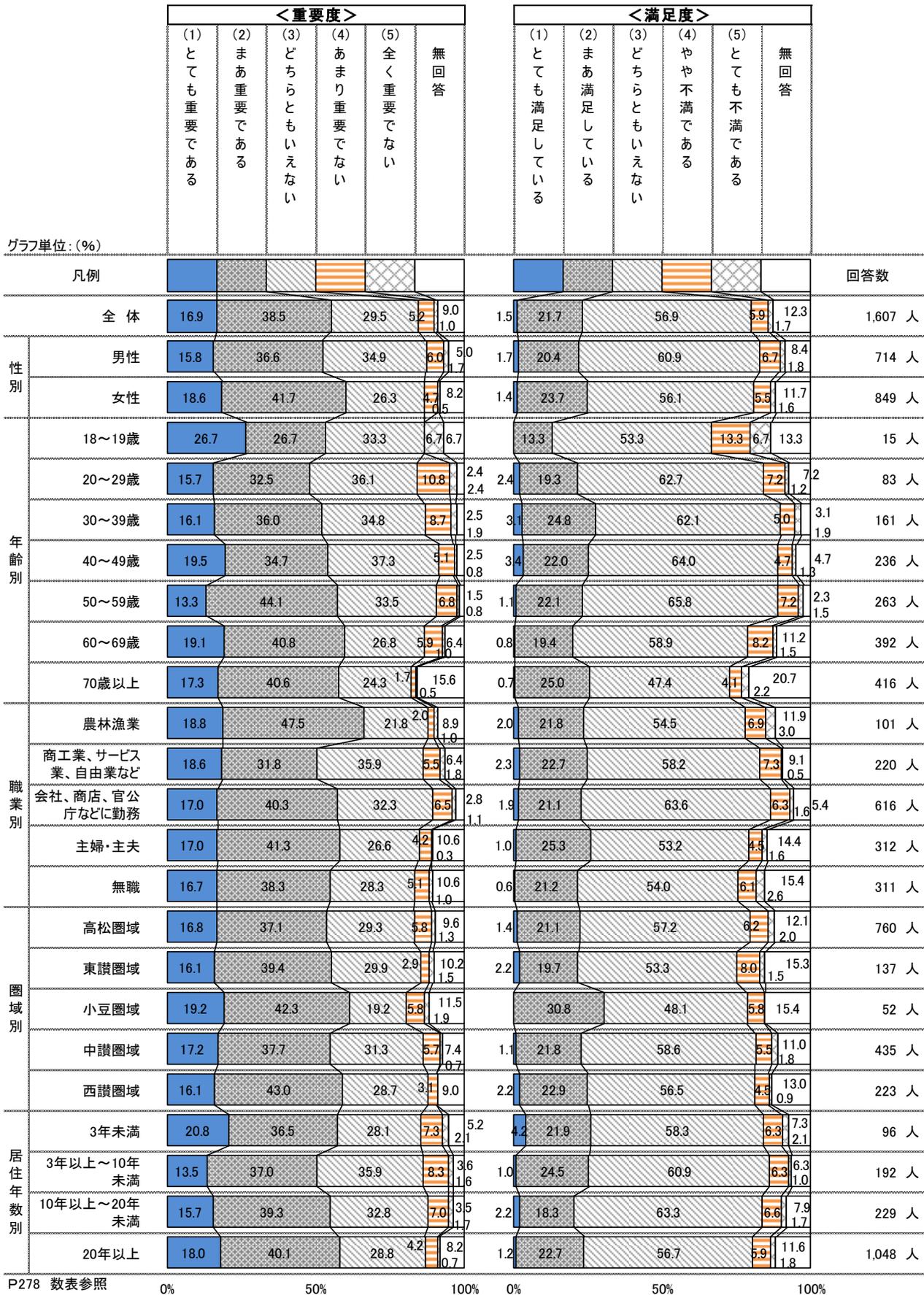
年齢別にみると、『18～19歳』において、【不満である】の割合（20.0%）が【満足している】の割合（13.3%）を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(18) 【みどり豊かな暮らしの創造】



P278 数表参照

教育の充実【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.2%、『女性』80.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』（66.7%）を除くすべての年代で7割を超え、『50～59歳』において86.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で7割を超え、『小豆圏域』において88.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（76.1%）を除くすべての居住年数で8割を超え、『10年以上～20年未満』において83.8%と最も高くなっている。

教育の充実【重要度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

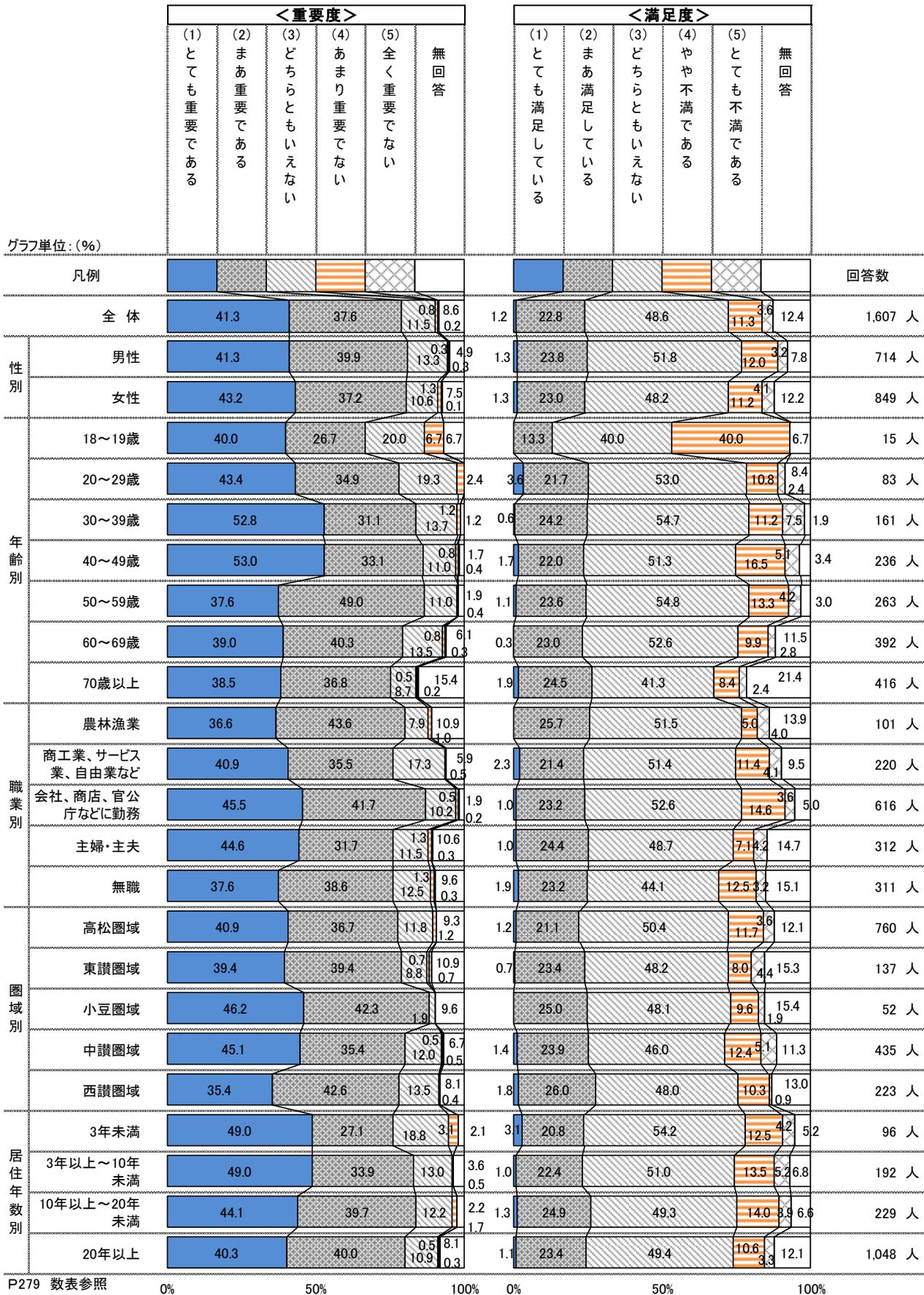
年齢別にみると、『18～19歳』において、【不満である】の割合（40.0%）が【満足している】の割合（13.3%）を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(19) 【教育の充実】



文化芸術による地域の活性化【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』（49.7%）、『女性』（56.8%）と、いずれも半数程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』及び『30～39歳』を除くすべての年代で半数を超え、『40～49歳』において58.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で半数を超え、あまり大きな差はみられなかった。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『東讃圏域』（48.9%）を除くすべての圏域で半数を超え、『小豆圏域』において61.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（45.9%）を除くすべての居住年数で半数を超え、『10年以上～20年未満』において57.7%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

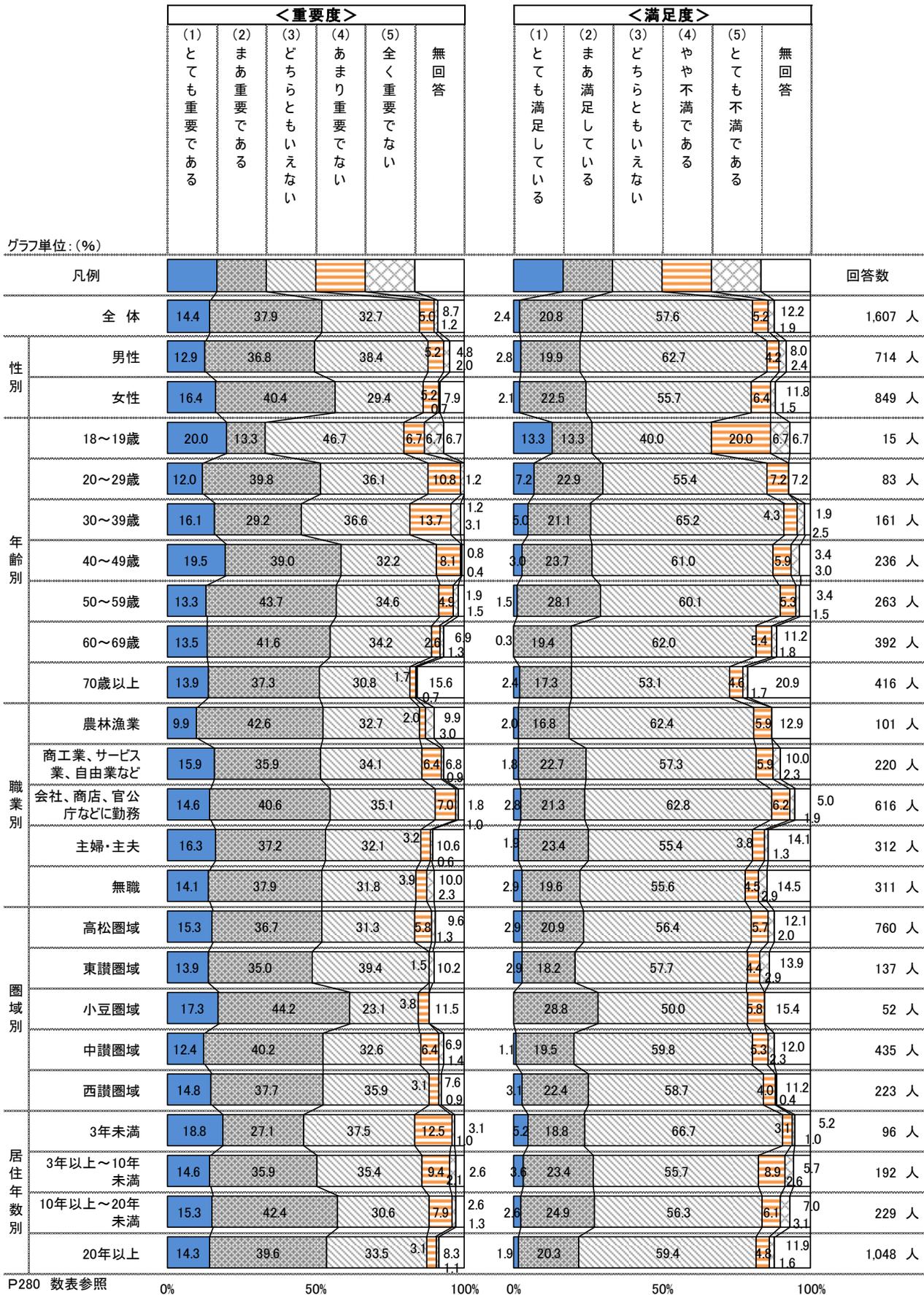
年齢別にみると、『18～19歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(20) 【文化芸術による地域の活性化】



スポーツの振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.6%、『女性』57.8%と、いずれも半数を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、すべての年代で半数を超え、『40～49歳』において63.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』（49.1%）を除くすべての職業で半数を超え、『農林漁業』において61.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『東讃圏域』（49.1%）を除くすべての圏域で半数を超え、『小豆圏域』において61.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（49.0%）を除くすべての居住年数で半数を超え、『3年以上～10年未満』において58.8%と最も高くなっている。

スポーツの振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

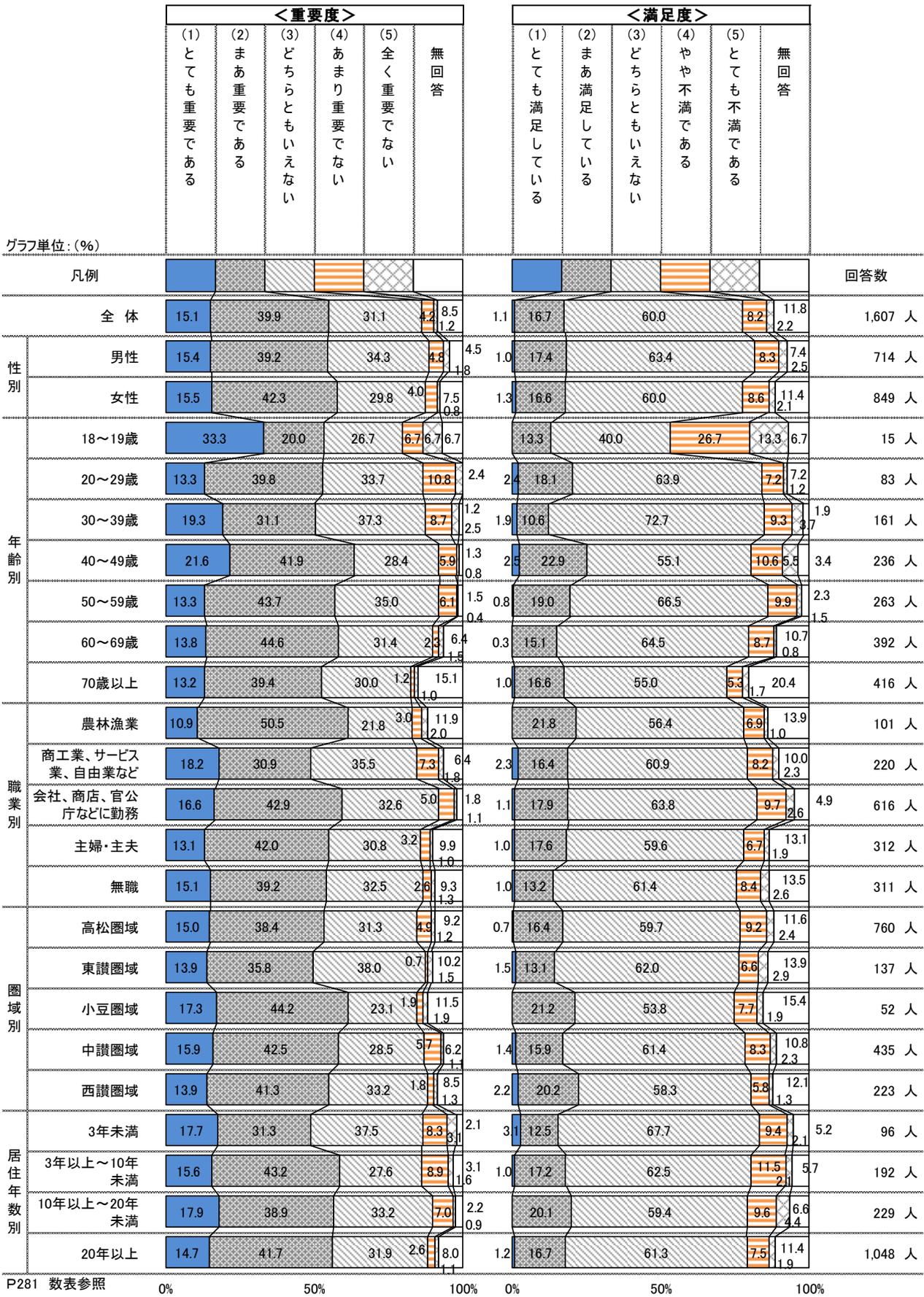
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(21) 【スポーツの振興】



男女共同参画社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』（57.4%）、『女性』（64.5%）と、いずれも6割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』及び『70歳以上』を除くすべての年代で6割を超え、『40～49歳』において69.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、すべての職業で半数を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において66.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で半数を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『20年以上』（59.4%）を除くすべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において66.8%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合（12.9%）が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合（11.8%）を上回り、『女性』においては【不満である】の割合（13.9%）が【満足している】の割合（13.2%）を上回っている。

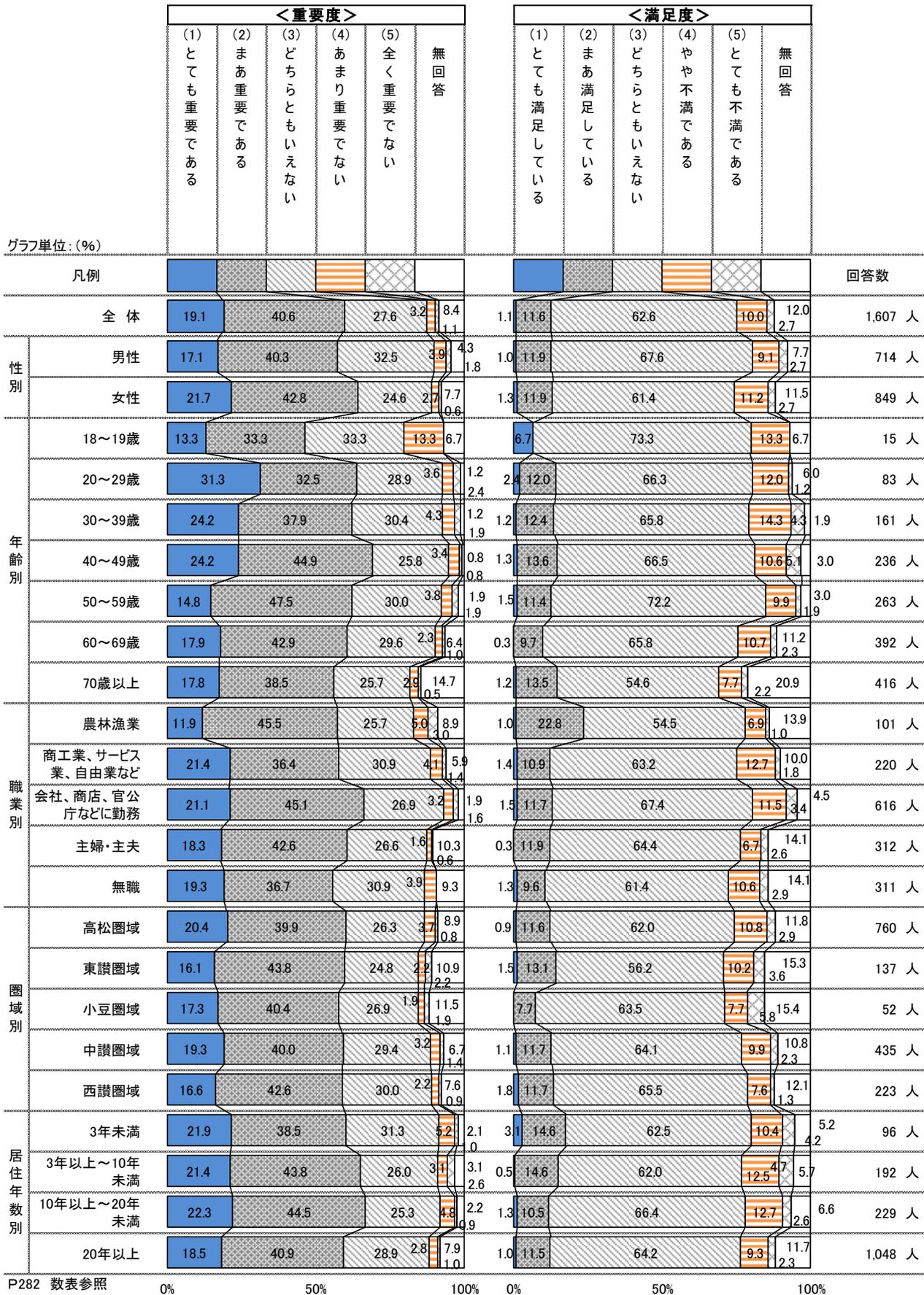
年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』、『70歳以上』において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、他の圏域では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(22) 【男女共同参画社会の実現】



P282 数表参照

青少年の育成と県民の社会参画の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.7%、『女性』64.7%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』（46.6%）を除くすべての年代で半数を超え、『70歳以上』において67.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』（59.6%）を除くすべての職業で6割を超え、『農林漁業』において67.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『東讃圏域』（59.8%）を除くすべての圏域で6割を超え、あまり大きな差はみられなかった。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（48.9%）を除くすべての圏域で半数を超え、『10年以上～20年未満』において65.0%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

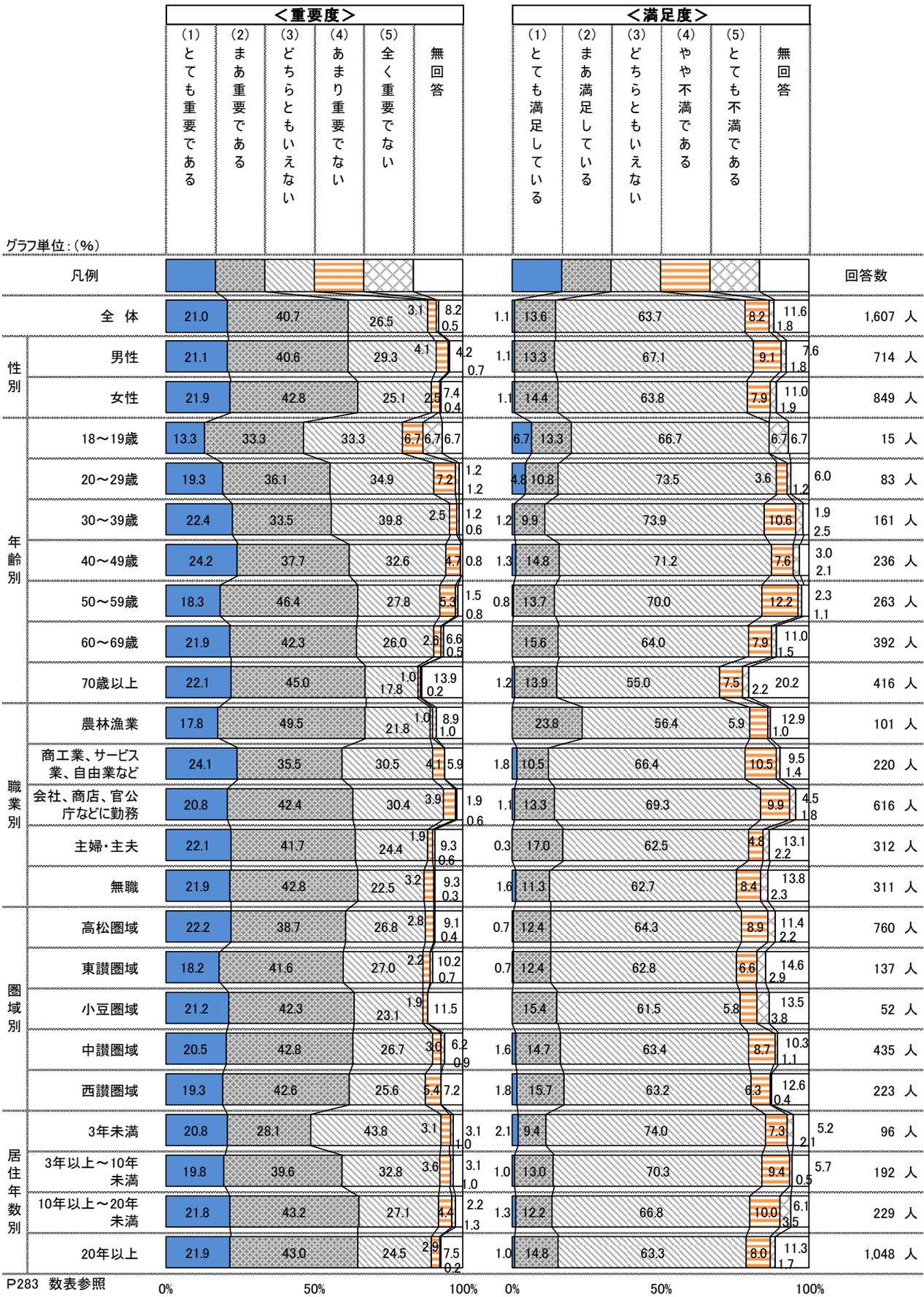
年齢別にみると、『30～39歳』において、【不満である】の割合（13.1%）が【満足している】の割合（11.1%）を上回り、その他の年代においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合（13.5%）は同率となっており、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(23) 【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



魅力ある大学づくり【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』56.6%、『女性』59.2%と、いずれも半数を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『30～39歳』（47.8%）を除くすべての年代で半数を超え、『18～19歳』において66.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、すべての職業で半数を超え、【重要である】の割合は、『農林漁業』において62.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、すべての圏域で半数を超え、『小豆圏域』において61.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』（44.8%）を除くすべての居住年数で半数を超え、『20年以上』において60.2%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくり【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において、【満足している】の割合（18.7%）が【不満である】の割合（11.3%）を上回り、その他の年代においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』及び『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合（12.6%）は同率となっており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合（14.3%）が【不満である】の割合（12.6%）を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合（14.2%）が【不満である】の割合（14.1%）を上回り、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(24) 【魅力ある大学づくり】

